

赤穂市
子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査
結果報告書
(平成31年3月19日現在)

平成31年3月

赤 穂 市

目 次

1 調査の概要.....	1
1-1 調査の目的.....	1
1-2 概要.....	1
1-3 報告書の見方.....	1
2 調査結果.....	2
2-1 お子さんご家族の状況について.....	2
2-2 お子さんの保護者の就労状況について.....	27
2-3 平日の定期的な教育・保育事業の利用について.....	35
2-4 地域子育て支援事業の利用について.....	46
2-5 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用について.....	54
2-6 病気の際の対応について.....	62
2-7 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	68
2-8 小学校就学後の放課後の過ごし方について.....	77
2-9 小学校での放課後の過ごし方について.....	81
2-10 小学校就学後の長期休暇中の過ごし方について.....	86
2-11 育児と就労の両立について.....	88
2-12 お子さんの安全について.....	100
2-13 赤穂市での子育てについて.....	102

1 調査の概要

1-1 調査の目的

この調査は、赤穂市内の就学前や小学生のお子さんがある世帯の保護者の方々を対象として、赤穂市における子育てに関する現状や、子育て支援サービスの利用希望などを把握することを目的として実施しました。

1-2 概要

- 調査地域：赤穂市全域
- 調査対象者：市内在住の「就学前児童」の保護者（就学前児童対象調査）
市内在住の「小学1～5年生児童」の保護者（小学生対象調査）
- 調査期間：平成31年1月23日（水）～平成31年2月6日（水）
- 調査方法：就学前児童…幼稚園・保育所を通じた直接配布・回収および郵送による配付・回収
小学生…小学校を通じた直接配布・回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
就学前児童	1,037 件	800 件	77.1%
小学生	1,518 件	1,445 件	95.2%
合計	2,555 件	2,245 件	87.9%

1-3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効回収数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、1つの選択肢を選ぶ場合（単数回答）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ場合（複数回答）、選択肢ごとに回答数の割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、もしくは回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、設問の対象となる回答者の総数（あるいは回答者を限定する設問に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 報告書中の、★印がついた調査結果はクロス集計の結果を掲載しています。
- クロス集計結果は、第1位を灰色背景で表示しています。
- クロス集計結果は、不明・無回答を除くため、表に記載している回答者総数（N）の合計が有効回収数と一致しない場合があります。

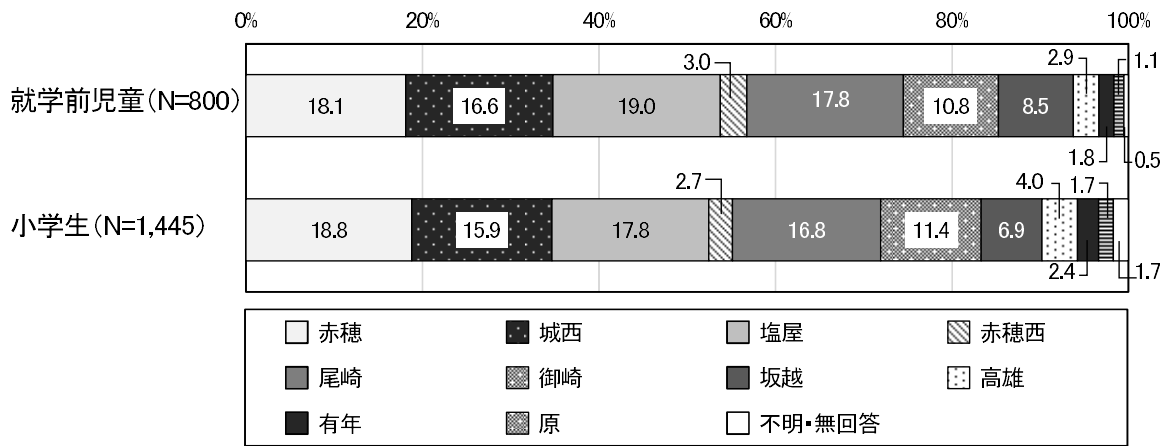
2 調査結果

2-1 お子さんご家族の状況について

(1) お住まいの小学校区はどちらですか。〈単数回答〉【就学前児童・小学生:問1】

小学校区についてみると、就学前児童では「塩屋」が19.0%で最も高く、次いで「赤穂」が18.1%、「尾崎」が17.8%となっています。

小学生では「赤穂」が18.8%で最も高く、次いで「塩屋」が17.8%、「尾崎」が16.8%となっています。

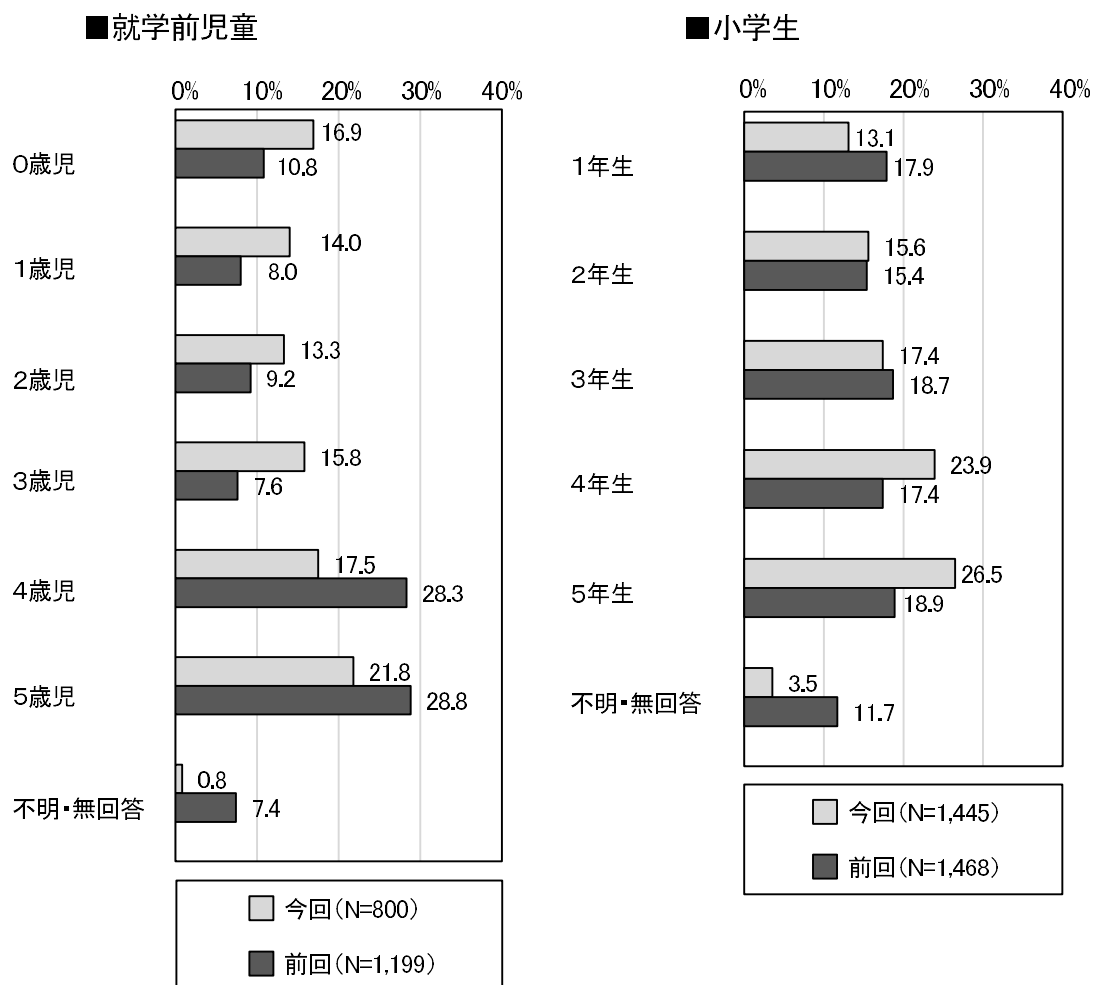


(2)調査票を受け取ったお子さんの生年月をご記入ください。〈数量回答〉【就学前児童・小学生:問2】

子どもの年齢についてみると、就学前児童では、「5歳児」が21.8%で最も高く、次いで「4歳児」が17.5%、「0歳児」が16.9%となっています。前回結果と比較すると、0～3歳児の回答が多く、4・5歳児の回答が少なくなっています。

小学生では、「5年生」が26.5%で最も高く、次いで「4年生」が23.9%、「3年生」が17.4%となっています。前回結果と比較すると、1年生の回答が若干少なく、4・5年生の回答が多くなっています。2・3年生は大きな違いはみられません。

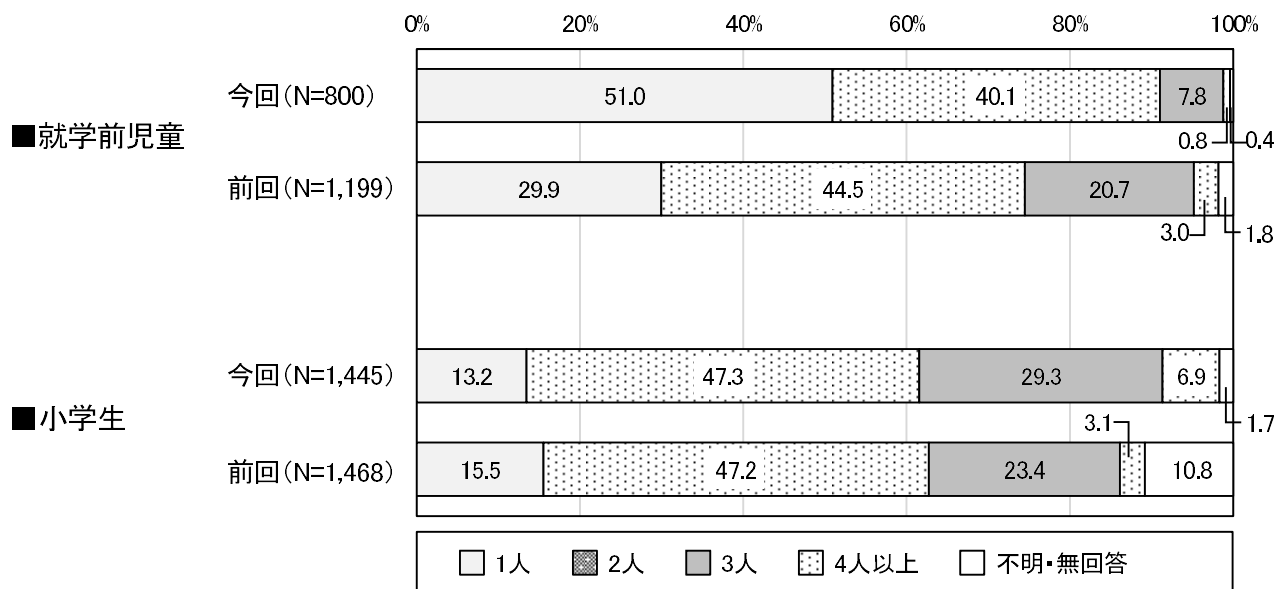
【平成30年4月1日現在】



(3)お子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。〈数量回答〉【就学前児童・小学生:問3】

きょうだいの数についてみると、就学前児童では「1人」が51.0%、「2人」が40.1%、「3人」が7.8%、「4人以上」が0.8%となっています。前回結果と比較した場合、「1人」が21.1ポイント高く、「3人」が12.9ポイント低くなっています。

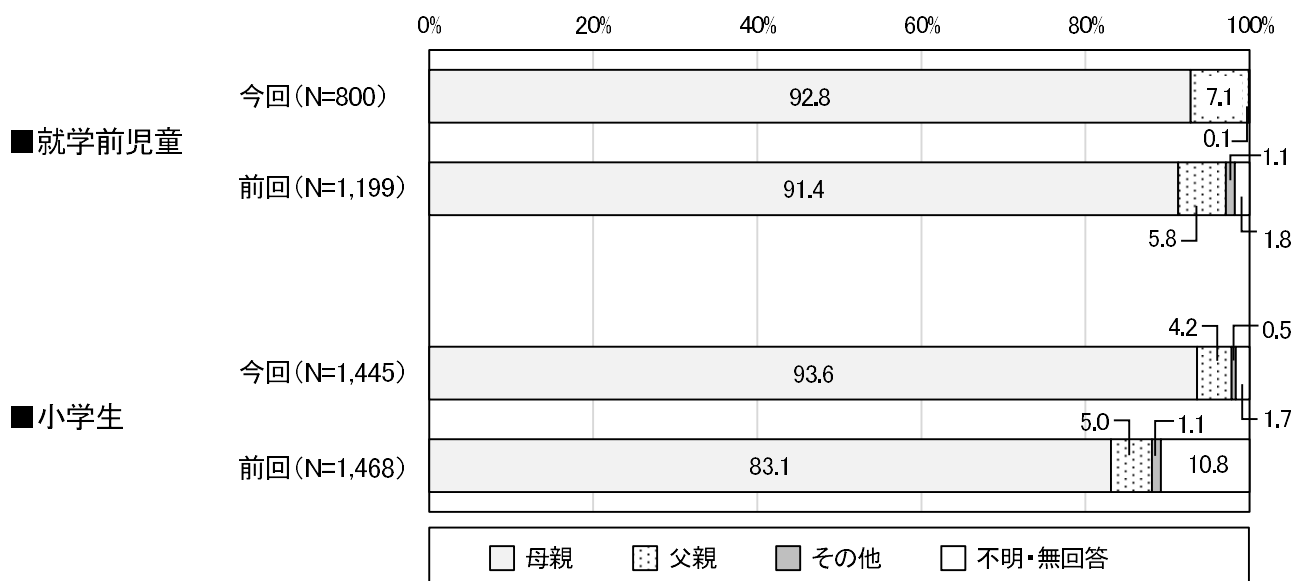
小学生では「1人」が13.2%、「2人」が47.3%、「3人」が29.3%、「4人以上」が6.9%となっています。前回結果と比較した場合、「3人」が5.9ポイント、「4人以上」が3.8ポイント高くなっています。



(4)この調査票にご回答いただく方はどなたですか。〈単数回答〉【就学前児童・小学生:問4】

調査票の回答者についてみると、就学前児童では「母親」が92.8%、「父親」が7.1%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

小学生では「母親」が93.6%、「父親」が4.2%となっています。前回結果と比較した場合、「母親」が高くなっています。

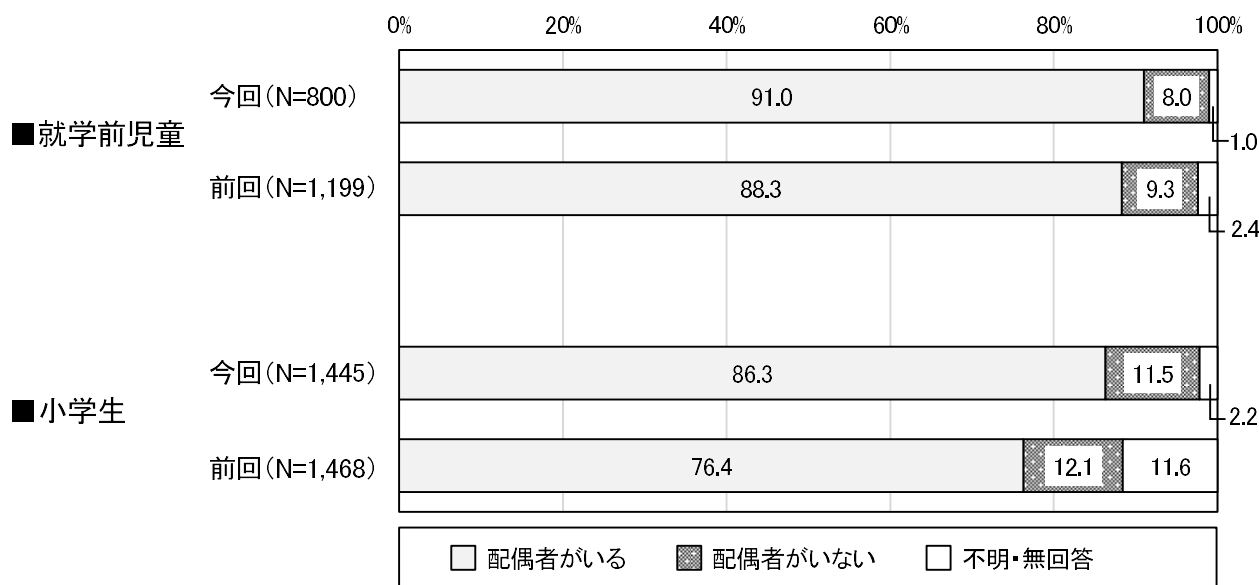


(5)この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。〈単数回答〉

【就学前児童・小学生:問5】

回答者世帯の配偶関係についてみると、就学前児童では「配偶者がいる」が91.0%、「配偶者がいない」が8.0%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

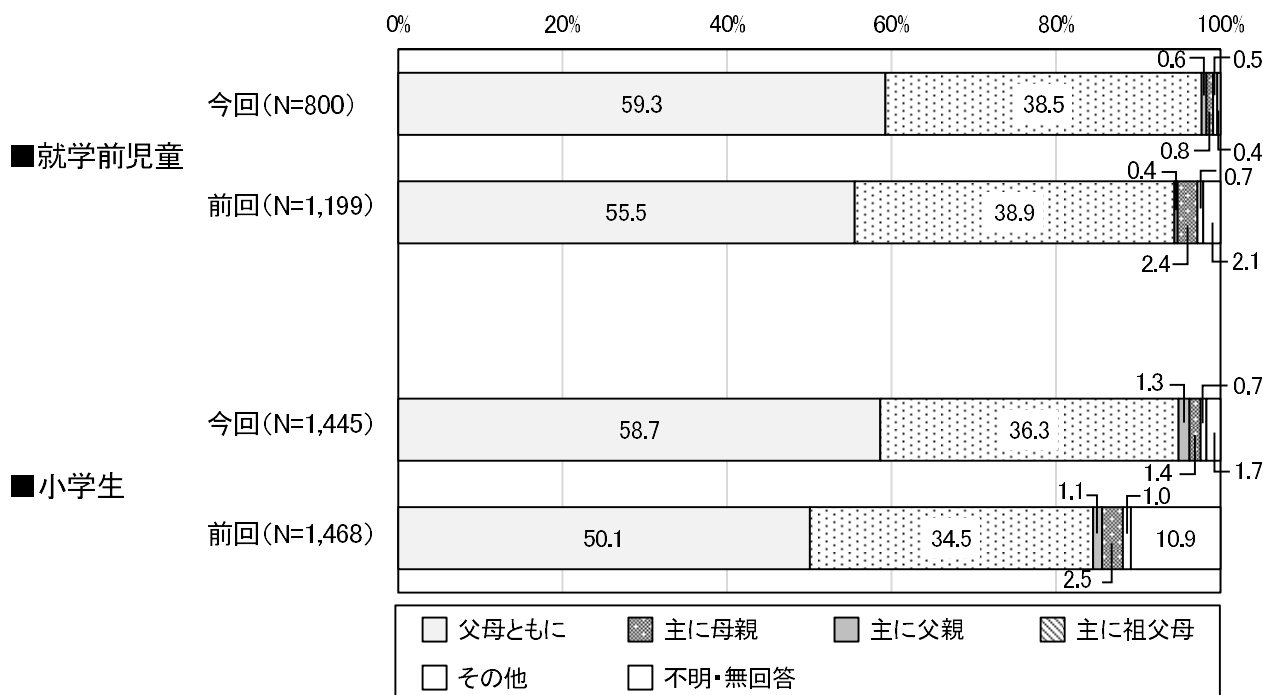
小学生では「配偶者がいる」が86.3%、「配偶者がいない」が11.5%となっています。前回結果と比較した場合、「配偶者がいる」が高くなっています。



(6)お子さんの子育てや教育を主に行っているのはどなたですか。〈単数回答〉 【就学前児童・小学生:問6】

子育てや教育を主に行っている人についてみると、就学前児童では「父母ともに」が59.3%で最も高く、次いで「主に母親」が38.5%となっています。

小学生では「父母ともに」が58.7%で最も高く、次いで「主に母親」が36.3%となっています。前回結果と比較した場合、「父母ともに」の割合が就学前児童では3.8ポイント、小学生では8.6ポイント高くなっています。



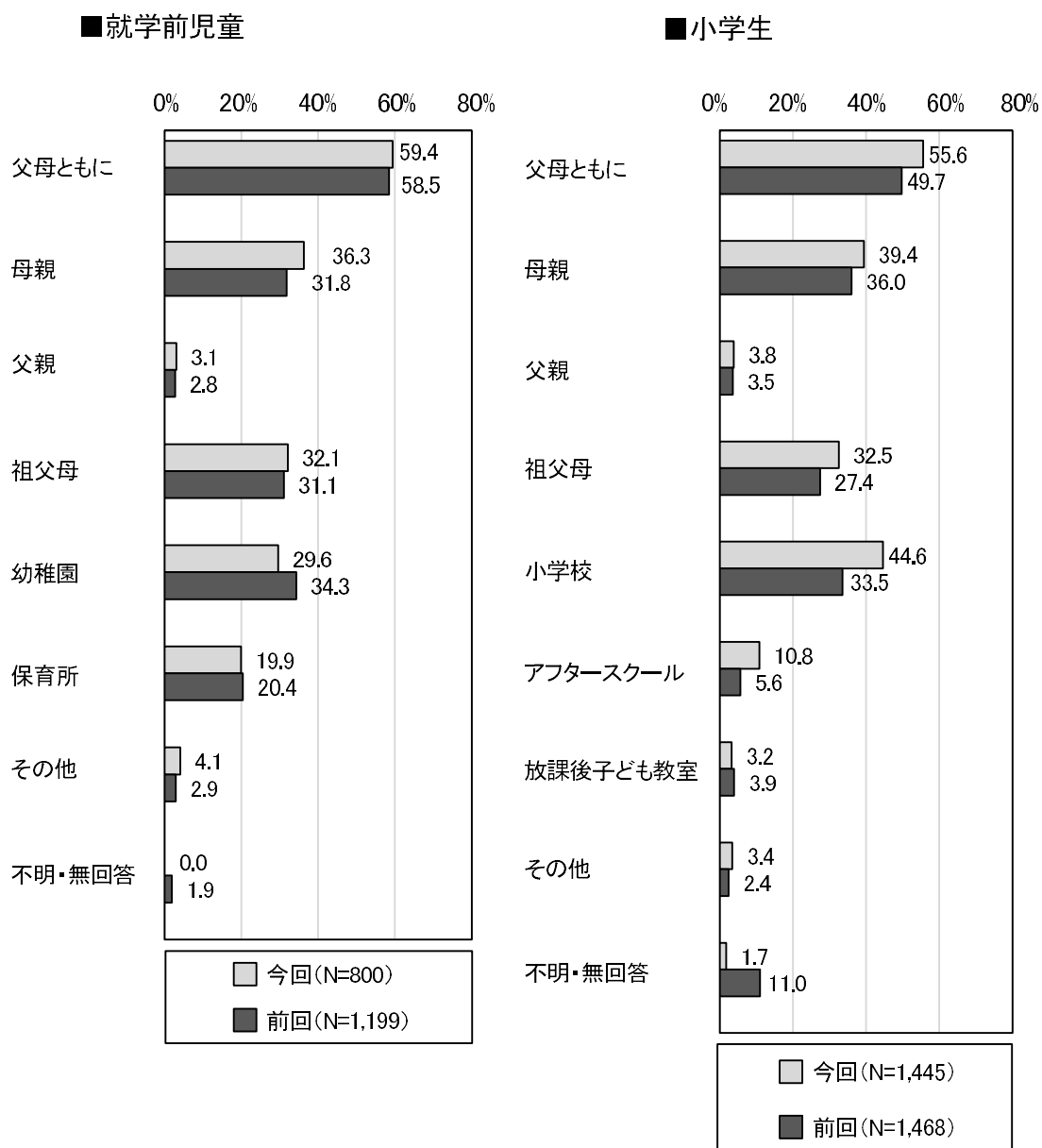
(7)お子さんの子育てや教育に日常的に関わっている方はどなた(施設)ですか。〈複数回答〉

【就学前児童・小学生:問7】

子育てや教育に日常的に関わっている人・施設についてみると、就学前児童では「父母ともに」が59.4%で最も高く、次いで「母親」が36.3%、「祖父母」が32.1%となっています。前回結果と比較した場合、「幼稚園」が若干低くなっています。

小学生では「父母ともに」が55.6%で最も高く、次いで「小学校」が44.6%、「母親」が39.4%となっています。前回結果と比較した場合、「小学校」が高くなっています。

特に小学生において、「祖父母」や「アフタースクール」の割合が上昇していることから、子どもが小学生になることを機に共働きを始める世帯が増加していることがうかがえます。



★(7)×父子母子家庭別・家庭類型別(就学前児童)

就学前児童の結果について、父子母子家庭別でみると、[母子家庭]の場合に「祖父母」や「保育所」が[その他]と比べて20ポイント程度高くなっています。

また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭]をのぞく全ての家庭類型において「父母ともに」が最も高くなっていますが、[フルタイム×フルタイム]では、「祖父母」が41.0%となっています。また、[フルタイム×パートタイム(短時間)]では、「母親」が41.9%、[専業主婦(夫)]では、「母親」が40.6%となっています。

【就学前児童×父子母子家庭別・家庭類型別】

【就学前児童】 父子母子家庭別	父子家庭		母子家庭		その他	
	N=5		N=54		N=741	
	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	0	0.0	4	7.4	471	63.6
母親	0	0.0	45	83.3	245	33.1
父親	4	80.0	1	1.9	20	2.7
祖父母	1	20.0	30	55.6	226	30.5
幼稚園	0	0.0	18	33.3	219	29.6
保育所	3	60.0	20	37.0	136	18.4
その他	0	0.0	4	7.4	29	3.9
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0

【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭		フルタイム×フルタイム		（パートタイム×パートタイム） （長時間×長時間） （パートタイム×パートタイム）		（パートタイム×パートタイム） （短時間×短時間） （パートタイム×パートタイム）		（専業主婦） （夫）		無業×無業	
	N=59		N=188		N=136		N=31		N=340		N=3	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	4	6.8	132	70.2	98	72.1	17	54.8	197	57.9	2	66.7
母親	45	76.3	42	22.3	36	26.5	13	41.9	138	40.6	1	33.3
父親	5	8.5	5	2.7	3	2.2	1	3.2	11	3.2	0	0.0
祖父母	31	52.5	77	41.0	34	25.0	9	29.0	93	27.4	2	66.7
幼稚園	18	30.5	59	31.4	50	36.8	9	29.0	87	25.6	1	33.3
保育所	23	39.0	70	37.2	40	29.4	4	12.9	16	4.7	0	0.0
その他	4	6.8	5	2.7	3	2.2	2	6.5	13	3.8	2	66.7
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

★(7)×父子母子家庭別・家庭類型別(小学生)

小学生の結果について、父子母子家庭別でみると、[母子家庭]の場合に「祖父母」や「小学校」が[その他]と比べて高くなっています。また、件数は少ないものの、[父子家庭]では「父親」の割合が高く、[母子家庭]に比べ「小学校」や「アフタースクール」の割合が低くなっています。

家庭類型別でみると、[ひとり親家庭]をのぞく全ての家庭類型において「父母ともに」が最も高くなっていますが、[ひとり親家庭]や[フルタイム×フルタイム]の場合、「祖父母」や「アフタースクール」が高くなっています。

【小学生×父子母子家庭別・家庭類型別】

【小学生】 父子母子家庭別	父子家庭		母子家庭		その他	
	N=16		N=98		N=1,331	
	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	1	6.3	2	2.0	800	60.1
母親	3	18.8	93	94.9	473	35.5
父親	10	62.5	0	0.0	45	3.4
祖父母	7	43.8	59	60.2	403	30.3
小学校	3	18.8	61	62.2	581	43.7
アフタースクール	2	12.5	25	25.5	129	9.7
放課後子ども教室	0	0.0	2	2.0	44	3.3
その他	0	0.0	2	2.0	47	3.5
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	24	1.8

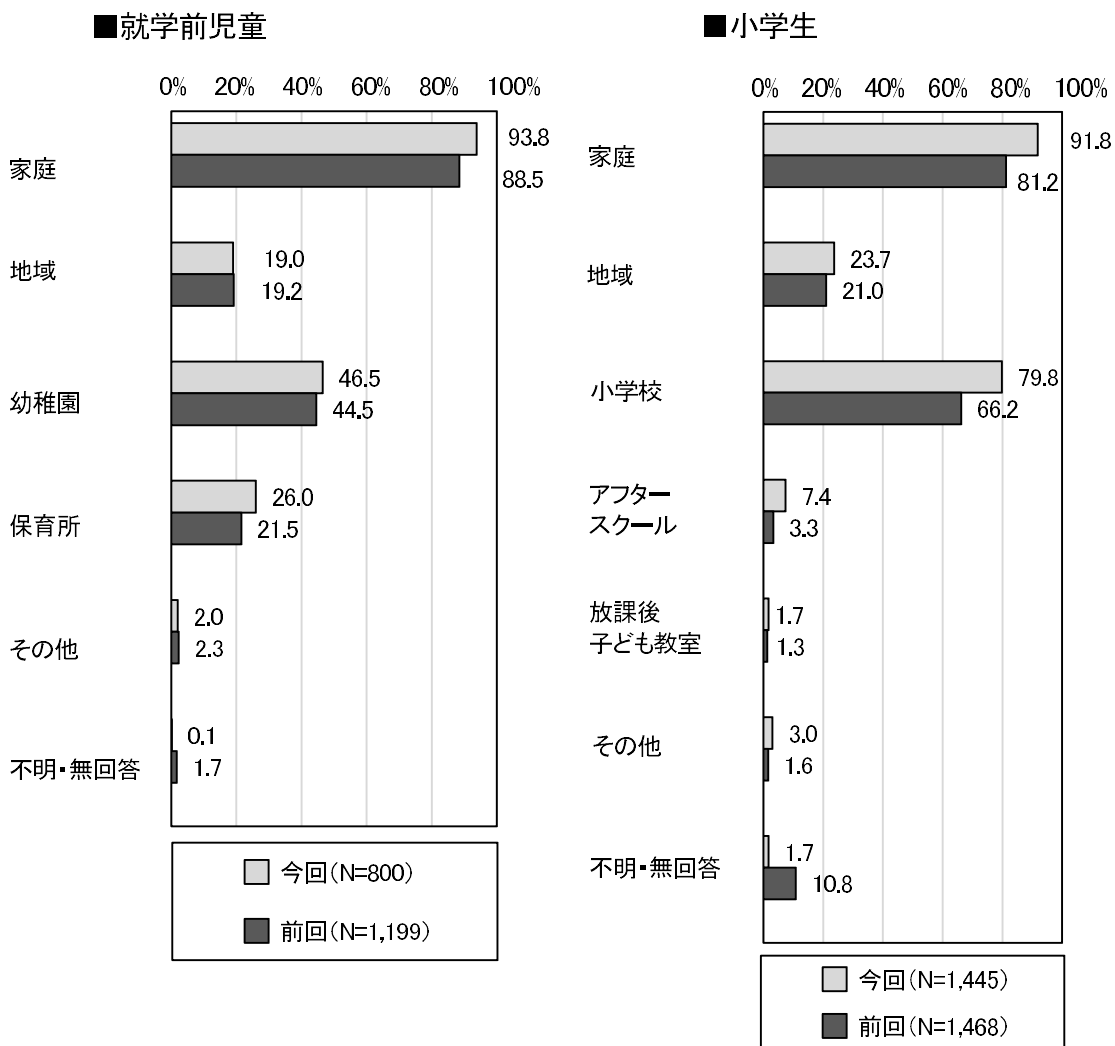
【小学生】 家庭類型別	ひとり親家庭		フルタイム×フルタイム		（パートタイム）フルタイム×フルタイム		（パートタイム）パートタイム×パートタイム		（専業主婦）パートタイム×パートタイム		ム×パートタイム×パートタイム		ム×パートタイム×パートタイム		無業×無業	
	N=114		N=315		N=450		N=161		N=276		N=2		N=2		N=1	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	3	2.6	215	68.3	286	63.6	95	59.0	165	59.8	2	100.0	1	50.0	1	100.0
母親	96	84.2	74	23.5	157	34.9	70	43.5	112	40.6	0	0.0	1	50.0	0	0.0
父親	10	8.8	10	3.2	13	2.9	3	1.9	8	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
祖父母	66	57.9	138	43.8	113	25.1	46	28.6	64	23.2	0	0.0	1	50.0	0	0.0
小学校	64	56.1	144	45.7	201	44.7	73	45.3	123	44.6	2	100.0	0	0.0	0	0.0
アフタースクール	27	23.7	81	25.7	37	8.2	2	1.2	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
放課後子ども教室	2	1.8	7	2.2	18	4.0	7	4.3	9	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	2	1.8	11	3.5	18	4.0	4	2.5	8	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	5	1.6	3	0.7	0	0.0	3	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0

(8)お子さんの子育てや教育に、最も大きく影響すると思われる環境はどれですか。〈複数回答〉

【就学前児童・小学生:問8】

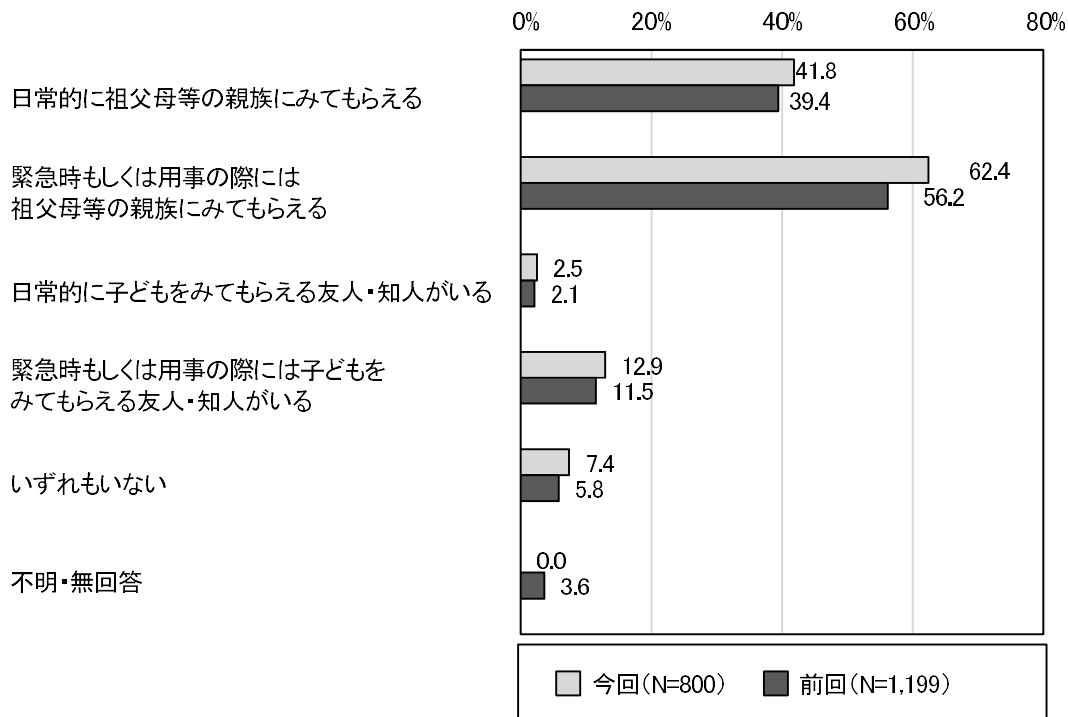
子育てや教育に最も大きく影響すると思われる環境についてみると、就学前児童では「家庭」が93.8%で最も高く、次いで「幼稚園」が46.5%、「保育所」が26.0%となっています。前回結果と比較した場合、「家庭」の割合が5.3ポイント高くなっています。

小学生では「家庭」が91.8%で最も高く、次いで「小学校」が79.8%、「地域」が23.7%となっています。前回結果と比較した場合、「家庭」が10.6ポイント、「小学校」が13.6ポイント高くなっています。



(9)日頃、お子さんを見てもらえる親族・知人はいますか。〈複数回答〉【就学前児童:問9】

子どもを見てもらえる親族・知人はいるかについてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に見てもらえる」が62.4%で最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族に見てもらえる」が41.8%、「緊急時もしくは用事の際には子どもを見てもらえる友人・知人がいる」が12.9%となっています。前回結果と比較した場合、「祖父母等の親族」、「友人・知人」に子どもを見てもらえると回答した人が増加した反面、「いずれもない」と回答した人も増加しています。



★(9)×父子母子家庭別・家庭類型別(就学前児童)

父子母子家庭別でみると、[母子家庭]の場合に「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が[その他]と比べて高くなっています。また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭]では「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が、それ以外の家庭類型では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高くなっています。

【就学前児童×父子母子家庭別・家庭類型別】

【就学前児童】 父子母子家庭別	父子家庭		母子家庭		その他	
	N=5		N=54		N=741	
	件数	%	件数	%	件数	%
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	1	20.0	32	59.3	301	40.6
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	3	60.0	26	48.1	470	63.4
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	0	0.0	1	1.9	19	2.6
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	1	20.0	12	22.2	90	12.1
いずれもない	0	0.0	1	1.9	58	7.8
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0

【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭		フルタイム×		（パートタイム）×		（パートタイム）×		（専業主婦）		無業×無業	
	N=59		N=188		N=136		N=31		N=340		N=3	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	33	55.9	78	41.5	47	34.6	12	38.7	148	43.5	2	66.7
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	29	49.2	111	59.0	93	68.4	20	64.5	215	63.2	2	66.7
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	1	1.7	4	2.1	3	2.2	1	3.2	11	3.2	0	0.0
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	13	22.0	11	5.9	15	11.0	4	12.9	55	16.2	0	0.0
いずれもない	1	1.7	15	8.0	8	5.9	3	9.7	26	7.6	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

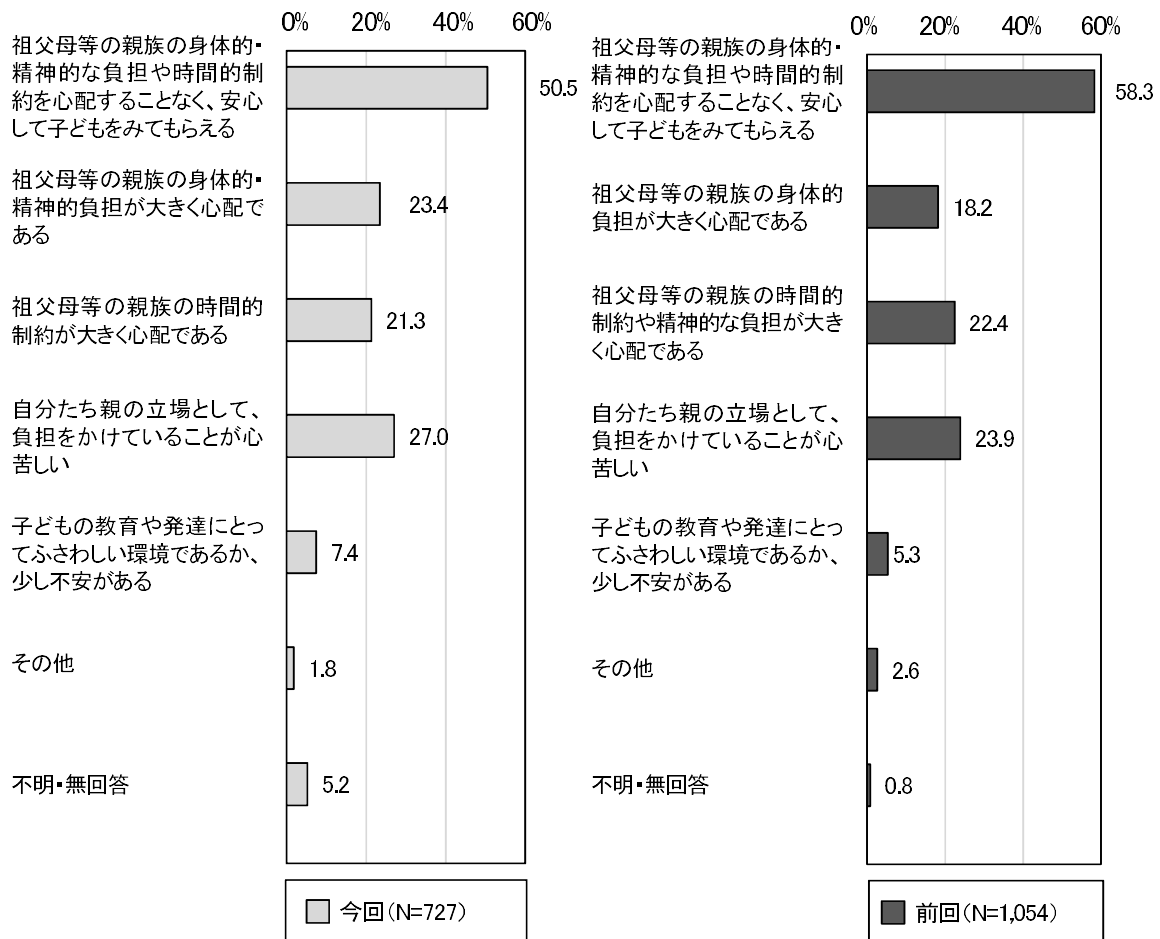
※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

(9)で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」を選択した場合のみ回答

(9-1)祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。〈複数回答〉

【就学前児童:問9-1】

祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況についてみると、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が50.5%で最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が27.0%、「祖父母等の親族の身体的・精神的負担が大きく心配である」が23.4%となっています。前回結果と比較した場合、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が7.8ポイント低くなっており、「祖父母等の親族の身体的・精神的負担が大きく心配である」「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」の割合も上昇しています。

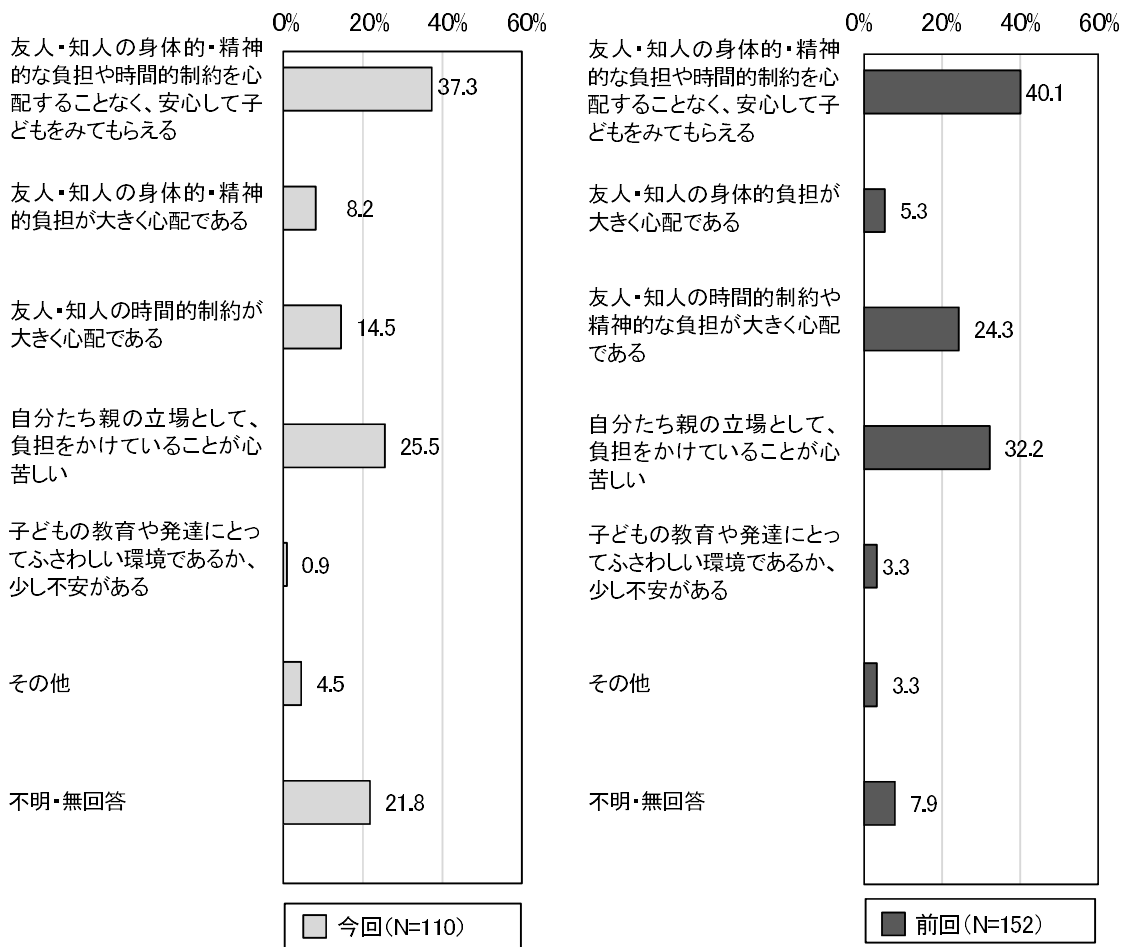


(9)で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」を選択した場合のみ回答

(9-2)友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。〈複数回答〉

【就学前児童:問9-2】

友人・知人に子どもをみてもらっている状況についてみると、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が37.3%で最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が25.5%、「友人・知人の時間的制約が大きく心配である」が14.5%となっています。前回結果と比較した場合、「友人・知人の時間的制約が大きく心配である」「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」の割合が低下しています。



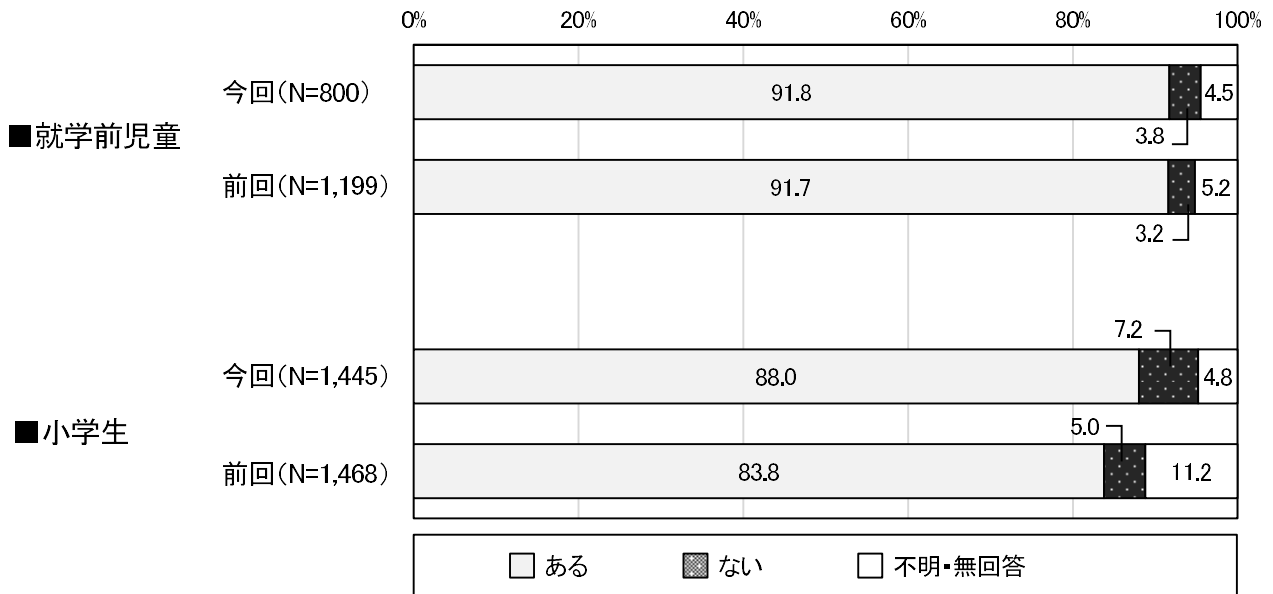
(10)お子さんの子育てや教育をする上で、気軽に相談できる先はありますか。〈単数回答〉

【就学前児童:問10、小学生:問9】

気軽に相談できる先の有無についてみると、就学前児童では「ある」が91.8%、「ない」が3.8%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

小学生では「ある」が88.0%、「ない」が7.2%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

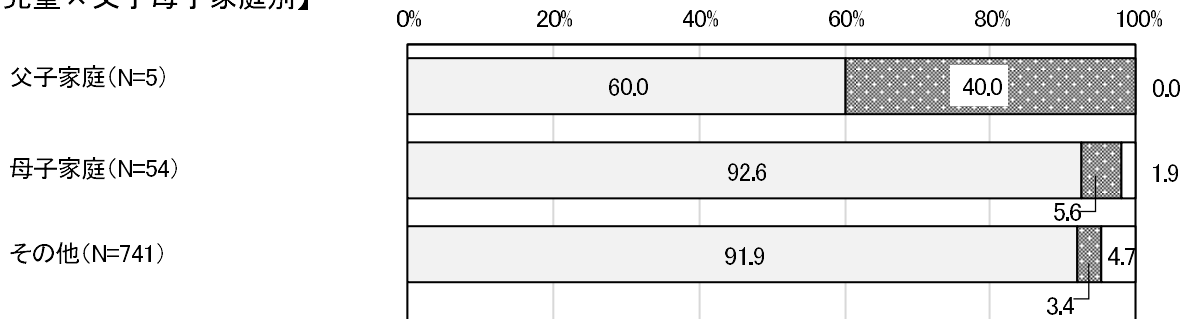
ただ、就学前児童、小学生ともに「ある」と回答しなかった人も約1割程度みられます。



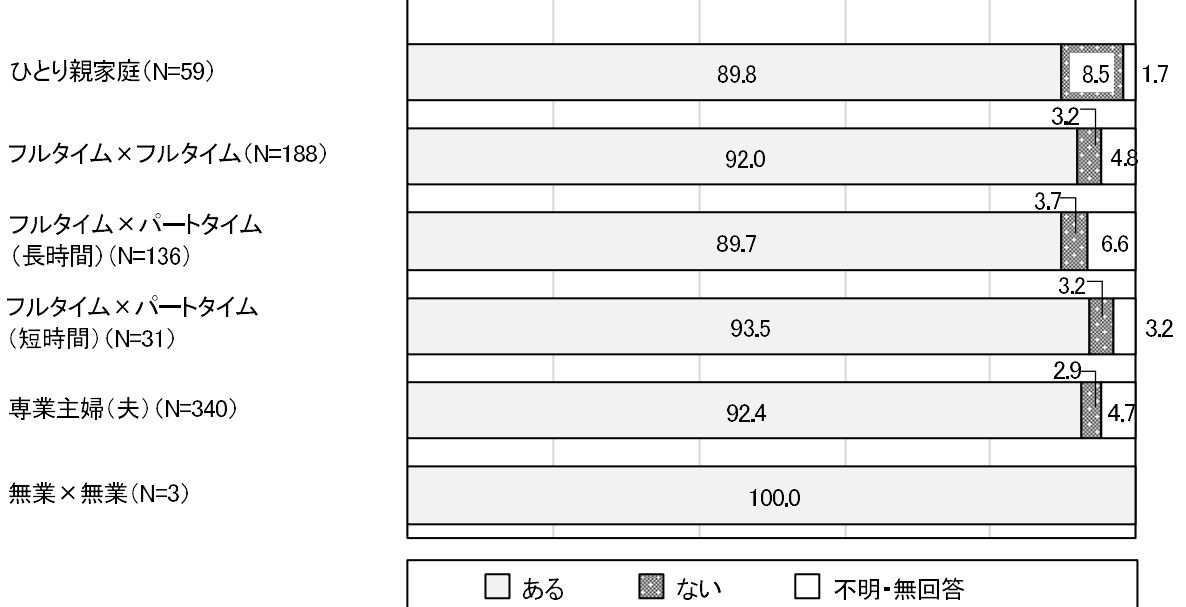
★(10)×父子母子家庭別・家庭類型別

就学前児童の結果について、父子母子家庭別でみると、[父子家庭] の場合に「ない」が40.0%で、[母子家庭] や [その他] と比べて高くなっています。また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭] の場合に「ない」が他の家庭類型と比べて5ポイント程度高くなっています。

【就学前児童×父子母子家庭別】



【就学前児童×家庭類型別】



※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

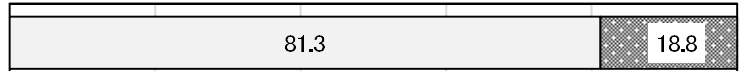
★(10)×父子母子家庭別・家庭類型別

小学生の結果について、父子母子家庭別でみると、[父子家庭] や [母子家庭] の場合に「ない」が [その他] と比べて高くなっており、[母子家庭] では、就学前児童に比べ、「ない」が 8.7 ポイント高くなっています。また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭] の場合に「ない」が他の家庭類型と比べて高くなっています。

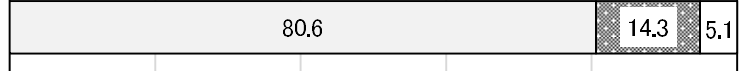
【小学生×父子母子家庭別】

0% 20% 40% 60% 80% 100%

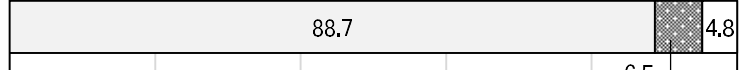
父子家庭(N=16)



母子家庭(N=98)

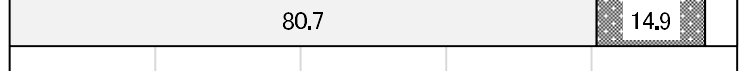


その他(N=1,331)

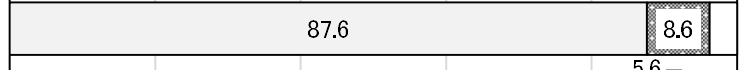


【小学生×家庭類型別】

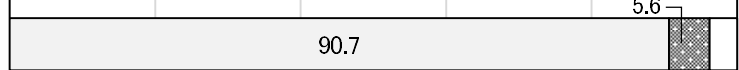
ひとり親家庭(N=114)



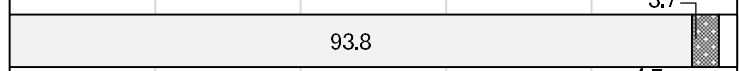
フルタイム×フルタイム(N=315)



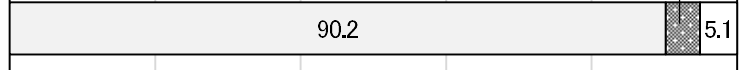
フルタイム×パートタイム
(長時間) (N=450)



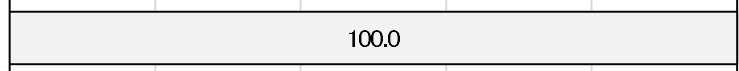
フルタイム×パートタイム
(短時間) (N=161)



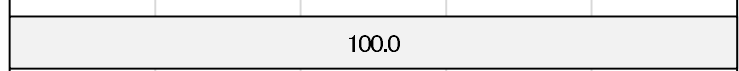
専業主婦(夫) (N=276)



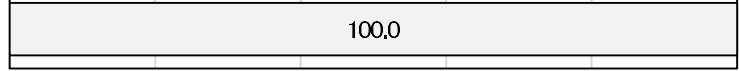
パートタイム×パートタイム
(長時間) (N=2)



パートタイム×パートタイム
(短時間) (N=2)



無業×無業(N=1)



□ ある ■ ない □ 不明・無回答

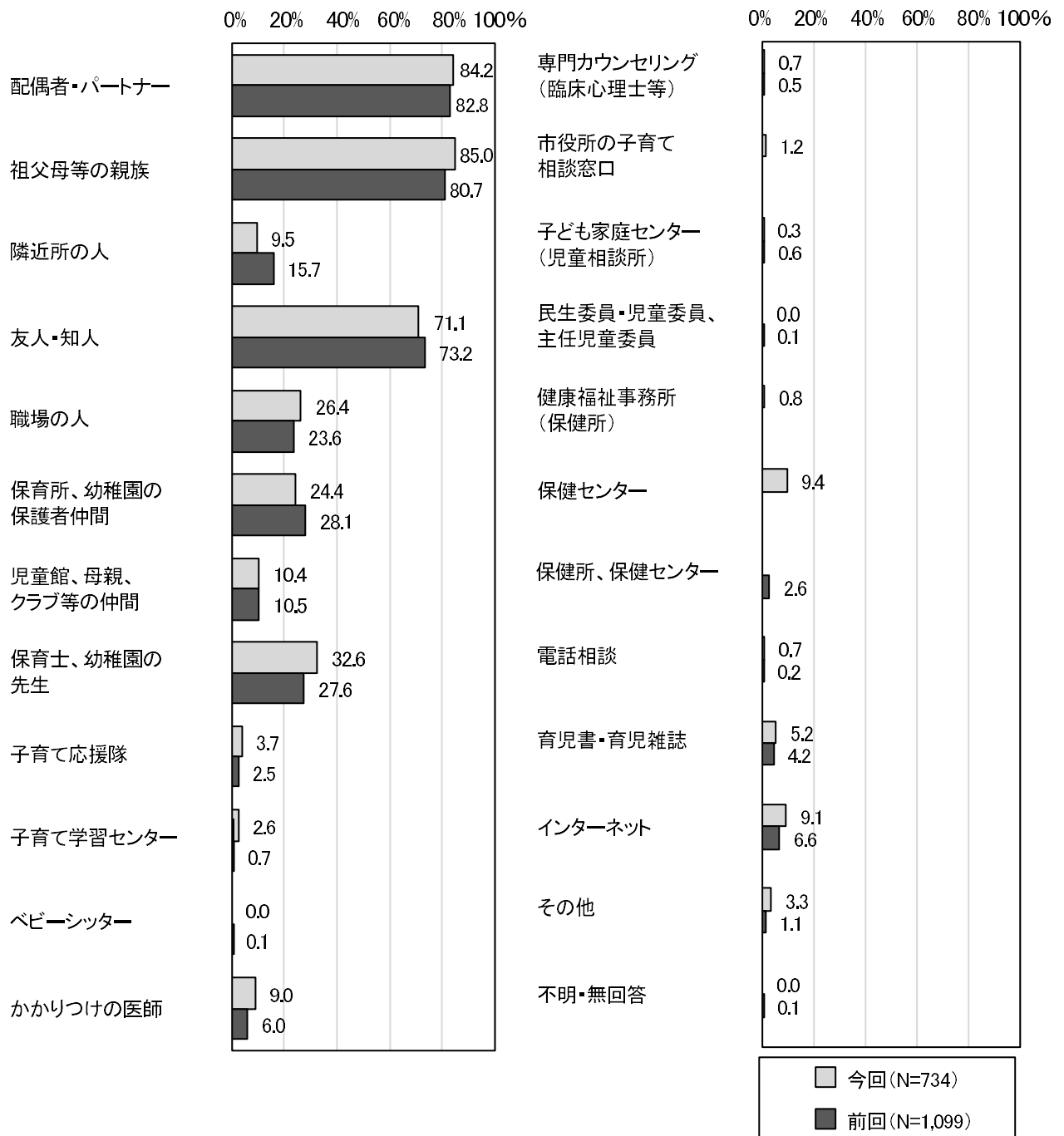
(10)で「ある」を選択した場合のみ回答

(10-1)お子さんの子育てや教育に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。〈複数回答〉

【就学前児童:問 10-1、小学生:問9-1】

子育てや教育に関して気軽に相談できる先についてみると、就学前児童では「祖父母等の親族」が85.0%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」が84.2%、「友人・知人」が71.1%となっています。前回結果と比較した場合、「祖父母等の親族」や「配偶者・パートナー」の割合が高くなっていますが、相談先として「インターネット」を利用する人も2.5ポイント高くなっています。

【就学前児童】

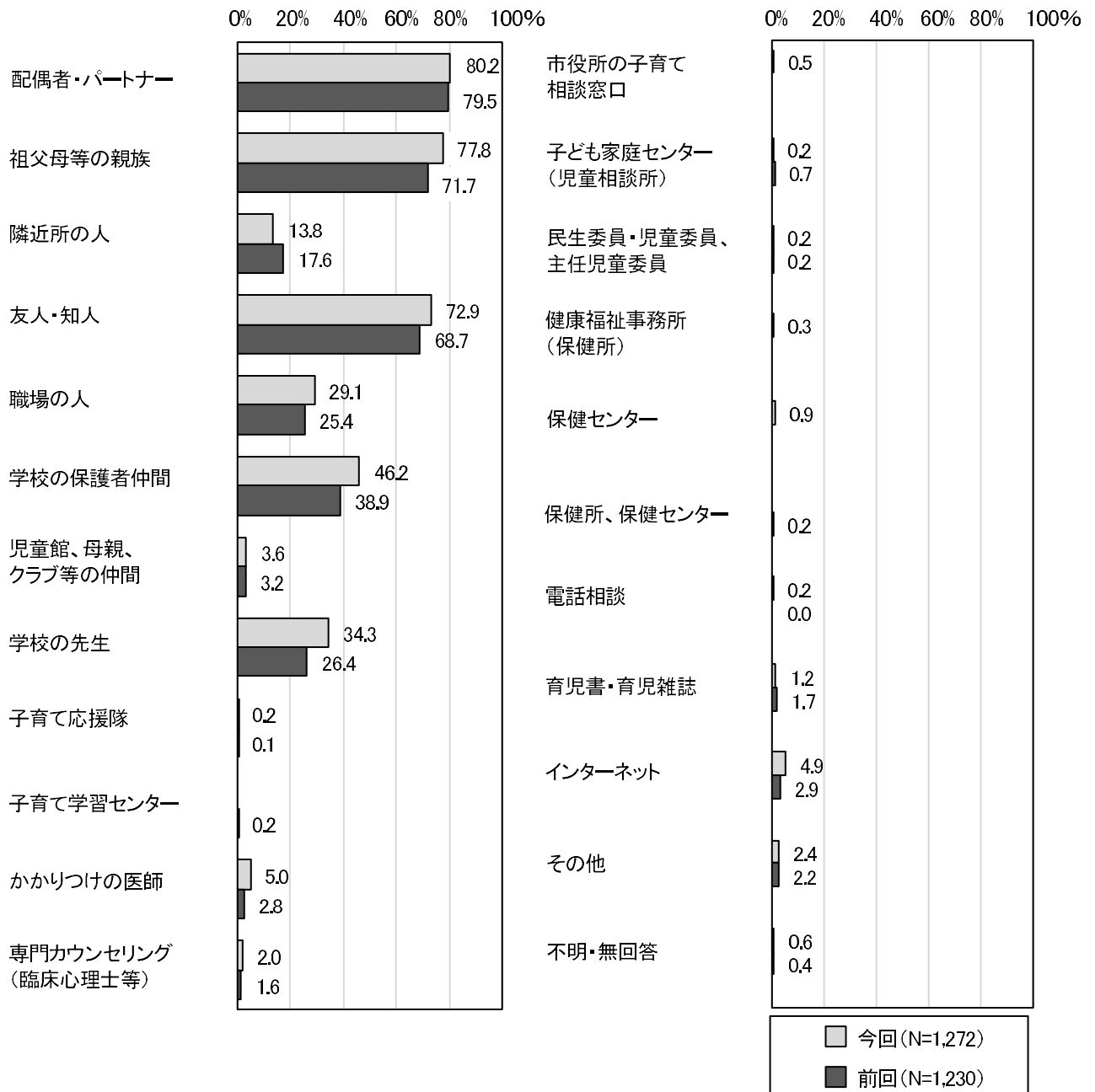


※「市役所の子育て相談窓口」「健康福祉事務所(保健所)」「保健センター」は今回調査のみの選択肢です。

※「保健所・保健センター」は前回調査のみの選択肢です。

小学生では「配偶者・パートナー」が80.2%で最も高く、次いで「祖父母等の親族」が77.8%、「友人・知人」が72.9%となっています。前回結果と比較した場合、「学校の保護者仲間」や「学校の先生」が7.0ポイント程度高くなっています。

【小学生】



※「市役所の子育て相談窓口」「健康福祉事務所(保健所)」「保健センター」は今回調査のみの選択肢です。

※「子育て学習センター」「保健所・保健センター」は前回調査のみの選択肢です。

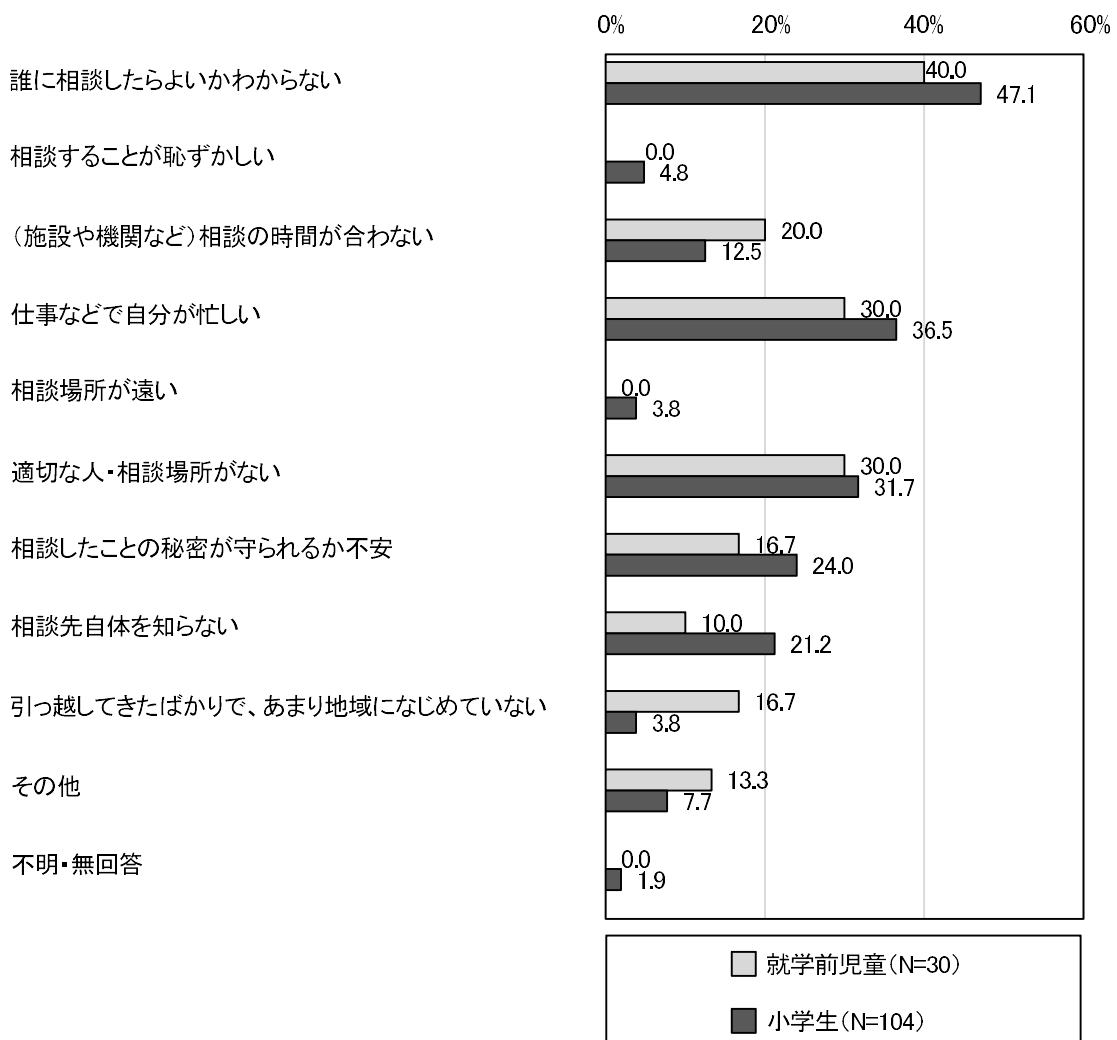
(10)で「ない」を選択した場合のみ回答

(10-2)その理由は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問10-2、小学生:問9-2】

気軽に相談できる先がない理由についてみると、就学前児童では「誰に相談したらよいかわからない」が40.0%で最も高く、次いで「仕事などで自分が忙しい」「適切な人・相談場所がない」がそれぞれ30.0%となっています。

小学生では「誰に相談したらよいかわからない」が47.1%で最も高く、次いで「仕事などで自分が忙しい」が36.5%、「適切な人・相談場所がない」が31.7%となっています。

就学前児童、小学生ともに、「誰に相談したらよいかわからない」が最も高いことから、相談先の周知を図る必要がうかがえます。また、就学前児童では、「引っ越してきたばかりで、あまり地域になじめていない」が小学生よりも高く、転入者への適切な周知方法を検討する必要があります。また、小学生では「相談先自体を知らない」が就学前児童よりも高く、小学校以外の相談先について、周知を図る必要があることがうかがえます。



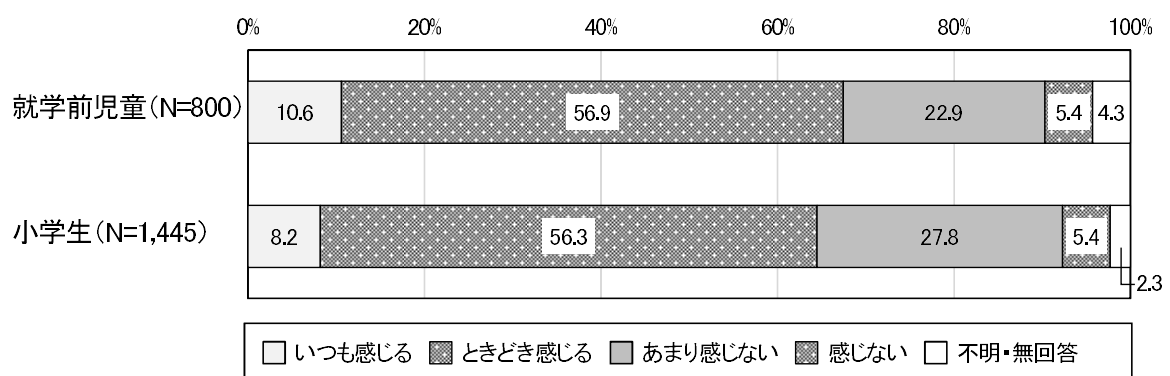
(11)あなたは子育てについて不安や負担を感じていますか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 11、小学生:問 10】

子育てについて不安や負担を感じているかについてみると、就学前児童では「いつも感じる」が10.6%、「ときどき感じる」が56.9%、「あまり感じない」が22.9%、「感じない」が5.4%となっています。

小学生では「いつも感じる」が8.2%、「ときどき感じる」が56.3%、「あまり感じない」が27.8%、「感じない」が5.4%となっています。

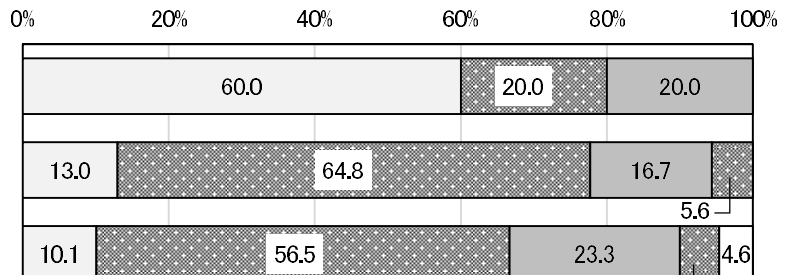
不安や負担を『感じる』（「いつも感じる」「ときどき感じる」の合算）が、就学前児童、小学生ともに6割以上となっています。



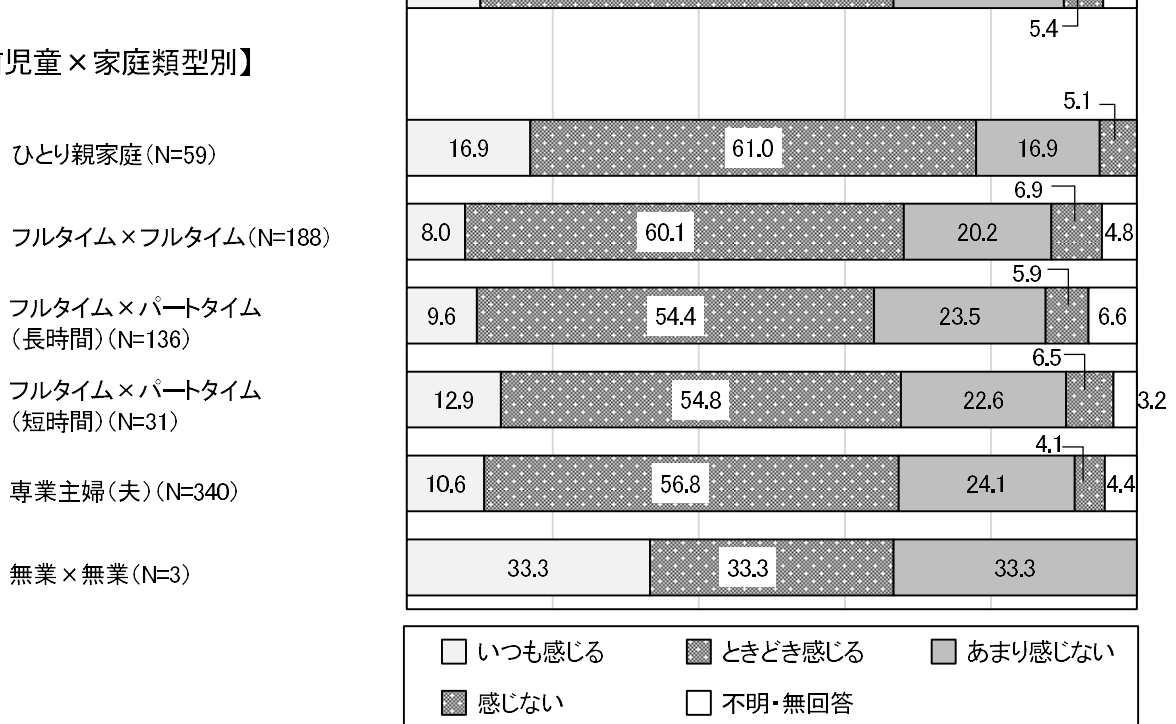
★(11)×父子母子家庭別・家庭類型別

就学前児童の結果について、父子母子家庭別でみると、「父子家庭」の場合に「いつも感じる」が「母子家庭」や「その他」と比べて高くなっています。また、家庭類型別でみると、「ひとり親家庭」の場合に『感じる』（「いつも感じる」と「ときどき感じる」の合算）が7割を超え、他の家庭類型と比べて高くなっています。

【就学前児童×父子母子家庭別】



【就学前児童×家庭類型別】



※就学前児童は「パートタイム×パートタイム(長時間)」「パートタイム×パートタイム(短時間)」の有効回答はありません。

★(11)×父子母子家庭別・家庭類型別

小学生の結果について、父子母子家庭別で見ると、父子母子家庭、その他ともに『感じない』（「感じない」と「あまり感じない」の合算）が就学前児童より高くなっています。一方、家庭類型別で見ると、[ひとり親家庭]で『感じる』（「いつも感じる」と「ときどき感じる」の合算）が7割を超えています。

【小学生×父子母子家庭別】

父子家庭(N=16)

母子家庭(N=98)

その他(N=1,331)

【小学生×家庭類型別】

ひとり親家庭(N=114)

フルタイム×フルタイム(N=315)

フルタイム×パートタイム
(長時間)(N=450)

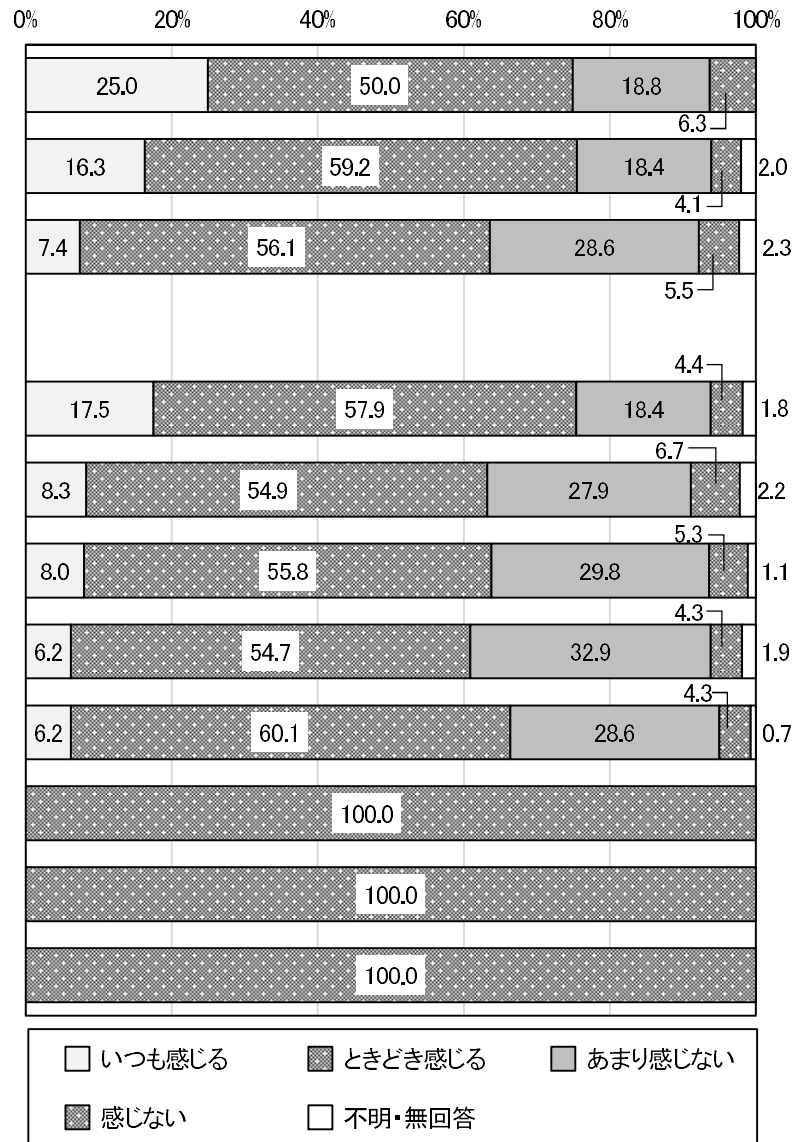
フルタイム×パートタイム
(短時間)(N=161)

専業主婦(夫)(N=276)

パートタイム×パートタイム
(長時間)(N=2)

パートタイム×パートタイム
(短時間)(N=2)

無業×無業(N=1)



(11)で「いつも感じる」「ときどき感じる」を選択した場合のみ回答

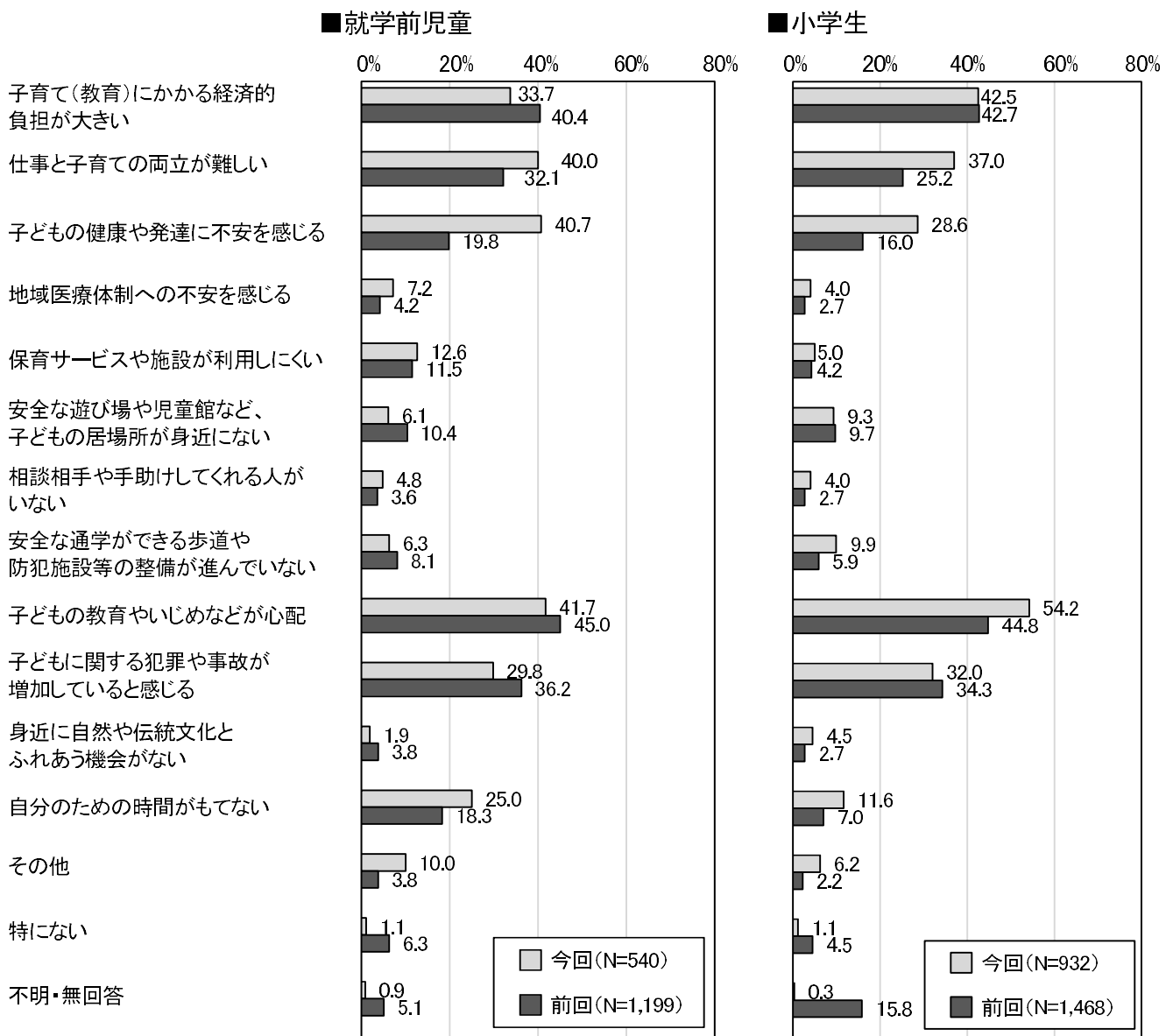
(12)あなたは、子育てについてどのような不安や負担を感じることがありますか。〈複数回答〉

【就学前児童:問12、小学生:問11】

どのような負担や不安を感じるかについてみると、就学前児童では「子どもの教育やいじめなどが心配」が41.7%で最も高く、次いで「子どもの健康や発達に不安を感じる」が40.7%、「仕事と子育ての両立が難しい」が40.0%となっています。前回結果と比較した場合、「子どもの健康や発達に不安を感じる」「仕事と子育ての両立が難しい」が高くなっています。

小学生では「子どもの教育やいじめなどが心配」が54.2%で最も高く、次いで「子育て(教育)にかかる経済的負担が大きい」が42.5%、「仕事と子育ての両立が難しい」が37.0%となっています。前回結果と比較した場合、「子どもの教育やいじめなどが心配」や「仕事と子育ての両立が難しい」が高くなっています。

前回結果と比較した場合、就学前児童、小学生ともに「子どもの健康や発達に不安を感じる」の割合が上昇しています。また、「仕事と子育ての両立が難しい」も10%程度高くなっています。

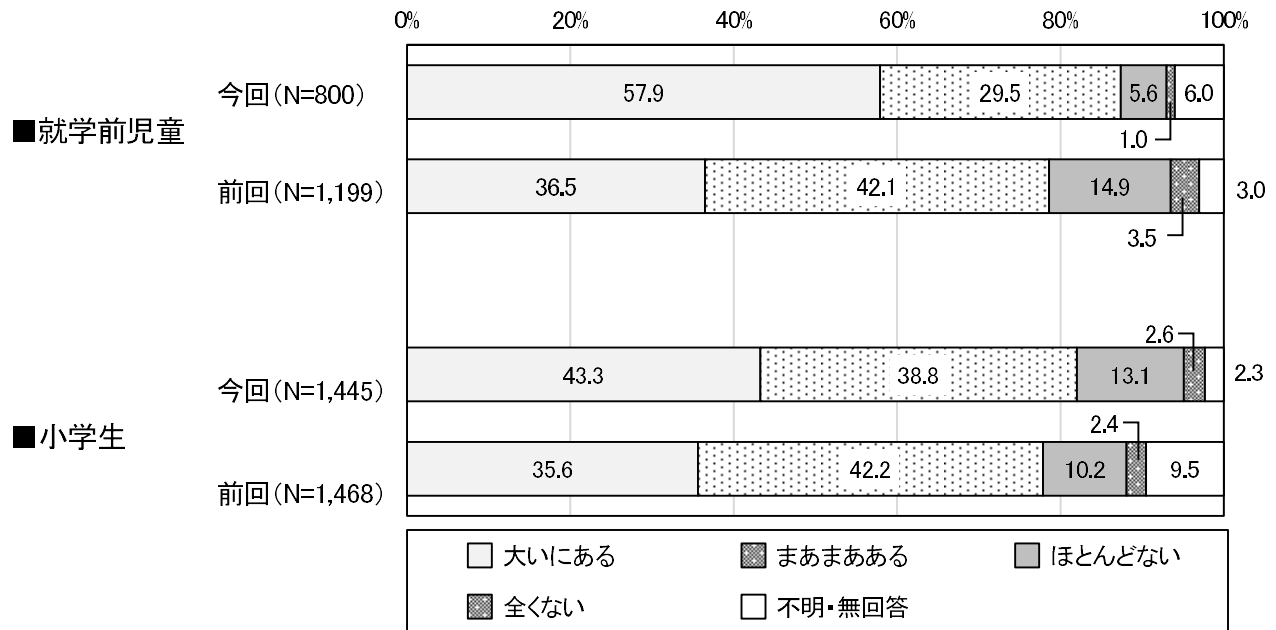


(13) 周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感がありますか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 13、小学生:問 12】

周囲の人に支えられて子育てをしている実感があるかについてみると、就学前児童では「大いにある」が57.9%、「まあまあある」が29.5%、「ほとんどない」が5.6%となっています。

小学生では「大いにある」が43.3%、「まあまあある」が38.8%、「ほとんどない」が13.1%となっています。前回結果と比較した場合、就学前児童、小学生ともに、「大いにある」と「まあまあある」の合計が8割を超えています。

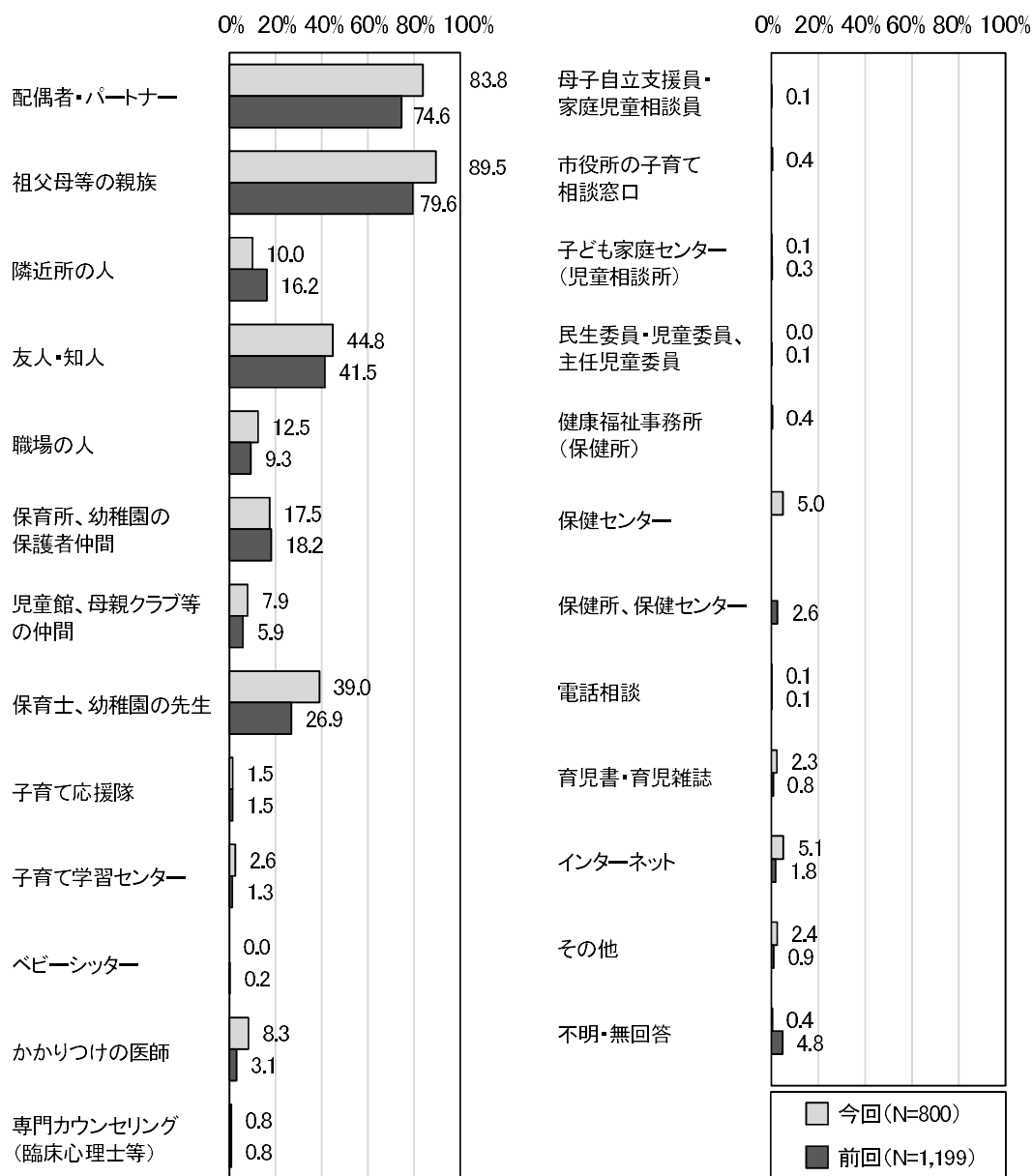


(14)あなたは、子育てにおいて誰から支えられていると感じますか。〈複数回答〉

【就学前児童:問 14、小学生:問 13】

誰から支えられていると感じるかについてみると、就学前児童では「祖父母等の親族」が 89.5% で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」が 83.8%、「友人・知人」が 44.8%となっています。前回結果と比較した場合、「保育士、幼稚園の先生」が 12.1 ポイント、「祖父母等の親族」が 9.9 ポイント、「配偶者・パートナー」が 9.2 ポイント高くなっています。

【就学前児童】

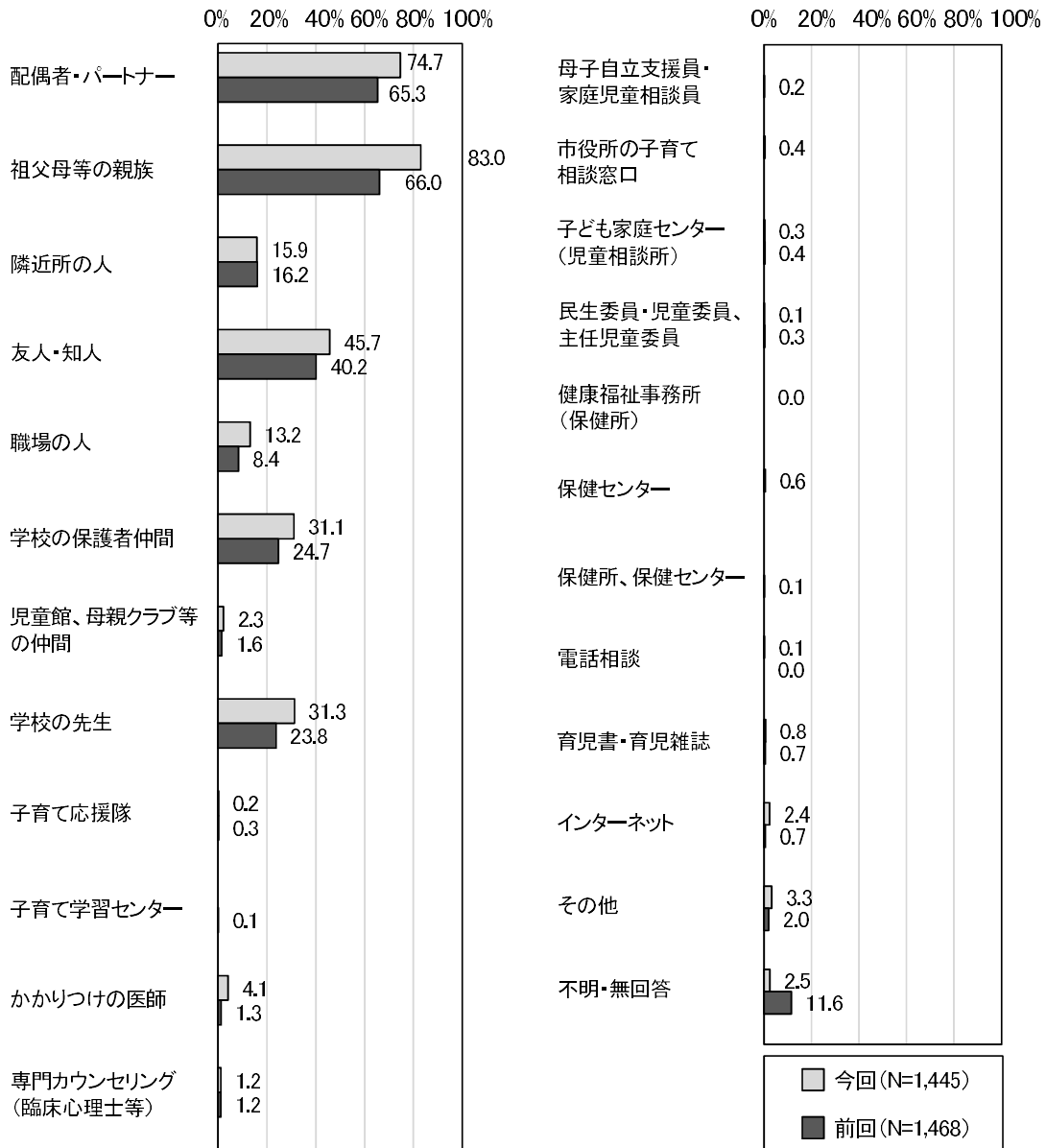


※「市役所の子育て相談窓口」「健康福祉事務所(保健所)」「保健センター」は今回調査のみの選択肢です。

※「母子自立支援員・家庭児童相談員」「保健所・保健センター」は前回調査のみの選択肢です。

誰から支えられていると感じるかについてみると、小学生では「祖父母等の親族」が83.0%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」が74.7%、「友人・知人」が45.7%となっています。前回結果と比較した場合、「祖父母等の親族」が17.0ポイント、「配偶者・パートナー」が9.4ポイント、「学校の先生」が7.5ポイント高くなっています。

【小学生】



※「市役所の子育て相談窓口」「健康福祉事務所(保健所)」「保健センター」は今回調査のみの選択肢です。

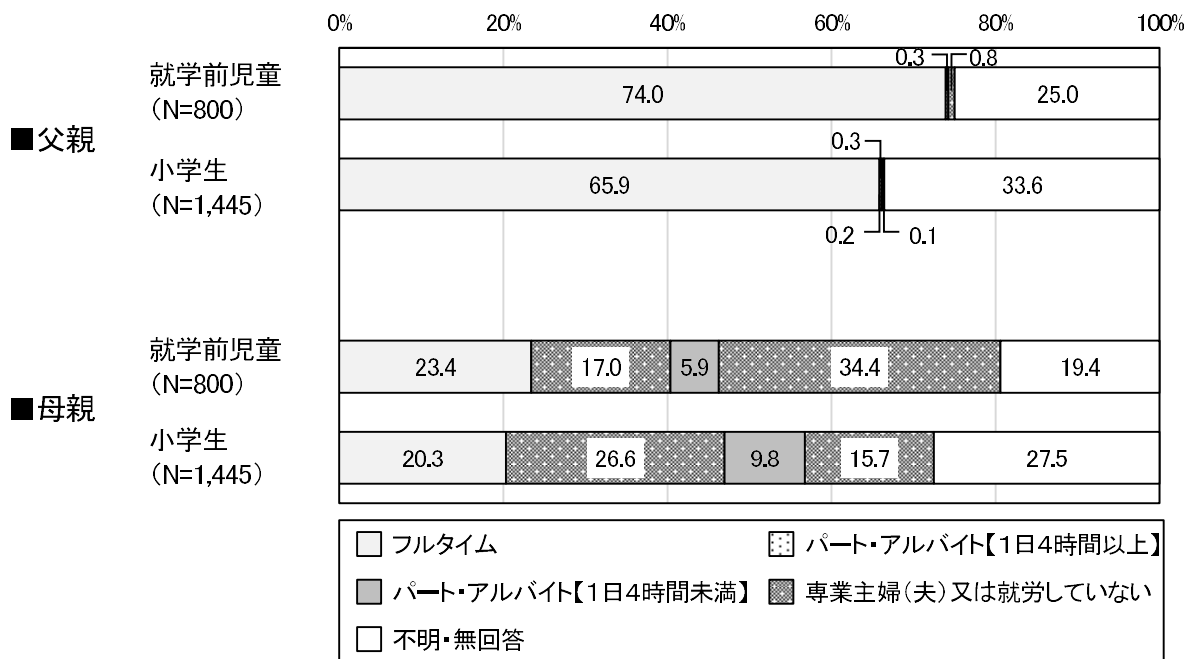
※「子育て学習センター」「母子自立支援員・家庭児童相談員」「保健所・保健センター」は前回調査のみの選択肢です。

(15)②宛名のお子さんの保護者の就労状況(自営業、家族従事者含む)について、1年以内の見込み(実現見込みがある)をお答えください。〈単数回答〉【就学前児童:問 15、小学生:問 18】

保護者の1年以内の就労見込みについてみると、就学前児童では、父親の場合に「フルタイム」が74.0%で最も高くなっています。また、母親の場合に「専業主婦(夫)又は就労していない」が34.4%で最も高く、次いで「フルタイム」が23.4%、「パート・アルバイト【1日4時間以上】」が17.0%となっています。

小学生では、父親の場合に「フルタイム」が65.9%で最も高くなっています。また、母親の場合に「パート・アルバイト【1日4時間以上】」が26.6%で最も高く、次いで「フルタイム」が20.3%、「専業主婦(夫)又は就労していない」が15.7%となっています。

母親の場合、就学前児童と比べ、小学生で「専業主婦(夫)又は就労していない」が18.7ポイント低くなり、就労を希望する人が増加することがうかがえます。



(15)で「フルタイム」「パート・アルバイト【1日4時間以上】」「パート・アルバイト【1日4時間未満】」を選択した場合のみ回答

(15-1)家を出る時間と帰宅時間を[]内に数字でご記入ください。〈複数回答〉

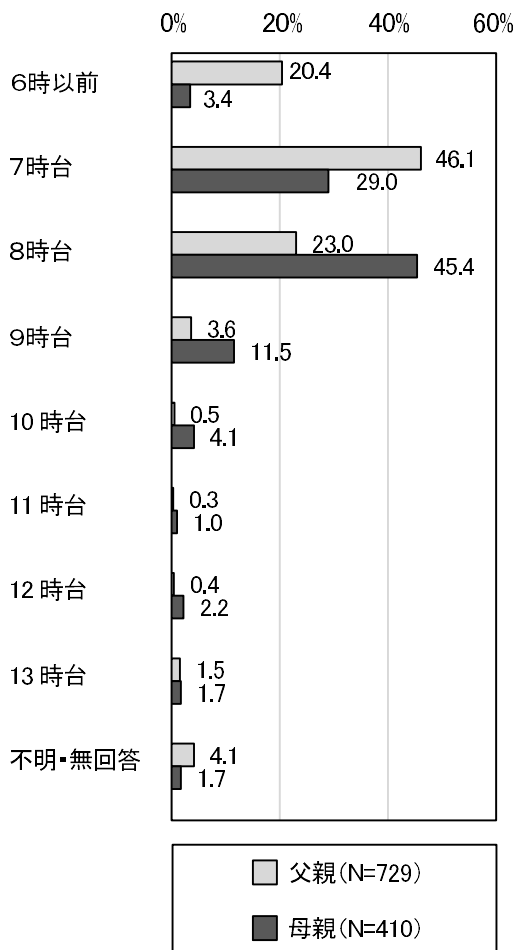
【就学前児童:問 15-1、小学生:問 18-1】

家を出る時間についてみると、就学前児童では、父親は「7時台」が46.1%で最も高く、次いで「8時台」が23.0%、「6時以前」が20.4%となっています。また、母親は「8時台」が45.4%で最も高く、次いで「7時台」が29.0%、「9時台」が11.5%となっています。

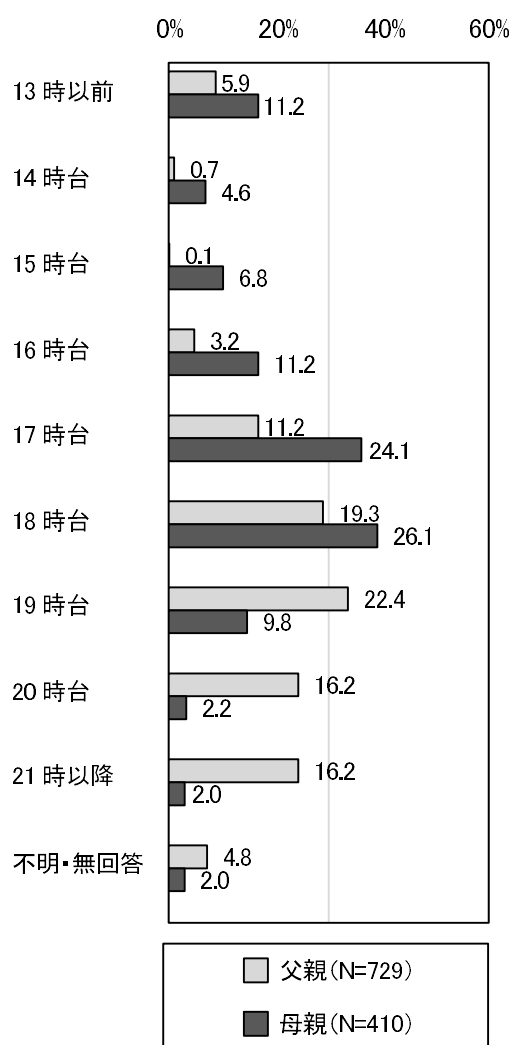
帰宅時間についてみると、就学前児童では、父親は「19時台」が22.4%で最も高く、次いで「18時台」が19.3%、「20時台」および「21時以降」がそれぞれ16.2%となっています。また、母親は「18時台」が26.1%で最も高く、次いで「17時台」が24.1%、「13時以前」および「16時台」がそれぞれ11.2%となっています。

【就学前児童】

■家を出る時間



■帰宅時間

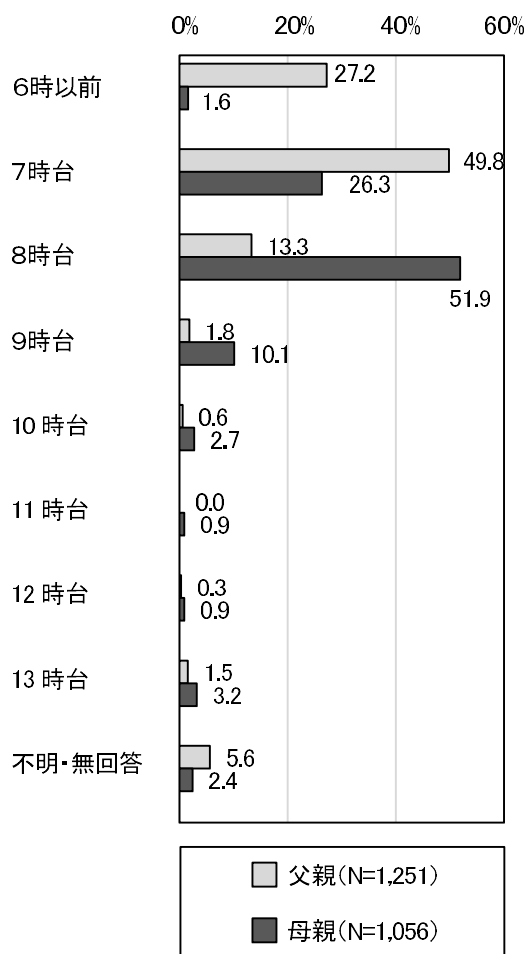


小学生では、家を出る時間についてみると、父親は「7時台」が49.8%で最も高く、次いで「6時以前」が27.2%、「8時台」が13.3%となっています。また、母親は「8時台」が51.9%で最も高く、次いで「7時台」が26.3%、「9時台」が10.1%となっています。

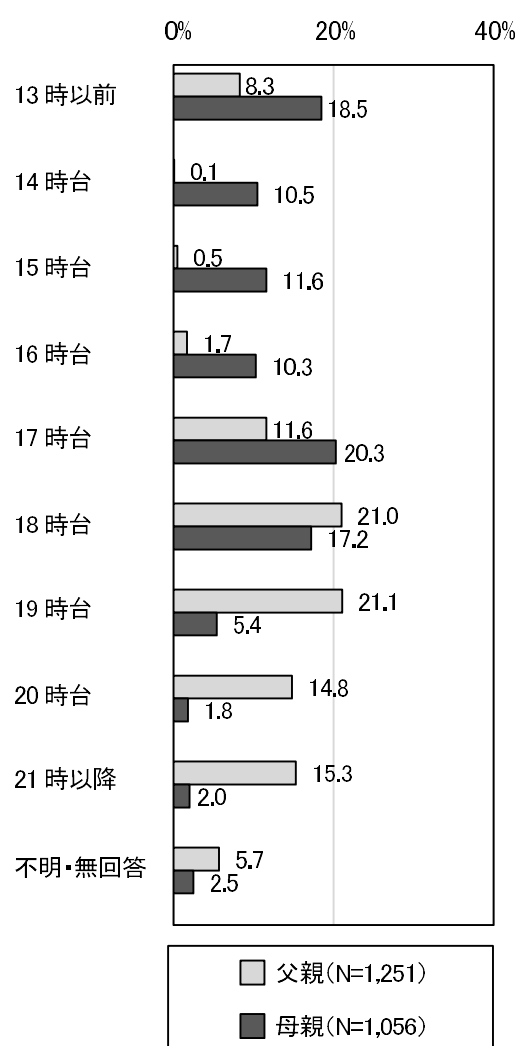
帰宅時間についてみると、小学生では、父親は「19時台」が21.1%で最も高く、次いで「18時台」が21.0%、「21時以降」が15.3%となっています。また、母親は「17時台」が20.3%で最も高く、次いで「13時以前」が18.5%、「18時台」が17.2%となっています。

【小学生】

■家を出る時間



■帰宅時間



(15)で「専業主婦(夫)又は就労していない」を選択した場合のみ回答

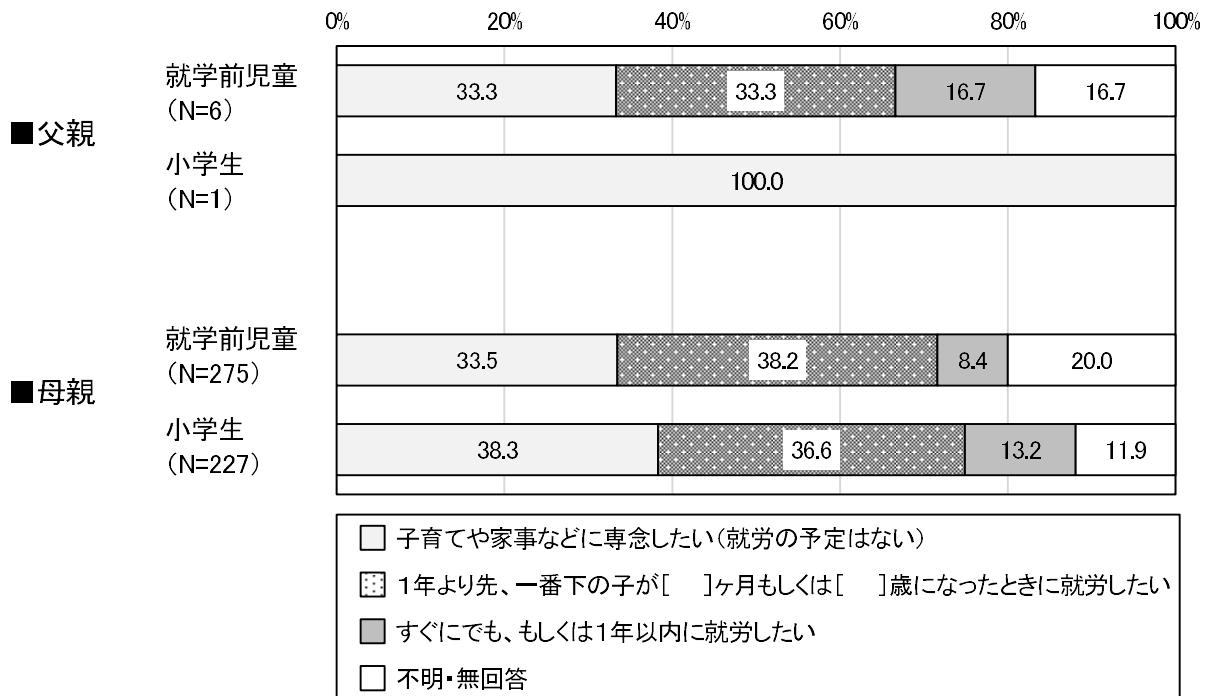
(15-2)1年よりも先、将来的な就労予定はありますか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 15-2、小学生:問 18-2】

将来的な就労予定はあるかについてみると、就学前児童の母親では「1年より先、一番下の子が [] ヶ月もしくは [] 歳になったときに就労したい」が 38.2%で最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が 33.5%となっています。

小学生の母親では「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が 38.3%で最も高く、次いで「1年より先、一番下の子が [] ヶ月もしくは [] 歳になったときに就労したい」が 36.6%となっています。

「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が就学前児童よりも小学生で 4.8 ポイント高くなっています。



(15-2)で「1年より先、一番下の子どもが[]ヶ月もしくは[]歳になったときに就労したい」を選択した場合のみ回答

(15-2)①就労予定時の一番下の子どもの年齢をご記入ください。〈数量回答〉

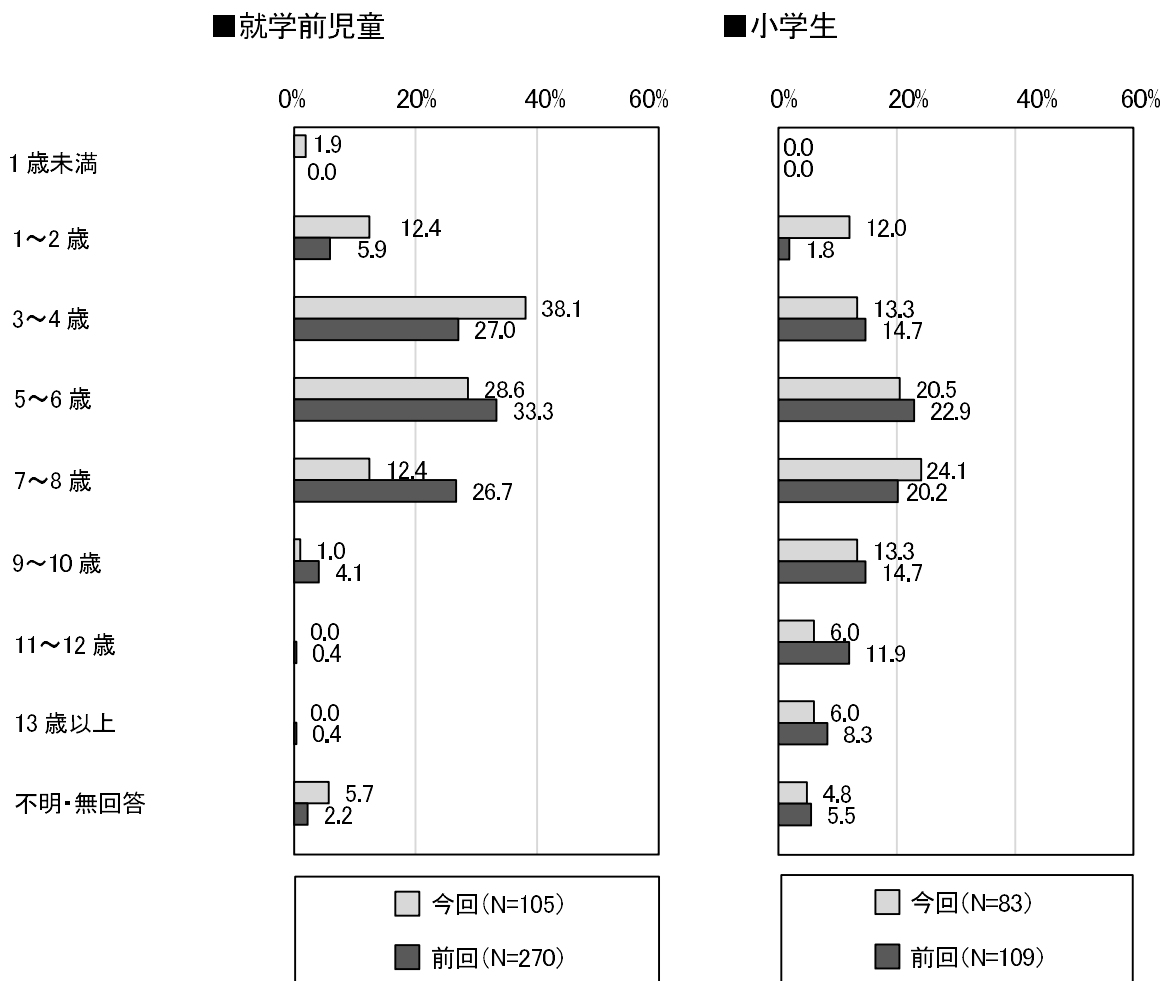
【就学前児童:問 15-2、小学生:問 18-2】

就労予定時の一番下の子どもの年齢についてみると、就学前児童では、母親の場合に「3～4歳」が38.1%で最も高く、次いで「5～6歳」が28.6%、「1～2歳」および「7～8歳」がそれぞれ12.4%となっています。前回結果と比較した場合、「3～4歳」が高く、「7～8歳」が低くなっています。

小学生では、母親の場合に「7～8歳」が24.1%で最も高く、次いで「5～6歳」が20.5%、「3～4歳」および「9～10歳」がそれぞれ13.3%となっています。前回結果と比較した場合、「1～2歳」が高くなっています。

このことから、就学前児童、小学生ともに、低年齢からの就労を希望する人が増加していることがうかがえます。

【母親:就労予定時の一番下の子どもの年齢】



※就学前児童の父親については、「1～2歳」「3～4歳」がそれぞれ1件で、計2件となっています。

※小学生の父親については、有効回答はありません。

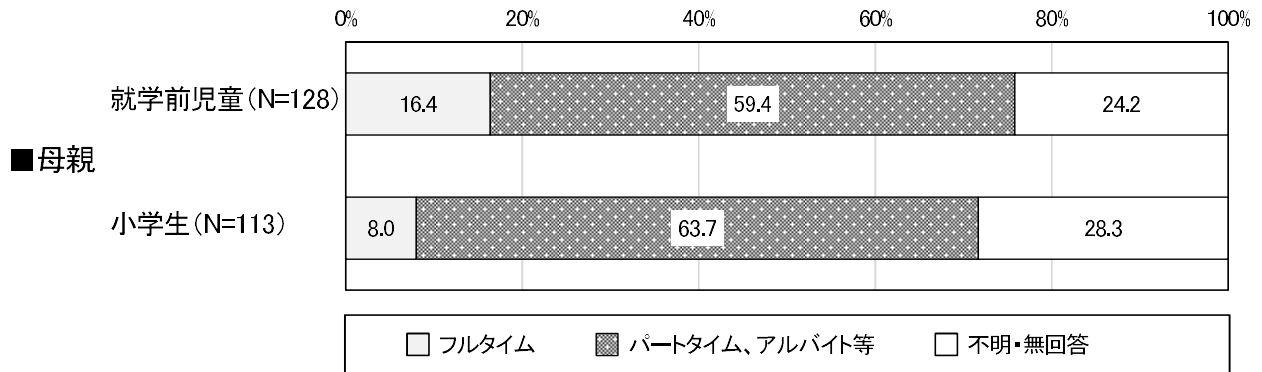
(15-2)で「1年より先、一番下の子が[]ヶ月もしくは[]歳になったときに就労したい」「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を選択した場合のみ回答

(15-2)②希望する就労形態を教えてください。〈単数回答〉【就学前児童:問 15-2、小学生:問 18-2】

希望する就労形態についてみると、就学前児童では、母親の場合に「フルタイム」が16.4%、「パートタイム、アルバイト等」が59.4%となっています。

小学生では、母親の場合に「フルタイム」が8.0%、「パートタイム、アルバイト等」が63.7%となっています。

小学生と比較し、就学前児童で「フルタイム」が8.4ポイント高くなっています。

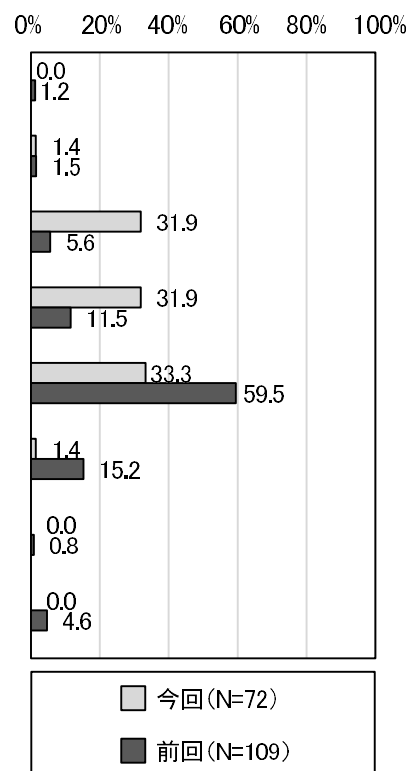
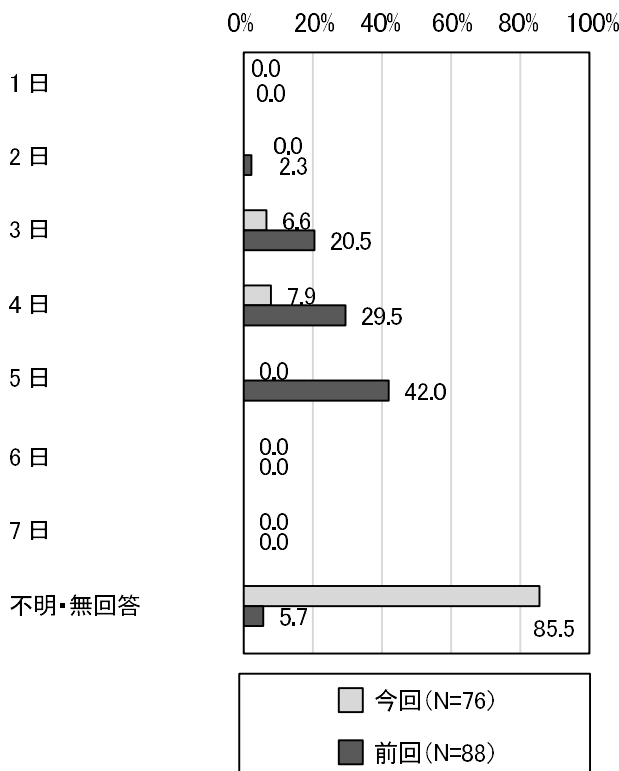


※父親の回答については、就学前児童では「フルタイム」が1件、「パートタイム、アルバイト等」が1件、「不明・無回答」が1件の合計3件でした。なお、小学生については、回答件数は0件でした。

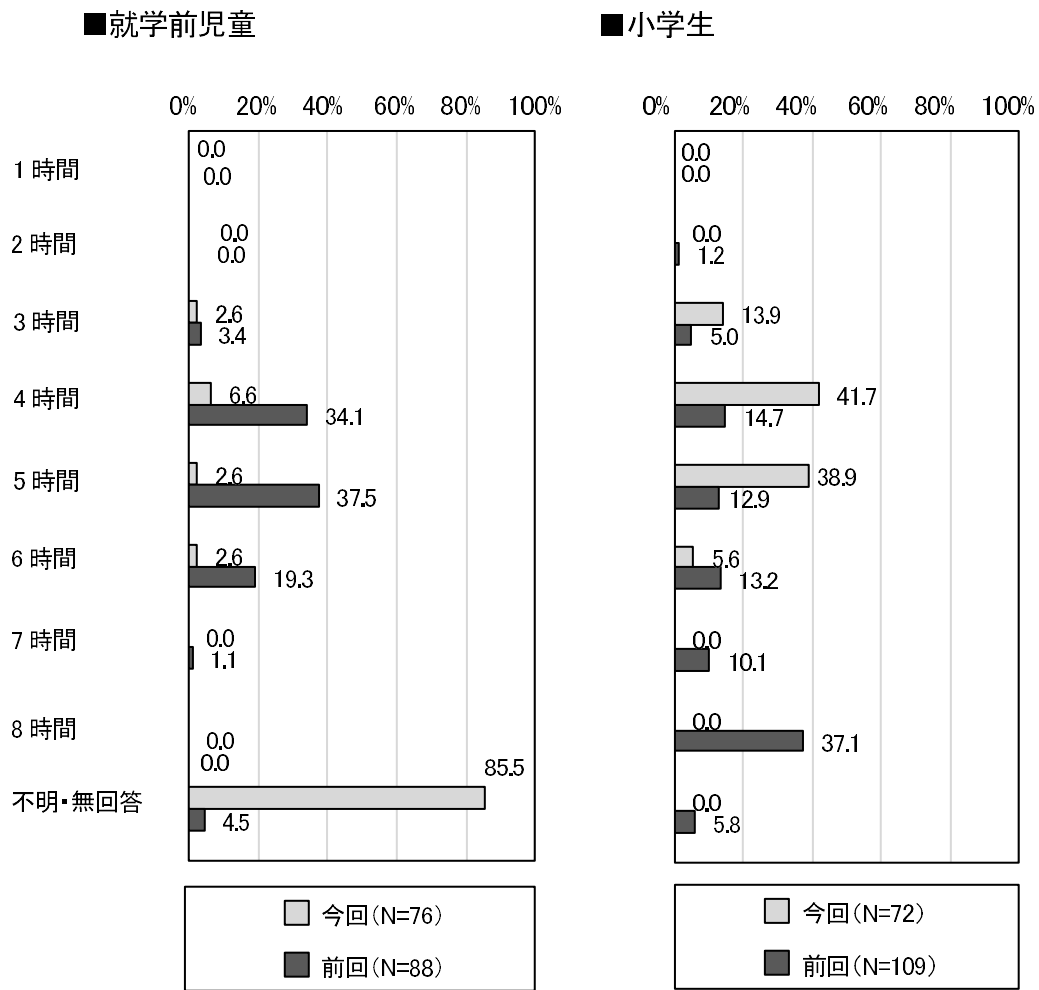
【パートタイム 1週間あたりの勤務日数見込み(母親のみ)】

■就学前児童

■小学生



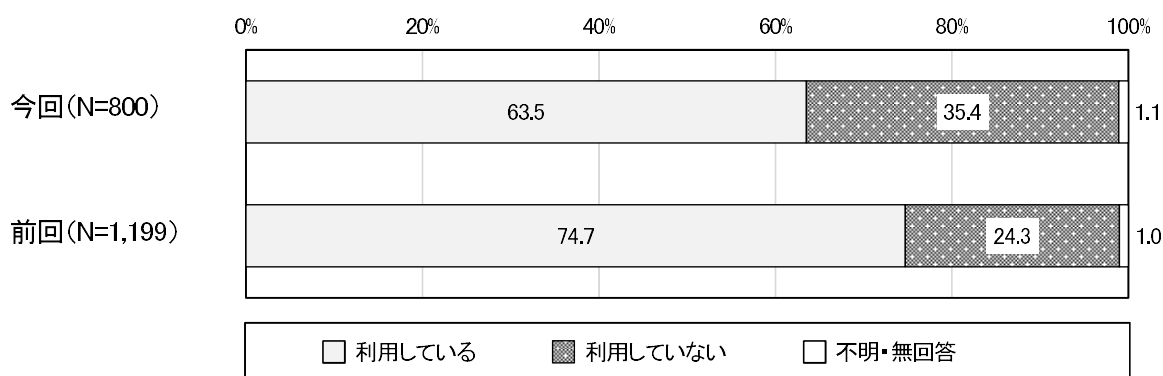
【パートタイム 1日あたりの勤務時間見込み(母親のみ)】



2-3 平日の定期的な教育・保育事業の利用について

(16)お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。〈単数回答〉【就学前児童:問16】

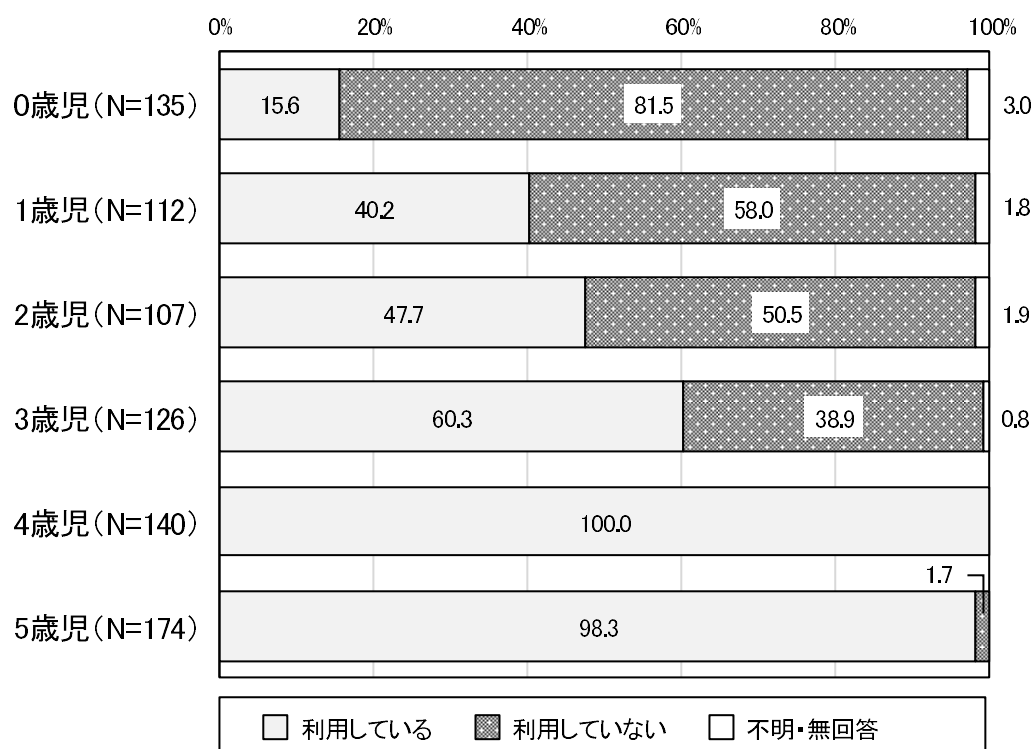
平日に定期的な教育・保育事業を利用しているかについてみると、「利用している」が63.5%、「利用していない」が35.4%となっています。前回結果と比較した場合、「利用している」が11.2ポイント低くなっています。



★(16)×年齢(学年基準)別

就学前児童の結果について、年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「利用している」も高くなっており、4歳児以上はほぼすべての回答者が「利用している」を回答しています。0歳児と1歳児の「利用している」割合の差が大きく、1歳になることをきっかけに平日の定期的な教育・保育事業の利用を考える人が多いことがうかがえます。また、3～5歳の幼児教育・保育無償化がスタートした場合、3歳児の利用率が上昇することが予想されます。

【就学前児童×年齢(学年基準)別】

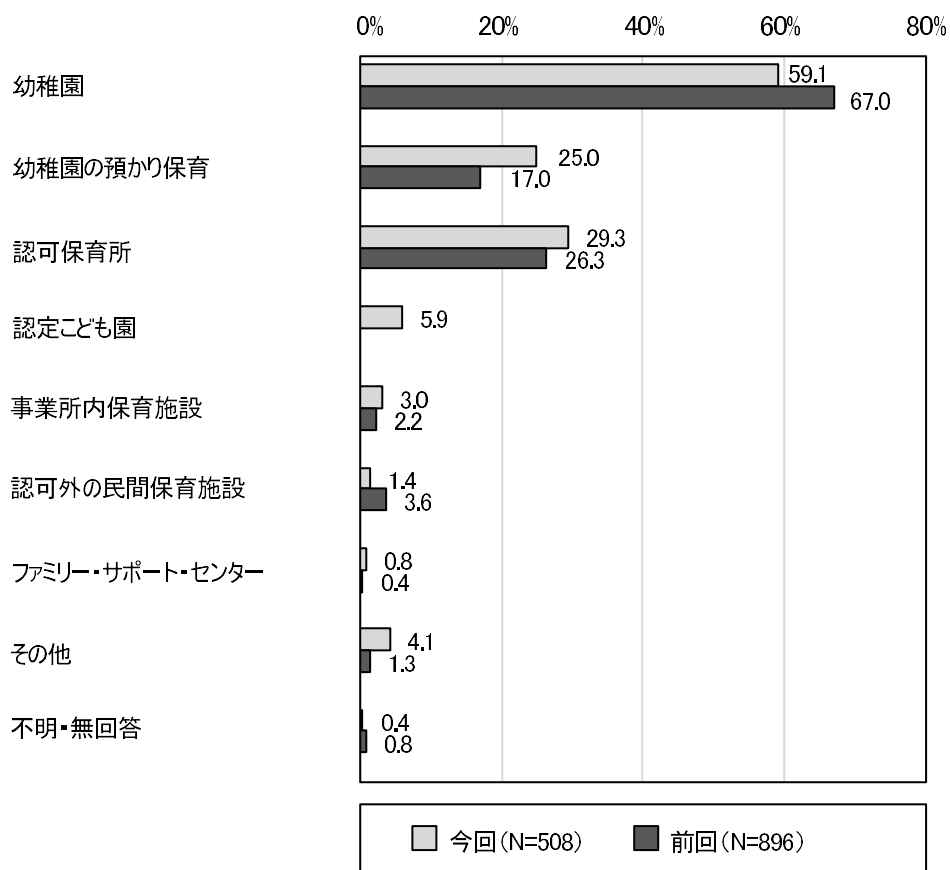


(16)で「利用している」を選択した場合のみ回答

(16-1)お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用されていますか。〈複数回答〉

【就学前児童:問 16-1】

現在定期的に利用している事業についてみると、「幼稚園」が59.1%で最も高く、次いで「認可保育所」が29.3%、「幼稚園の預かり保育」が25.0%となっています。前回結果と比較した場合、「幼稚園の預かり保育」「認可保育所」の割合が上昇しています。



※「認定こども園」は今回調査のみの選択肢です。

★(16-1)×父子母子家庭別・家庭類型別

父子母子家庭別でみると、[父子家庭][母子家庭]の場合に「認可保育所」が[その他]と比べて高くなっています。また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭]では「認可保育所」が、それ以外の家庭類型では「幼稚園」が最も高くなっていますが、[フルタイム×フルタイム]や[フルタイム×パートタイム(長時間)]など、勤務時間の長い家庭類型の場合、「幼稚園の預かり保育」や「認可保育所」の割合も同様に高くなっています。

【就学前児童×父子母子家庭別・家庭類型別】

【就学前児童】 父子母子家庭別	父子家庭		母子家庭		その他	
	N=4		N=45		N=459	
	件数	%	件数	%	件数	%
幼稚園	1	25.0	19	42.2	280	61.0
幼稚園の預かり保育	1	25.0	14	31.1	112	24.4
認可保育所	2	50.0	22	48.9	125	27.2
認定こども園	1	25.0	2	4.4	27	5.9
事業所内保育施設	0	0.0	2	4.4	13	2.8
認可外の民間保育施設	0	0.0	0	0.0	7	1.5
ファミリー・サポート・センター	0	0.0	2	4.4	2	0.4
その他	1	25.0	0	0.0	20	4.4
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	2	0.4

【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭		フルタイム×		（パートタイム×）		（パートタイム×）		（専業主婦）		無業×無業	
	N=49		N=147		N=110		N=19		N=154		N=1	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
幼稚園	20	40.8	66	44.9	59	53.6	14	73.7	124	80.5	1	100.0
幼稚園の預かり保育	15	30.6	48	32.7	41	37.3	3	15.8	12	7.8	0	0.0
認可保育所	24	49.0	65	44.2	41	37.3	1	5.3	12	7.8	0	0.0
認定こども園	3	6.1	11	7.5	5	4.5	0	0.0	9	5.8	0	0.0
事業所内保育施設	2	4.1	7	4.8	1	0.9	2	10.5	3	1.9	0	0.0
認可外の民間保育施設	0	0.0	0	0.0	2	1.8	2	10.5	2	1.3	0	0.0
ファミリー・サポート・センター	2	4.1	0	0.0	2	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	1	2.0	2	1.4	5	4.5	1	5.3	11	7.1	1	100.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

(16)で「利用している」を選択した場合のみ回答

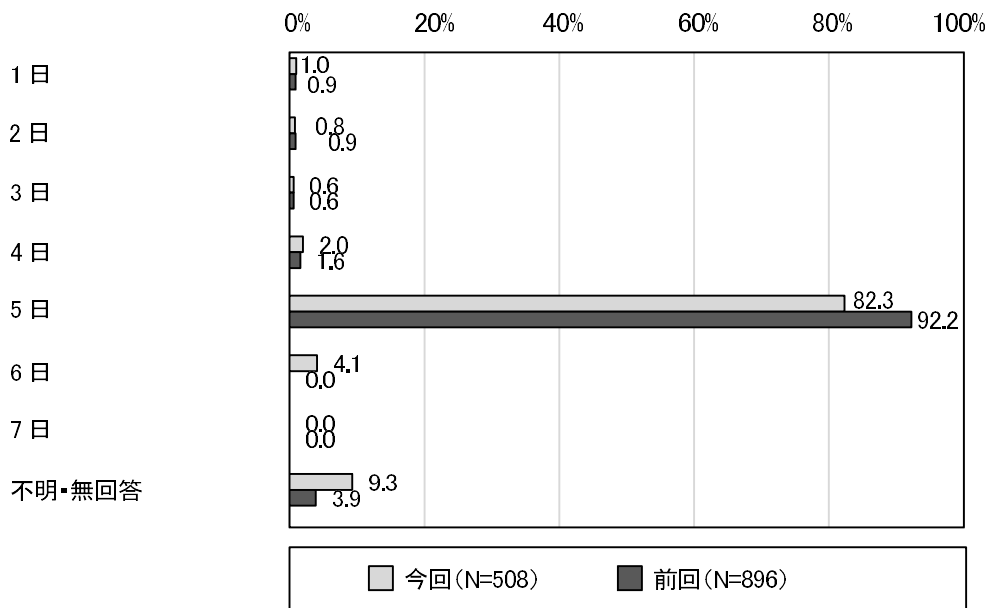
(16-2)①(16)で選択した事業を、現在、どのくらい利用されていますか。〈数量回答〉

【就学前児童:問16-2】

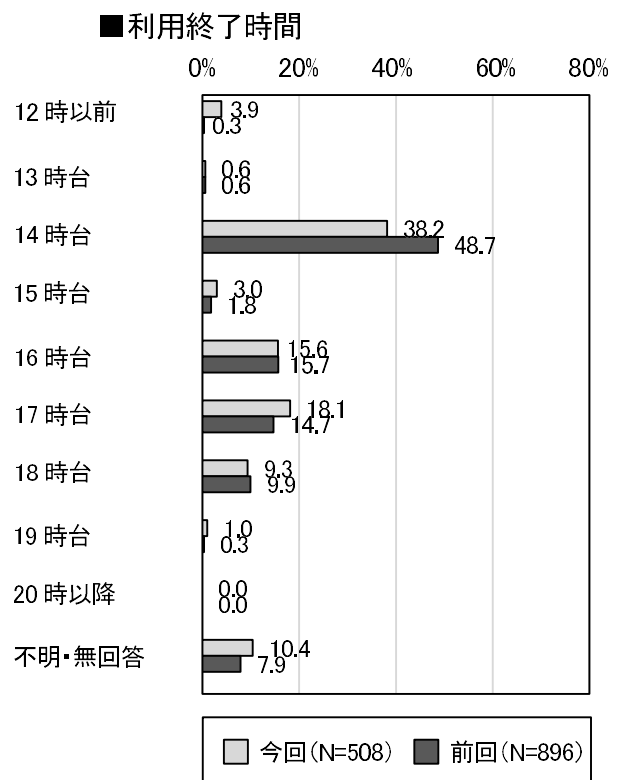
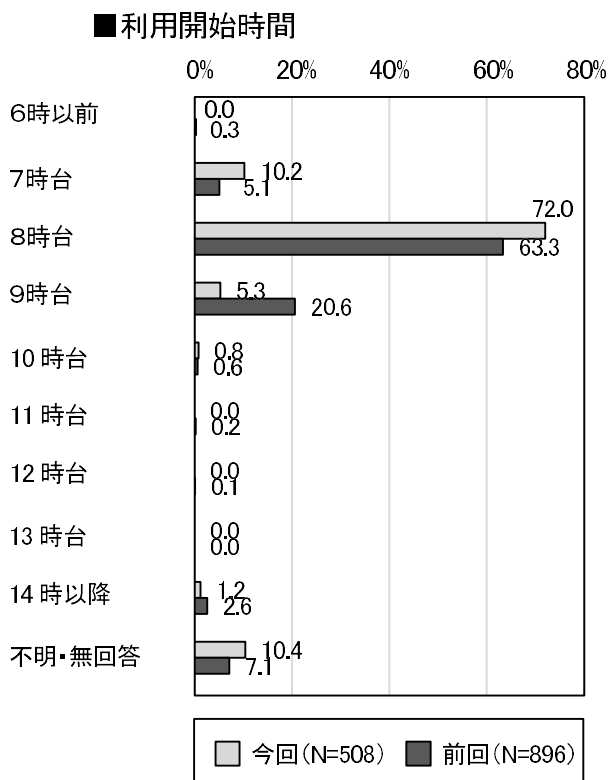
事業の現在の利用頻度についてみると、1週間あたりの利用日数は「5日」が82.3%で最も高くなっています。

1日あたりの利用時間は、利用開始時間では「8時台」が72.0%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、「7時台」「8時台」が若干高く、「9時台」が低くなっています。また、利用終了時間では「14時台」が38.2%で最も高くなっていますが、前回結果からみると、「14時台」が低くなり、「17時台」が高くなっています。

【1週間あたりの利用日数】



【1日あたりの利用時間】



(16)で「利用している」を選択した場合のみ回答

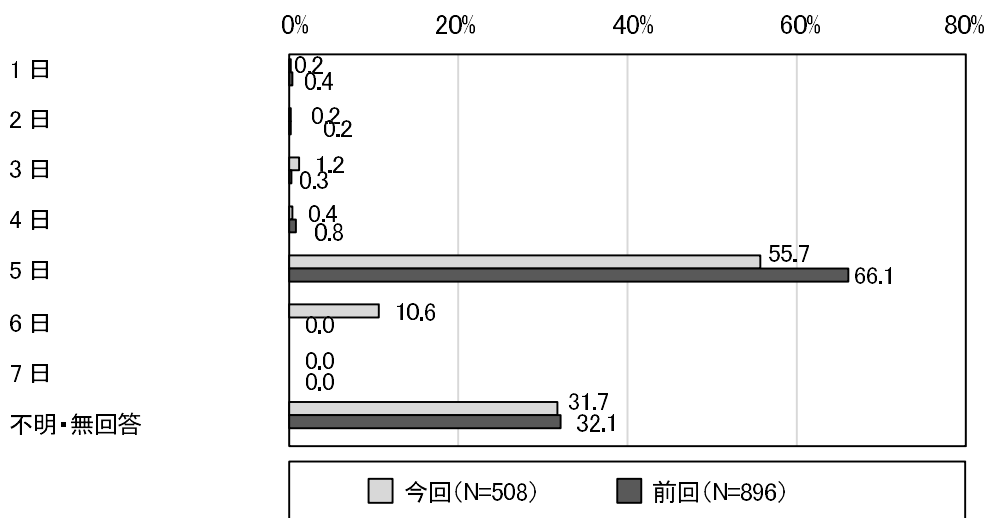
(16-2)②(16)で選択した事業を、希望としては、どのくらい利用したいですか。〈数量回答〉

【就学前児童：問16-2】

事業の希望利用頻度についてみると、1週間あたりの利用日数は「5日」が55.7%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、「5日」が10.4ポイント低くなり、「6日」が10.6ポイント高くなっています。

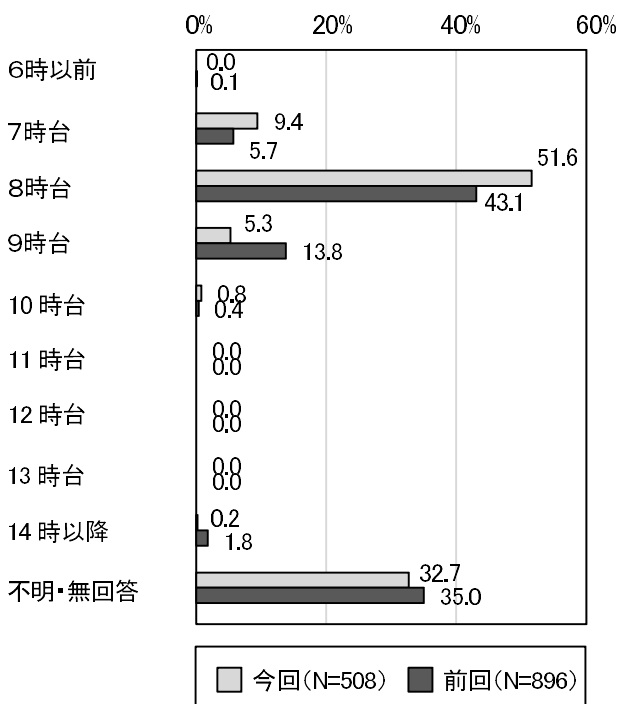
1日あたりの利用時間は、利用開始時間では「8時台」が51.6%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、「8時台」が8.5ポイント高く、「9時台」が8.5ポイント低くなっています。また、利用終了時間では「16時台」が14.4%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

【1週間あたりの利用日数】

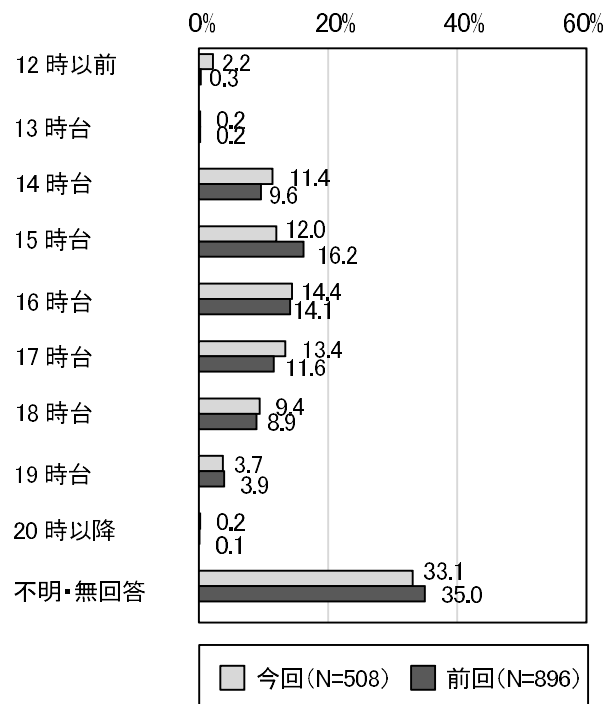


【1日あたりの利用時間】

■利用開始時間



■利用終了時間

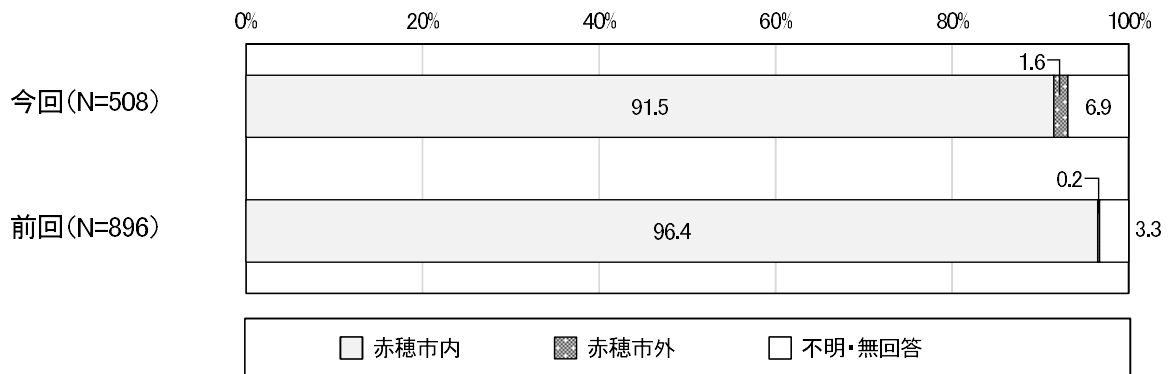


(16)で「利用している」を選択した場合のみ回答

(16-3)現在、利用されている教育・保育事業の場所はどこですか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 16-3】

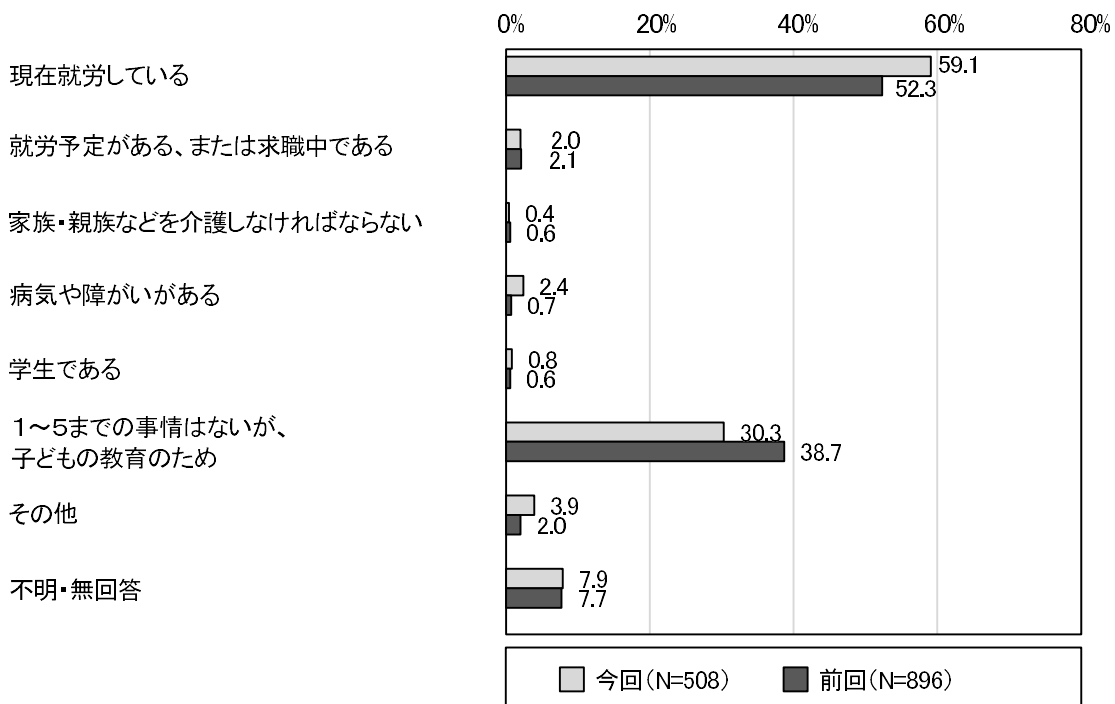
教育・保育事業を利用している場所についてみると、「赤穂市内」が91.5%、「赤穂市外」が1.6%となっています。前回結果と比較した場合、「赤穂市外」が1.4ポイント高くなっています。



(16)で「利用している」を選択した場合のみ回答

(16-4)事業を利用されている理由は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 16-4】

事業を利用している理由についてみると、「現在就労している」が59.1%で最も高く、次いで「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」が30.3%となっています。前回結果と比較した場合、「現在就労している」が6.8ポイント高く、「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」が8.4ポイント低くなっています。

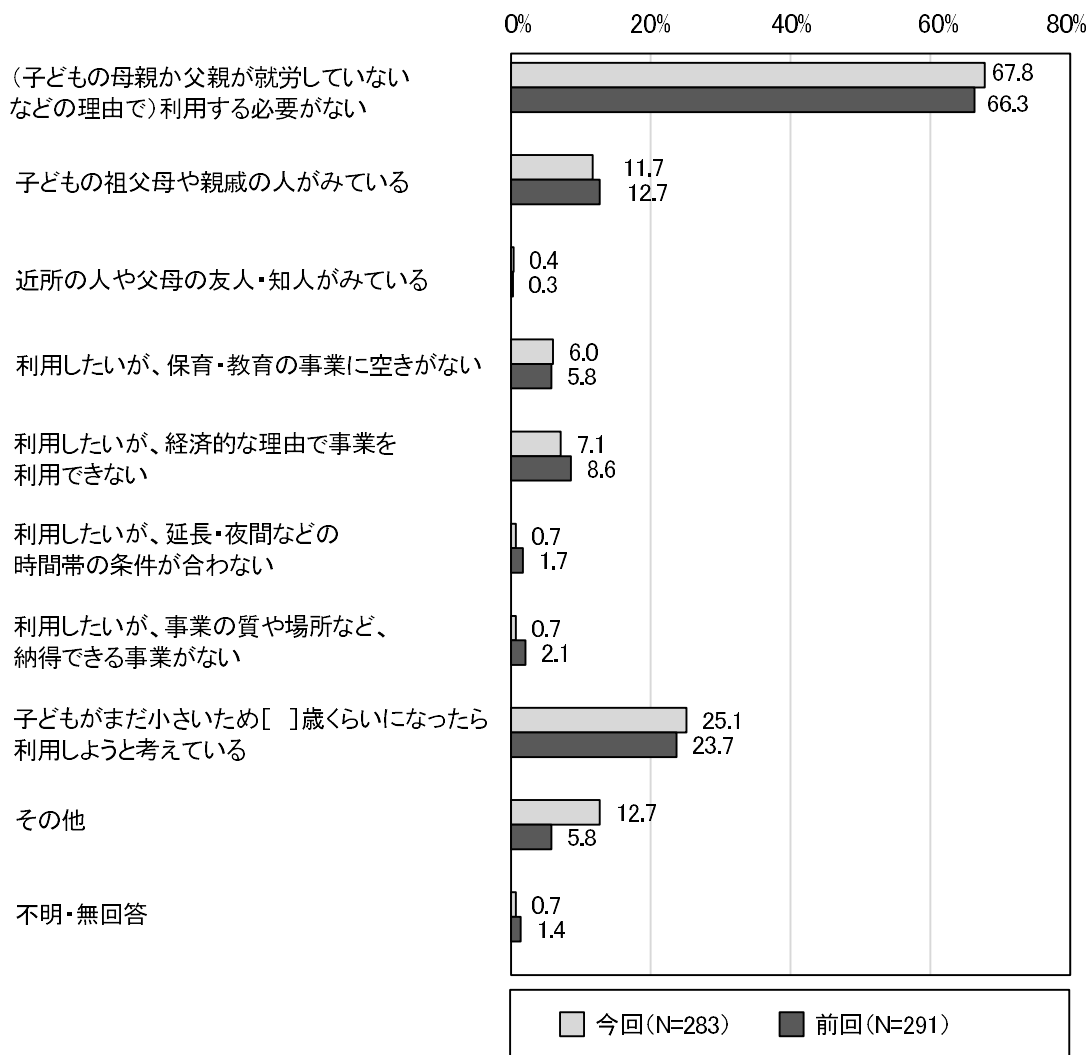


※選択肢「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」の「1～5」とは、「1」が「現在就労している」、「2」が「就労予定がある、または求職中である」、「3」が「家族・親族を介護しなければならない」、「4」が「病気や障がいがある」、「5」が「学生である」を指しています。

(16)で「利用していない」を選択した場合のみ回答

(16-5)事業を利用していない理由は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 16-5】

事業を利用していない理由についてみると、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が67.8%で最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため[]歳くらいになったら利用しようと考えている」が25.1%、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」が11.7%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられませんが、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」の割合が0.2ポイント高くなっています。



★(16-5)×家庭類型別

家庭類型別でみると、[フルタイム×パートタイム(短時間)]を除く全ての家庭類型で「利用する必要がない」が高くなっています。特に[専業主婦(夫)]の場合に、ほかの家庭類型と比べて「利用する必要がない」が高くなっていますが、「子どもがまだ小さいため[]歳くらいになったら利用しようと考えている」が4分の1以上となっており、機会があれば働きたいという意向がうかがえます。

【就学前児童×家庭類型別】

【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭 N=8		フルタイム× N=40		（パフル） 長時間× N=25		（パフル） 短時間× N=12		（専業主婦） N=184		無業×無業 N=2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	利用する必要がない	4	50.0	25	62.5	12	48.0	4	33.3	138	75.0	1
子どもの祖父母や親戚の人がみている	1	12.5	2	5.0	6	24.0	5	41.7	17	9.2	0	0.0
近所の人や父母の友人・知人がみている	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	0	0.0	3	7.5	3	12.0	1	8.3	10	5.4	0	0.0
利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	0	0.0	0	0.0	3	12.0	1	8.3	15	8.2	0	0.0
利用したいが、延長・夜間などの時間帯の条件が合わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0
利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0
子どもがまだ小さいため、[]歳くらいになったら利用しようと考えている	4	50.0	7	17.5	5	20.0	2	16.7	50	27.2	1	50.0
その他	1	12.5	7	17.5	5	20.0	2	16.7	19	10.3	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	1	2.5	0	0.0	1	8.3	0	0.0	0	0.0

※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

(17)現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育事業として、定期的に利用したいと思う事業は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 17】

定期的に利用したい事業についてみると、0～2歳の場合は、「利用しない」「認可保育所」が高くなっています。3～5歳の場合は、「認可保育所」「幼稚園」「認定こども園」が高くなっており、特に4歳・5歳の場合は、「幼稚園の預かり保育」も高くなっています。また、1歳から「認可保育所」を希望する人が多いことがうかがえます。

【第1希望】

【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳	
	N=34		N=142		N=237		N=393		N=552		N=731	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
幼稚園	0	0.0	0	0.0	1	0.4	82	20.9	381	69.0	534	73.1
幼稚園の預かり保育	0	0.0	2	1.4	3	1.3	12	3.1	54	9.8	79	10.8
認可保育所	13	38.2	81	57.0	145	61.2	205	52.2	58	10.5	57	7.8
認定こども園	1	2.9	9	6.3	19	8.0	34	8.7	47	8.5	55	7.5
小規模保育	0	0.0	1	0.7	2	0.8	3	0.8	1	0.2	1	0.1
家庭的保育	0	0.0	0	0.0	2	0.8	1	0.3	0	0.0	0	0.0
事業所内保育施設	0	0.0	6	4.2	12	5.1	9	2.3	2	0.4	0	0.0
自治体の認証・認定保育施設	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	0.5	1	0.2	1	0.1
企業主導型保育施設	0	0.0	3	2.1	3	1.3	1	0.3	0	0.0	0	0.0
その他の認可外保育所	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	0.5	1	0.2	1	0.1
居宅訪問型保育	0	0.0	1	0.7	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ファミリー・サポート・センター	1	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5	1	0.2	2	0.3
利用しない	19	55.9	39	27.5	47	19.8	40	10.2	6	1.1	0	0.0

【第2希望】

【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳	
	N=22		N=100		N=184		N=286		N=392		N=520	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
幼稚園	0	0.0	2	2.0	2	1.1	40	14.0	187	47.7	258	49.6
幼稚園の預かり保育	0	0.0	4	4.0	6	3.3	20	7.0	55	14.0	85	16.3
認可保育所	9	40.9	41	41.0	85	46.2	124	43.4	68	17.3	71	13.7
認定こども園	1	4.5	14	14.0	34	18.5	56	19.6	68	17.3	91	17.5
小規模保育	1	4.5	2	2.0	2	1.1	3	1.0	1	0.3	2	0.4
家庭的保育	0	0.0	0	0.0	1	0.5	2	0.7	0	0.0	0	0.0
事業所内保育施設	2	9.1	6	6.0	10	5.4	8	2.8	3	0.8	3	0.6
自治体の認証・認定保育施設	0	0.0	3	3.0	3	1.6	3	1.0	0	0.0	0	0.0
企業主導型保育施設	0	0.0	2	2.0	4	2.2	2	0.7	0	0.0	0	0.0
その他の認可外保育所	0	0.0	1	1.0	3	1.6	4	1.4	2	0.5	2	0.4
居宅訪問型保育	0	0.0	1	1.0	0	0.0	1	0.3	0	0.0	1	0.2
ファミリー・サポート・センター	1	4.5	0	0.0	2	1.1	2	0.7	1	0.3	3	0.6
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.7	1	0.3	1	0.2
利用しない	8	36.4	24	24.0	32	17.4	19	6.6	6	1.5	3	0.6

(17-1) 幼児教育・保育の無償化が実施された場合、お子さんの平日の教育・保育事業として、定期的に利用したいと思う事業は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 17-1】

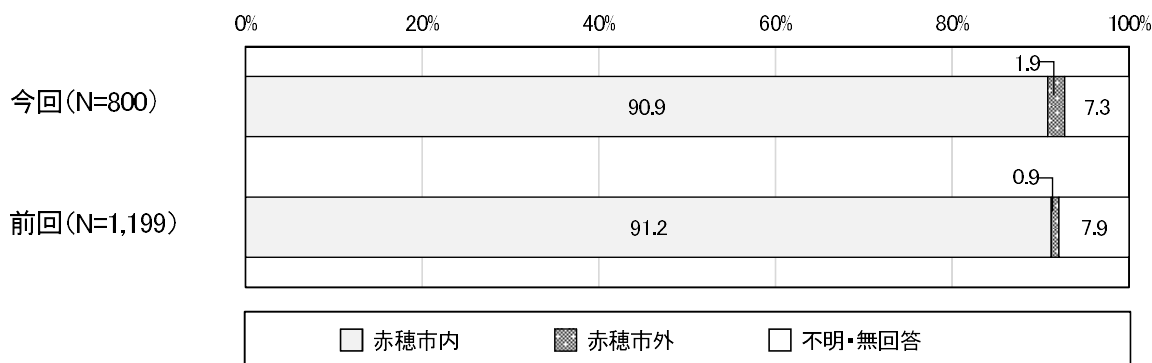
幼児教育・保育の無償化が実施された場合に利用したい事業についてみると、0～2歳の場合は「認可保育所」が、3～5歳の場合は「認可保育所」「幼稚園」が高くなっています。定期的に利用したい事業の第1希望の結果と比較して、0～2歳の「認可保育所」の割合が高くなっており、無償化による保育ニーズの掘り起こしの可能性がうかがえます。また、4歳・5歳では幼稚園の預かり保育の割合も高くなっています。

【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳	
	N=49		N=148		N=244		N=401		N=555		N=724	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
幼稚園	0	0.0	0	0.0	1	0.4	79	19.7	333	60.0	457	63.1
幼稚園の預かり保育	1	2.0	3	2.0	4	1.6	18	4.5	71	12.8	103	14.2
認可保育所	21	42.9	93	62.8	157	64.3	216	53.9	82	14.8	81	11.2
認定こども園	5	10.2	15	10.1	30	12.3	51	12.7	62	11.2	76	10.5
小規模保育	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	0.5	0	0.0	0	0.0
家庭的保育	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5	1	0.2	1	0.1
事業所内保育施設	0	0.0	3	2.0	10	4.1	8	2.0	2	0.4	0	0.0
自治体の認証・認定保育施設	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	0.5	0	0.0	0	0.0
企業主導型保育施設	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他の認可外保育所	0	0.0	0	0.0	2	0.8	2	0.5	2	0.4	2	0.3
居宅訪問型保育	2	4.1	3	2.0	2	0.8	0	0.0	0	0.0	1	0.1
ファミリー・サポート・センター	1	2.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	1	0.1
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5	1	0.2	2	0.3
利用しない	19	38.8	30	20.3	35	14.3	19	4.7	1	0.2	0	0.0

(17-2) 教育・保育事業を利用したい場所についておうかがいします。〈単数回答〉

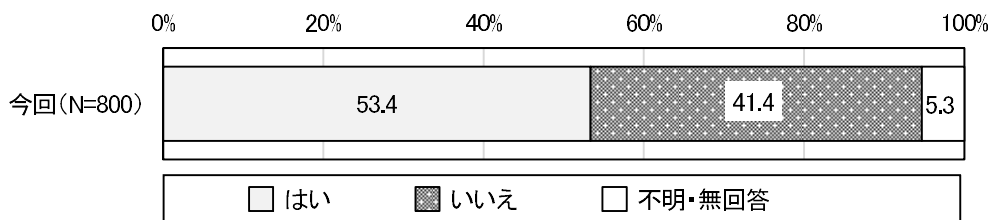
【就学前児童:問 17-2】

教育・保育事業を利用したい場所についてみると、「赤穂市内」が90.9%、「赤穂市外」が1.9%となっています。前回結果と比較した場合、「赤穂市以外」が1.0ポイント高くなっています。



(17-3)赤穂市では、平成 30 年度より一部の幼稚園で3歳児保育(試行)を行っていますが、幼稚園における3歳児保育の利用を希望しますか。〈単数回答〉【就学前児童:問 17-3】

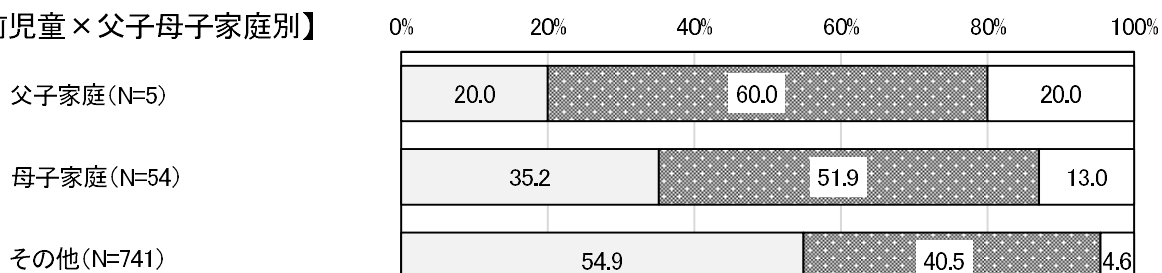
幼稚園における3歳児保育の利用希望についてみると、「はい」(利用したい)が53.4%、「いいえ」(利用したいと思わない)が41.4%となっており、幼児教育を希望する場合、3歳からの利用を希望するニーズが高いことがうかがえます。



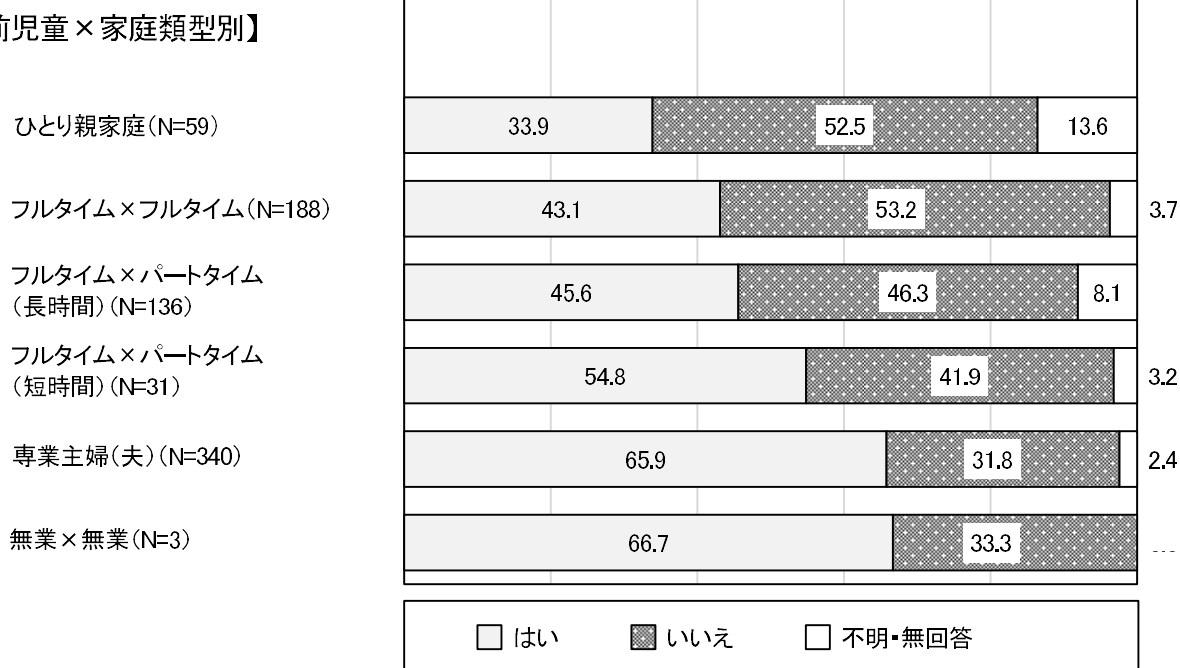
★(17-3)×父子母子家庭別・家庭類型別

父子母子家庭別でみると、[その他]の場合に「はい」が高くなっています。また、家庭類型別でみると、[フルタイム×パートタイム(短時間)]や[専業主婦(夫)]など、勤務時間の短い家庭類型の場合、「はい」が高くなる傾向がみられます。

【就学前児童×父子母子家庭別】



【就学前児童×家庭類型別】



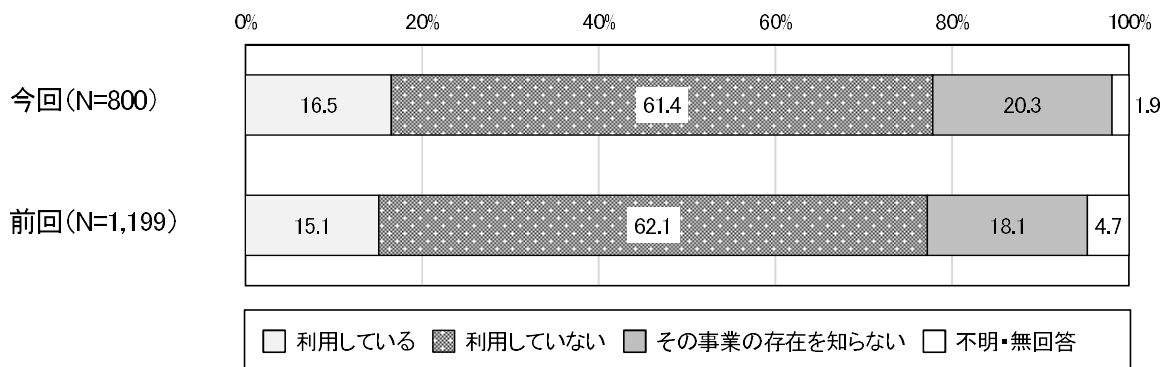
※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

2-4 地域子育て支援事業の利用について

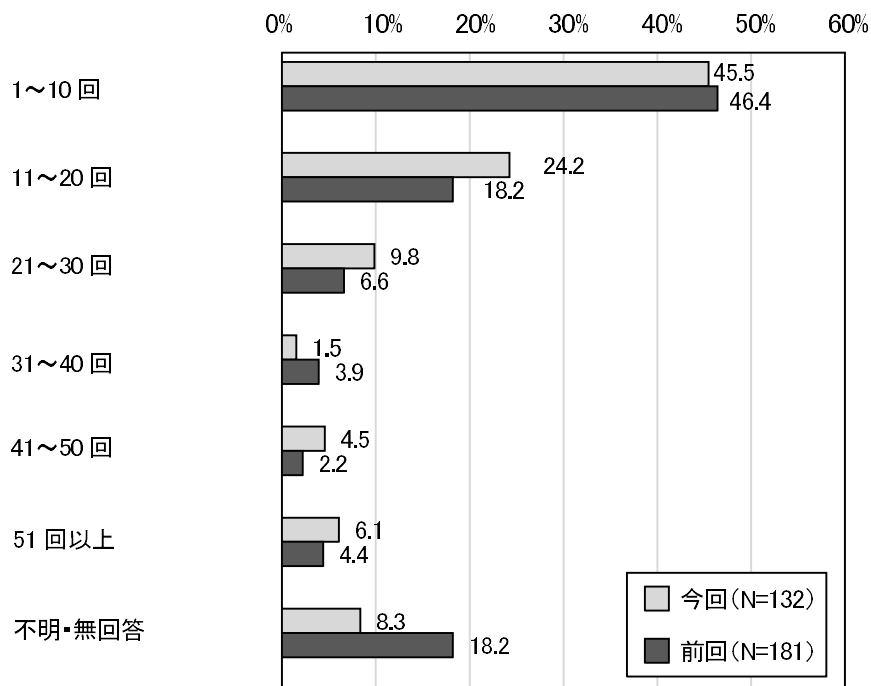
(18)お子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業(子育て学習センター)を利用していますか。

〈単数回答〉【就学前児童:問18】

地域子育て支援拠点事業の利用状況についてみると、「利用している」が16.5%、「利用していない」が61.4%、「その事業の存在を知らない」が20.3%となっています。利用回数でみると、「1～10回」が45.5%で最も高くなっていますが、前回結果と比較した場合、利用回数は全体的に増加しています。



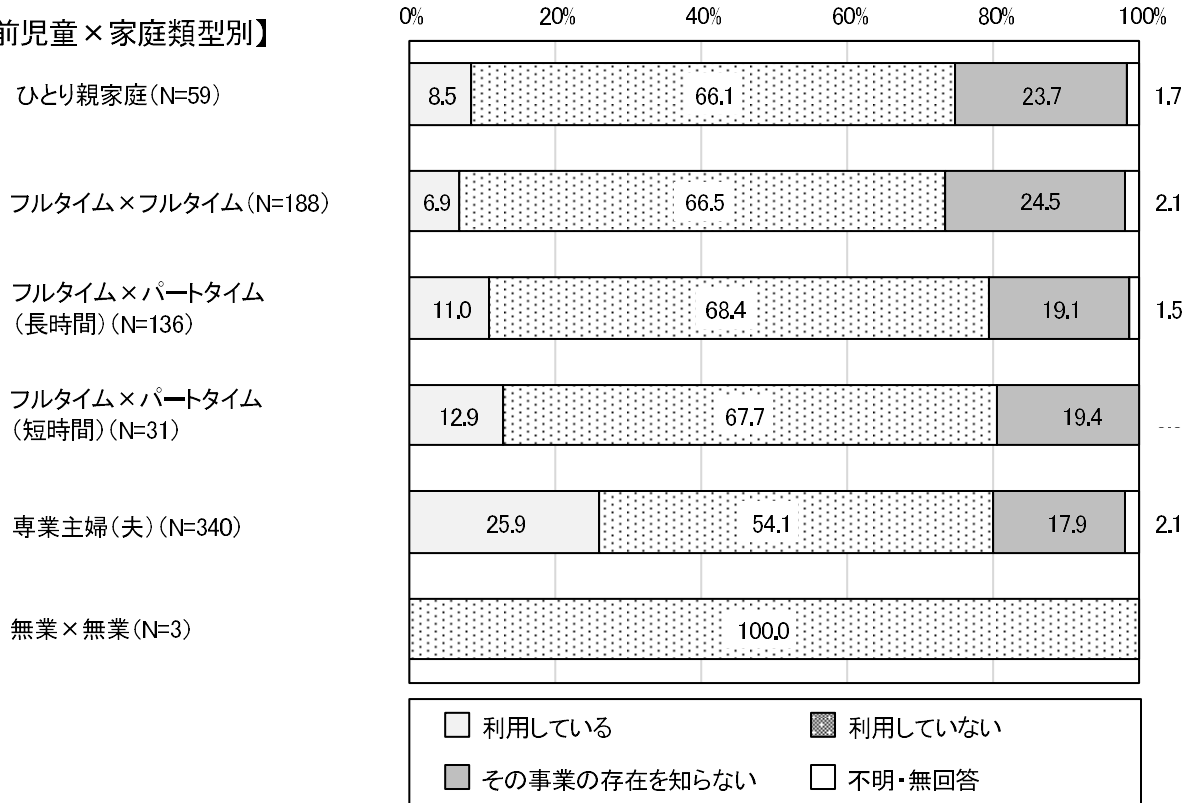
【地域子育て支援事業の年間の利用回数】



★(18)×家庭類型別

家庭類型別でみると、[ひとり親家庭] や [フルタイム×フルタイム] で「利用していない」「その事業の存在を知らない」が9割を超え、地域子育て支援拠点事業の利用度や認知度が低いことがうかがえます。

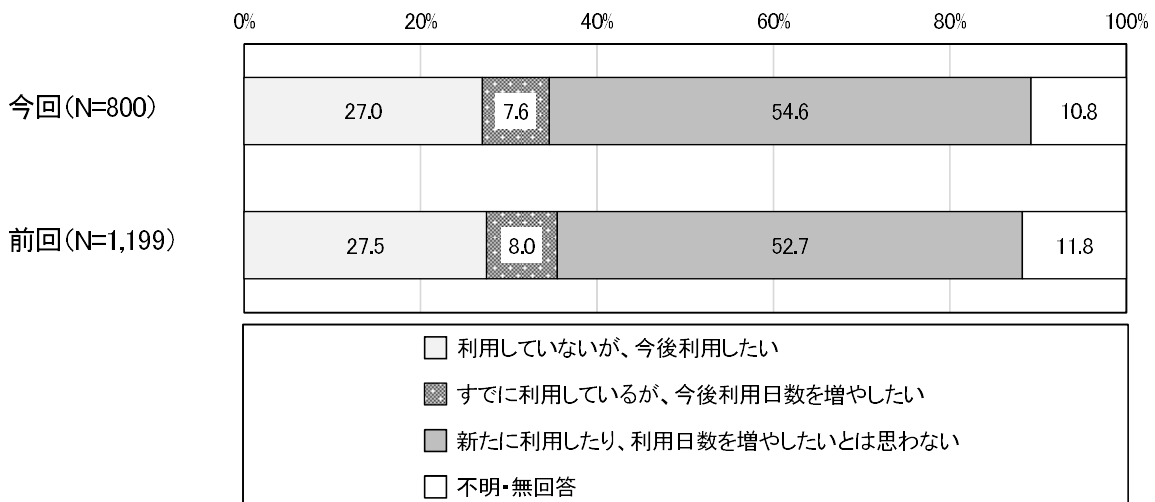
【就学前児童×家庭類型別】



※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

(19)(18)のような地域子育て支援拠点事業(子育て学習センター)について、今後の利用意向はありますか。〈単数回答〉【就学前児童:問 19】

地域子育て支援拠点事業の利用意向についてみると、「利用していないが、今後利用したい」が27.0%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が7.6%、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が54.6%となっています。前回結果同様、3割程度が「利用していないが、今後利用したい」としています。



★(19)×父子母子家庭・家庭類型別

父子母子家庭別で見ると、大きな違いはみられません。家庭類型別で見ると、[フルタイム×パートタイム(短時間)]で、「利用していないが、今後利用したい」が41.9%と高くなっています。また、「利用していないが、今後利用したい」と回答した場合の年間の利用回数は、「1～10回」が56.0%で最も高くなっています。

【就学前児童×父子母子家庭別】

父子家庭(N=5)

母子家庭(N=54)

その他(N=741)

【就学前児童×家庭類型別】

ひとり親家庭(N=59)

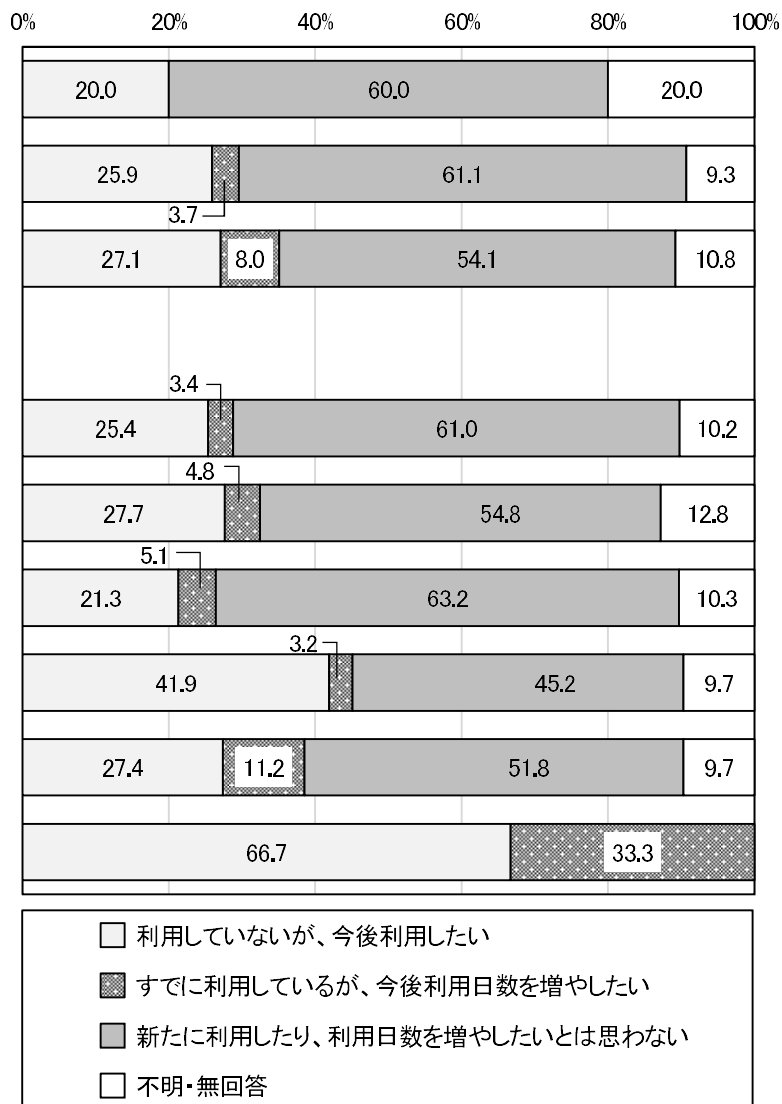
フルタイム×フルタイム(N=188)

フルタイム×パートタイム
(長時間)(N=136)

フルタイム×パートタイム
(短時間)(N=31)

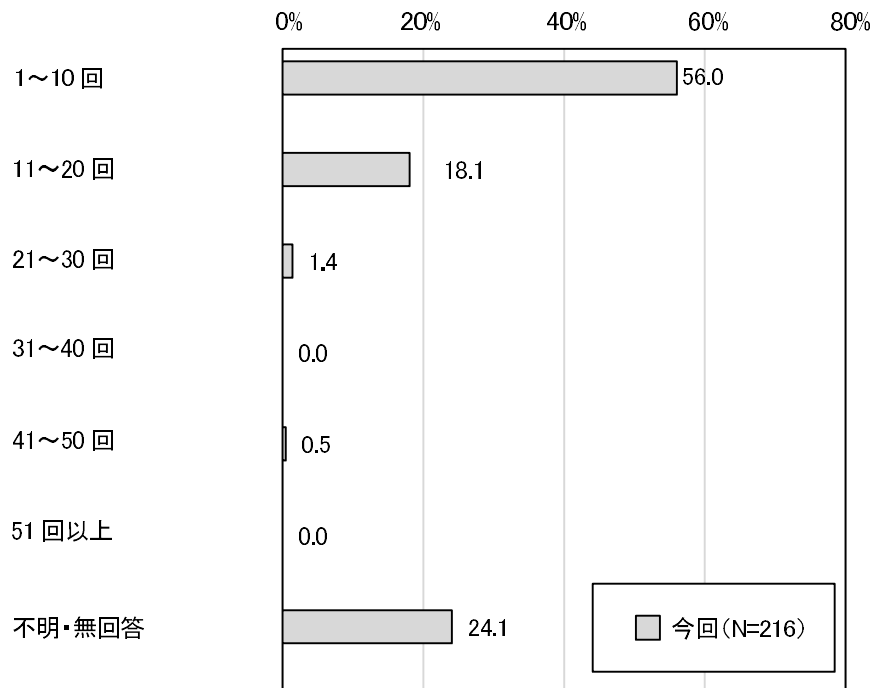
専業主婦(夫)(N=340)

無業×無業(N=3)

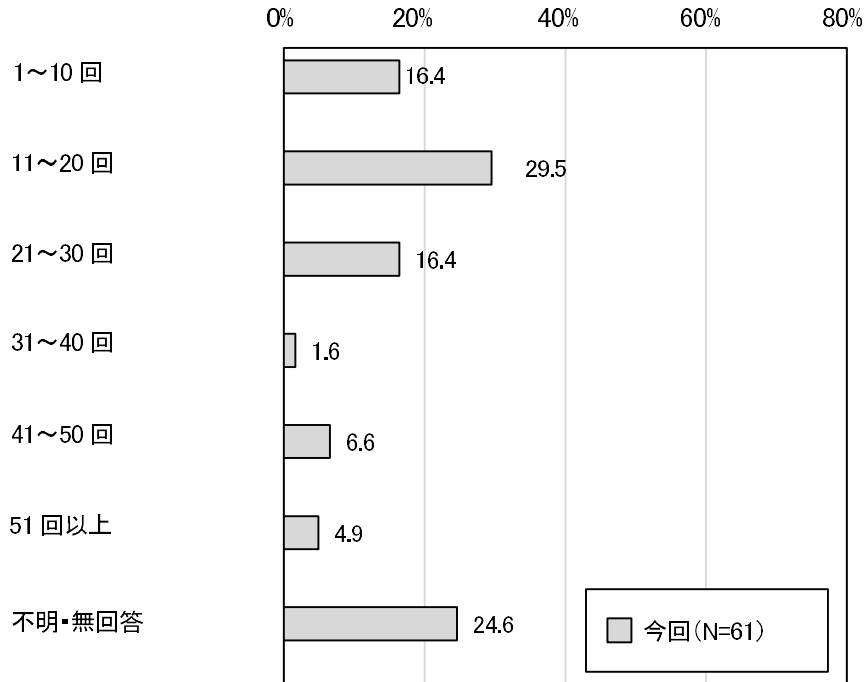


※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

【「利用していないが、今後利用したい」と回答した場合の年間の利用回数】



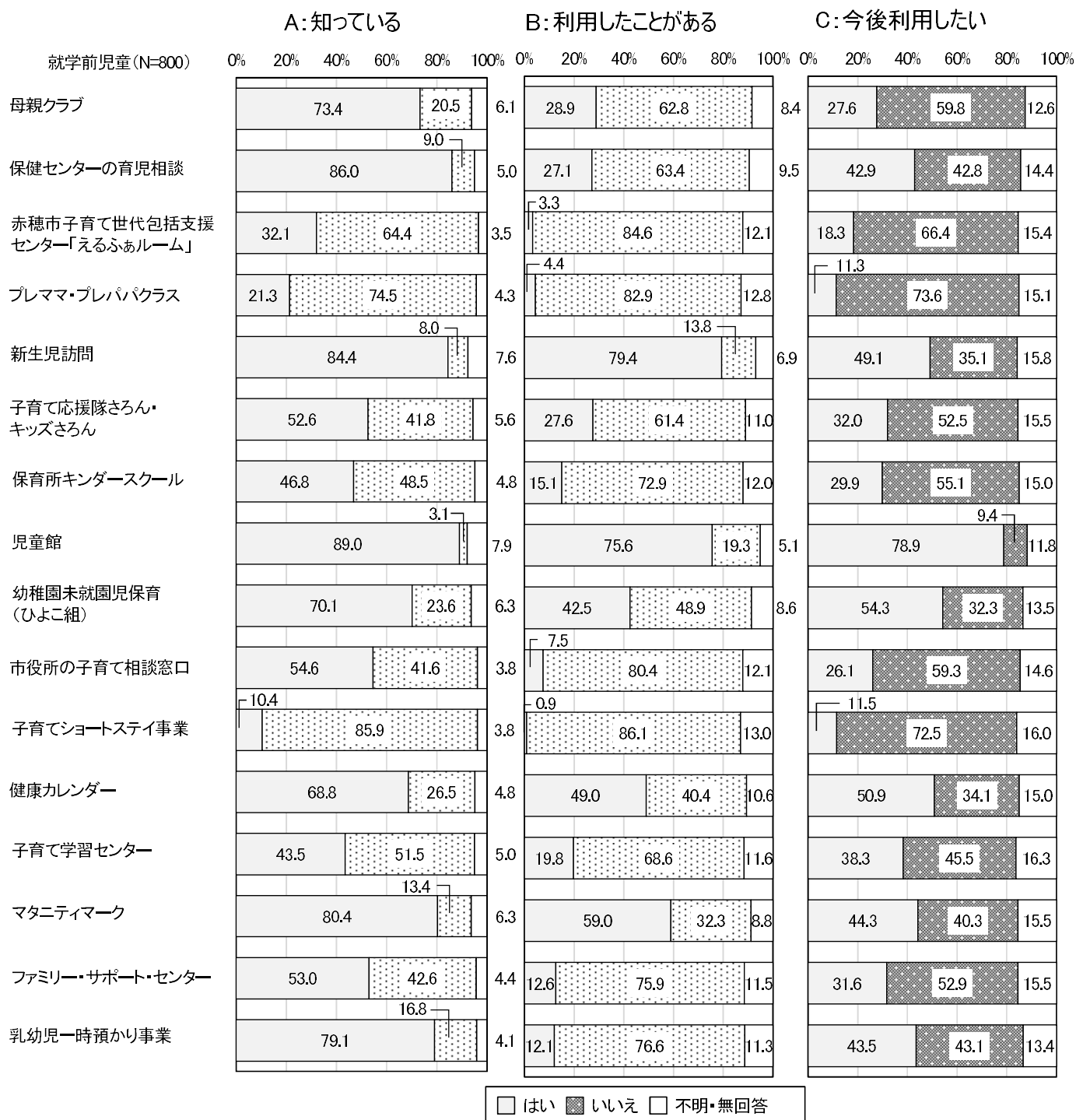
【「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した場合の年間の利用日数】



(20)地域子育て支援拠点事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。〈単数回答〉【就学前児童:問20】

事業の認知度（A：知っている）についてみると、[児童館] や [保健センターの育児相談]、[新生児訪問] において「はい」が高くなっています。事業の利用経験（B：利用したことがある）についてみると、[新生児訪問] や [児童館]、[マタニティマーク] において「はい」が高くなっています。事業の利用意向（C：今後利用したい）についてみると、[児童館] や [幼稚園未就園児保育（ひよこ組）]、[健康カレンダー] において「はい」が高くなっています。

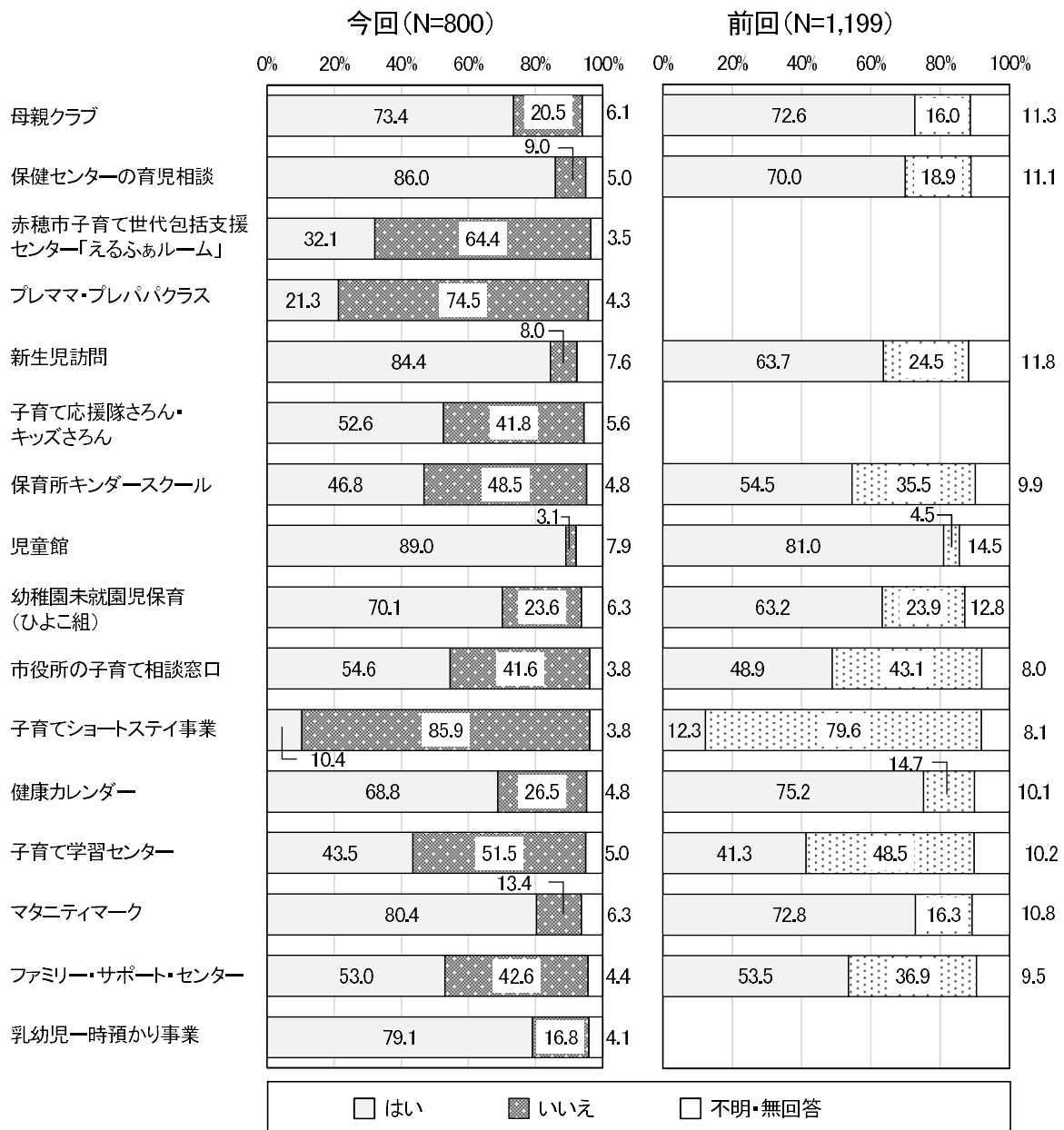
ほとんどの事業において、「利用したことがある」よりも「今後利用したい」の割合が高くなっており、利用方法や利用場所など適切な周知が必要であることがうかがえます。



前回結果と比較した場合、事業の認知度（A：知っている）についてみると、[保健センターの育児相談] や [新生児訪問] が高くなっています。事業の利用経験（B：利用したことがある）についてみると、[新生児訪問] や [児童館]、[マタニティマーク] が高くなっています。事業の利用意向（C：今後利用したい）についてみると、[新生児訪問] や [児童館]、[幼稚園未就園児保育（ひよこ組）] が高くなっています。

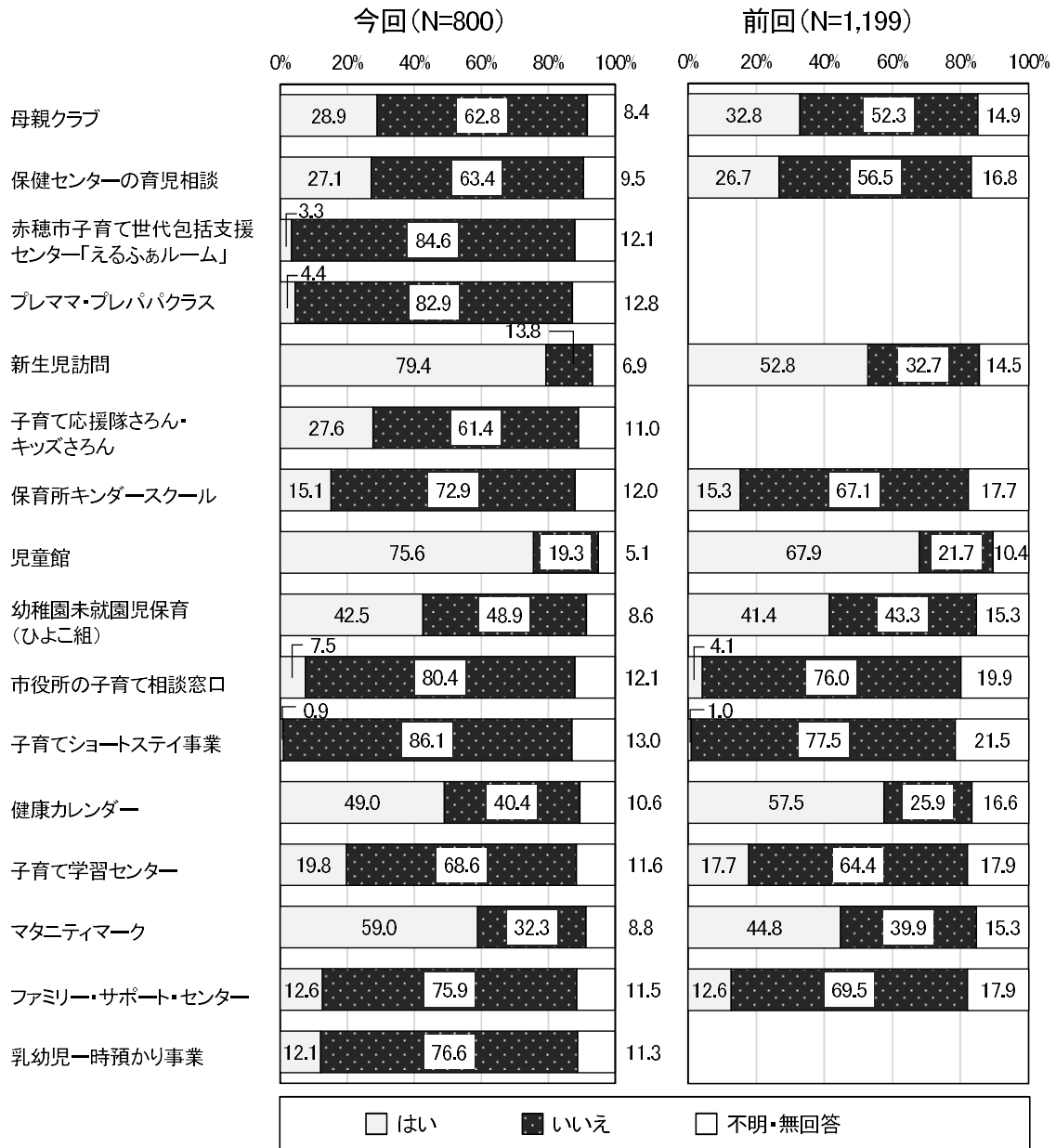
「新生児訪問」や乳幼児健診等で紹介を行っている「保健センターの育児相談」については、前回調査と比べ、認知度が高くなっており、子育て家庭に浸透していることがうかがえます。また、子育て世代包括支援センターや市役所の子育て相談窓口、乳幼児一時預かり事業は、「利用したことがある」よりも「今後利用したい」の割合が高くなっています。

【事業の認知度(A:知っている)の前回比較】



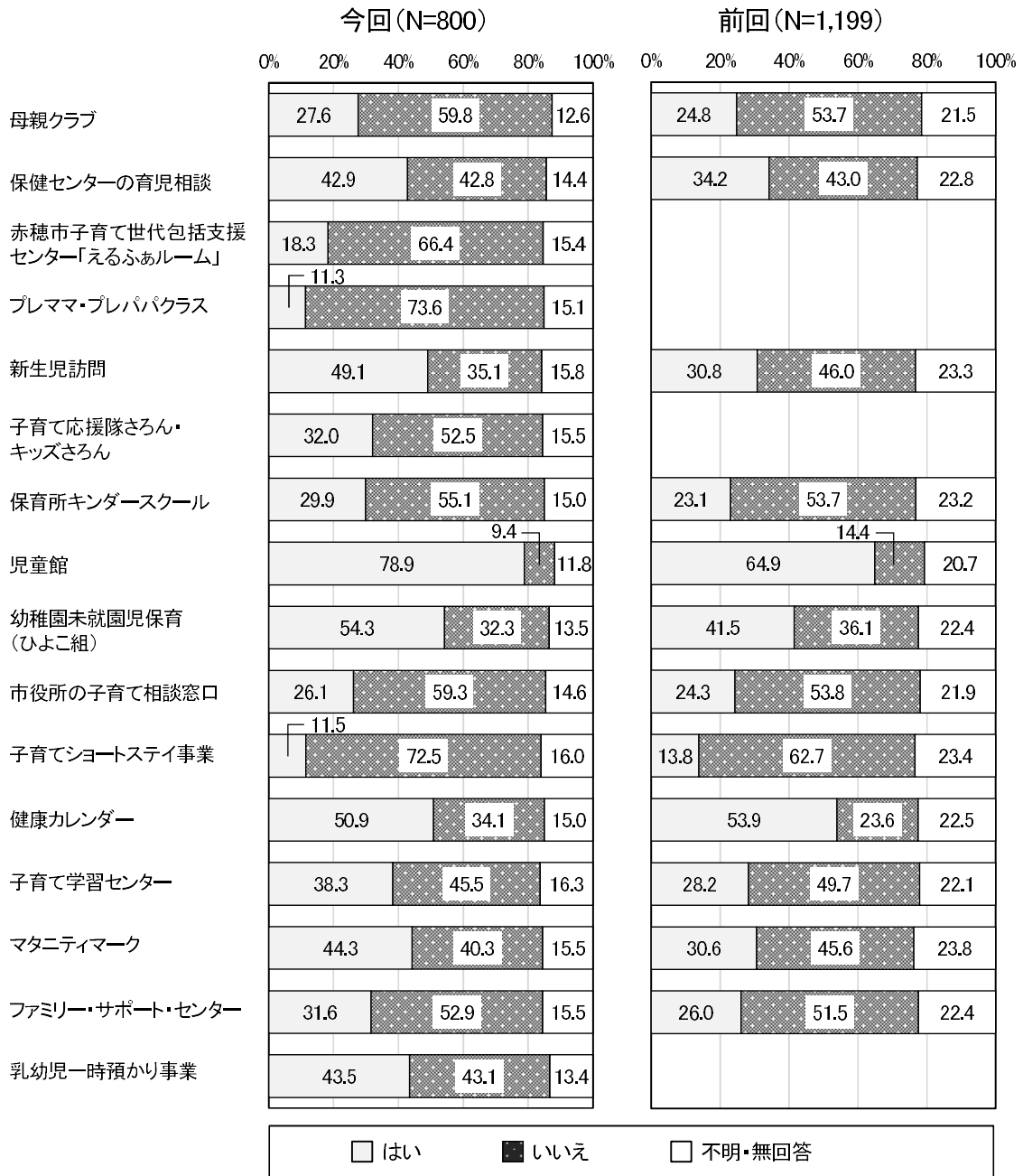
※「赤穂市子育て世代包括支援センター『えるふぁルーム』」「プレママ・プレパパクラス」「子育て応援隊さろん・キッズさろん」「乳幼児一時預かり事業」は今回調査のみの項目です。

【事業の利用経験(B:利用したことがある)の前回比較】



※「赤穂市子育て世代包括支援センター『えるふぁルーム』」「プレママ・プレパパクラス」「子育て応援隊さろん・キッズさろん」「乳幼児一時預かり事業」は今回調査のみの項目です。

【事業の利用意向(C:今後利用したい)の前回比較】



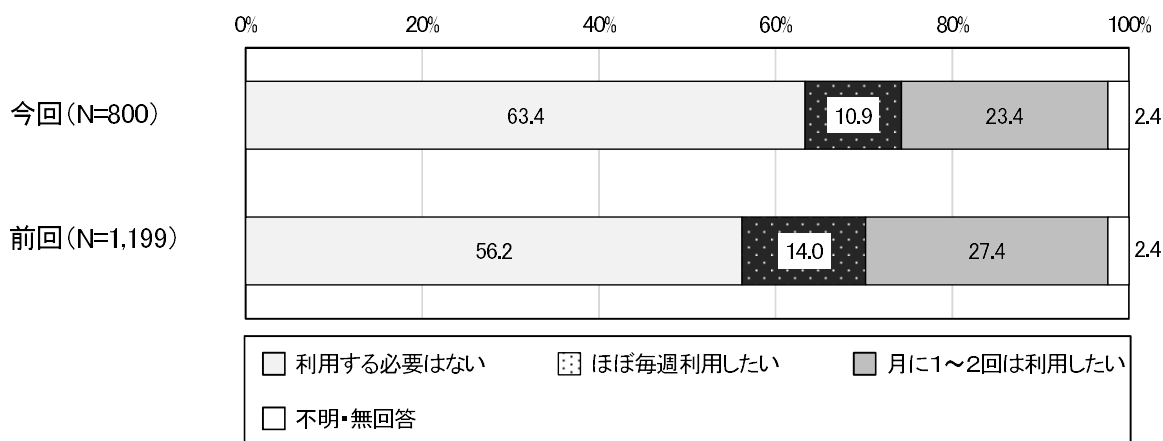
※「赤穂市子育て世代包括支援センター『えるふぁルーム』」「プレママ・プレパパクラス」「子育て応援隊さろん・キッズさろん」「乳幼児一時預かり事業」は今回調査のみの項目です。

2-5 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用について

(21)①お子さんについて、土曜日に「定期的な」教育・保育事業の利用希望はありますか。

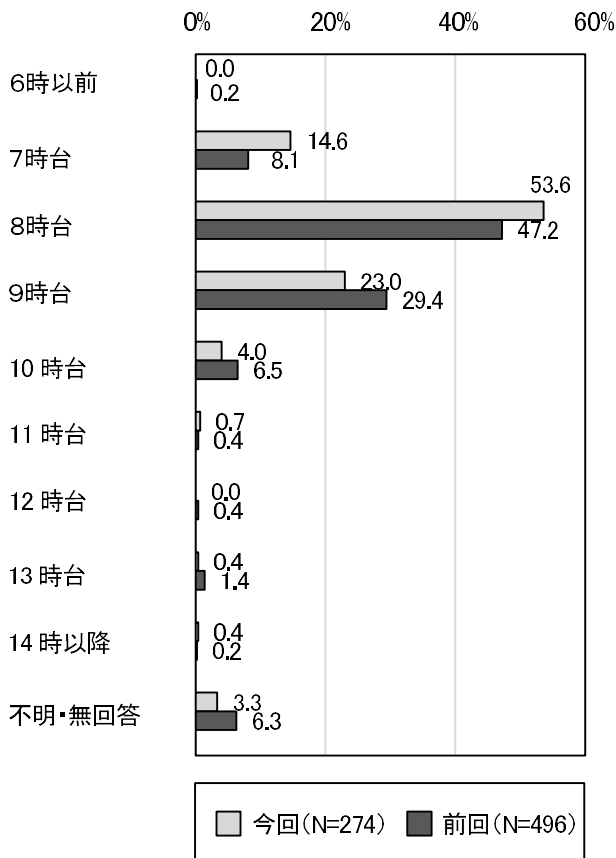
〈単数回答〉【就学前児童:問21】

土曜日の「定期的な」教育・保育事業の利用意向についてみると、「利用する必要はない」が63.4%、「ほぼ毎週利用したい」が10.9%、「月に1～2回は利用したい」が23.4%となっています。前回結果と比較した場合、「利用する必要はない」が7.2ポイント高くなっています。また、利用したい時間帯については、利用開始時間が「8時台」、利用終了時間が「17時台」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

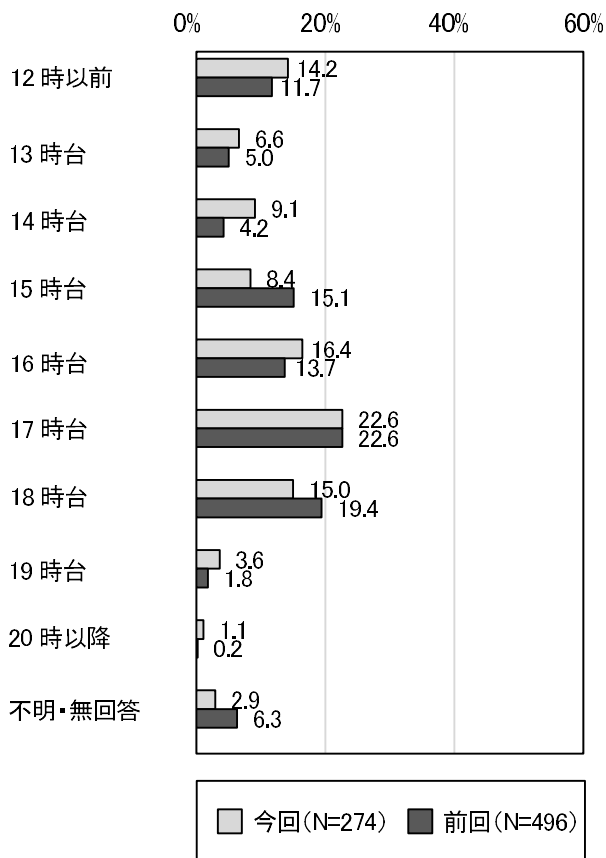


【利用したい時間帯】

■ 利用開始時間



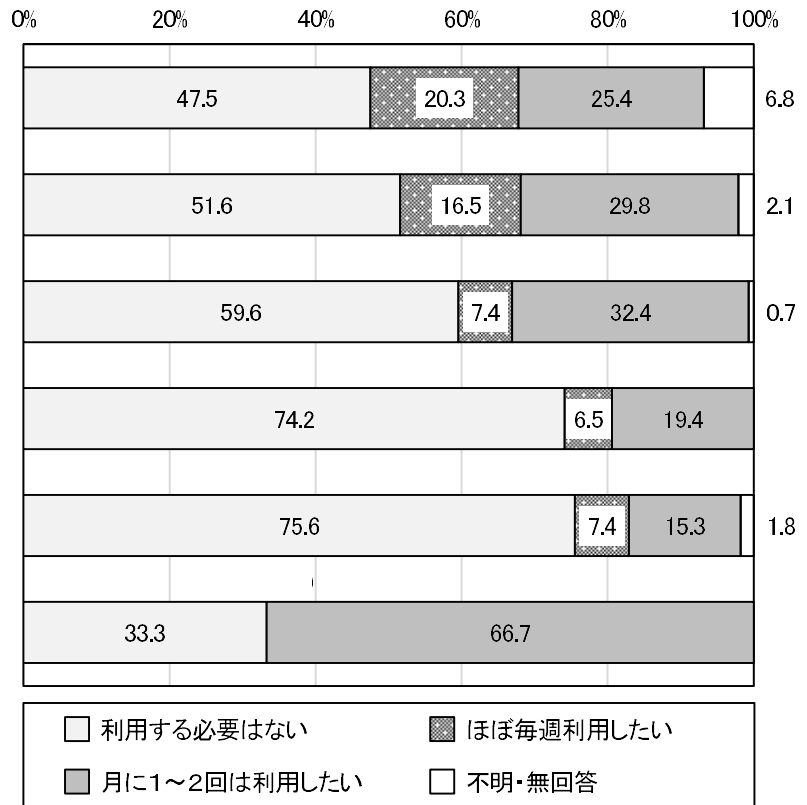
■ 利用終了時間



★(21)①×家庭類型別

家庭類型別でみると、[フルタイム×パートタイム(短時間)]や[専業主婦(夫)]で「利用する必要はない」が7割を超えています。一方、[ひとり親家庭]や[フルタイム×フルタイム]では、『利用したい』(「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」の合算)が5割程度と高くなっており、これらの家庭類型における土曜日の保育のニーズの高さがうかがえます。

【就学前児童×家庭類型別】



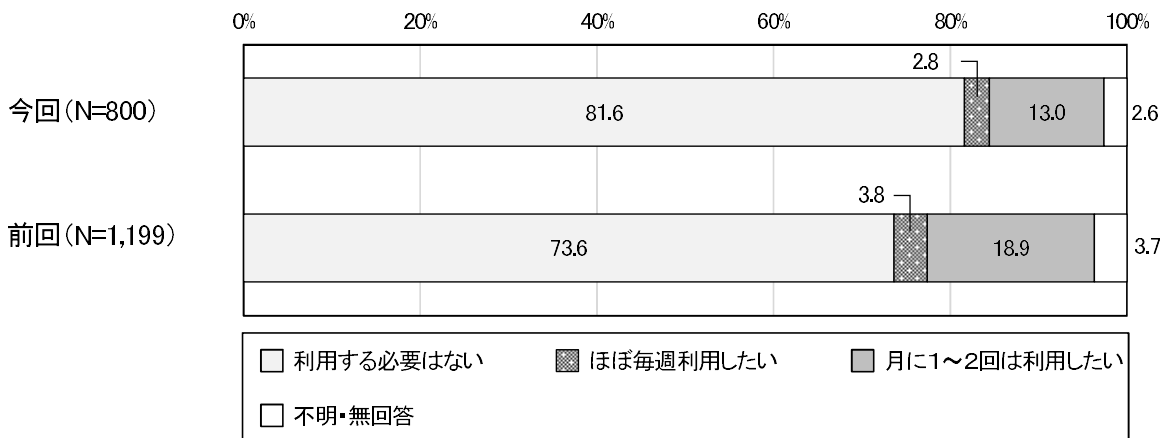
※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

(21)②お子さんについて、日曜日・祝日に「定期的な」教育・保育事業の利用希望はありますか。

〈単数回答〉【就学前児童:問21】

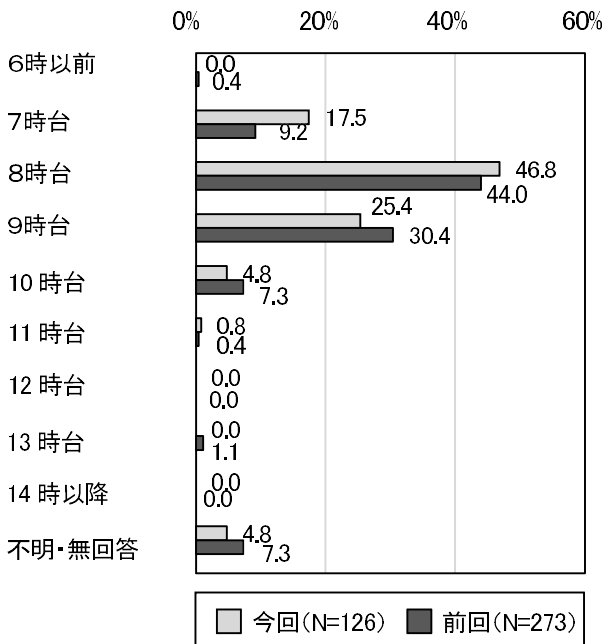
日曜日・祝日の「定期的な」教育・保育事業の利用意向についてみると、「利用する必要はない」が81.6%、「ほぼ毎週利用したい」が2.8%、「月に1～2回は利用したい」が13.0%となっています。前回結果と比較した場合、「利用する必要はない」が8ポイント高くなっています。

利用開始時間は、「8時台」が46.8%、利用終了時間は「17時台」が32.5%で最も高くなっています。

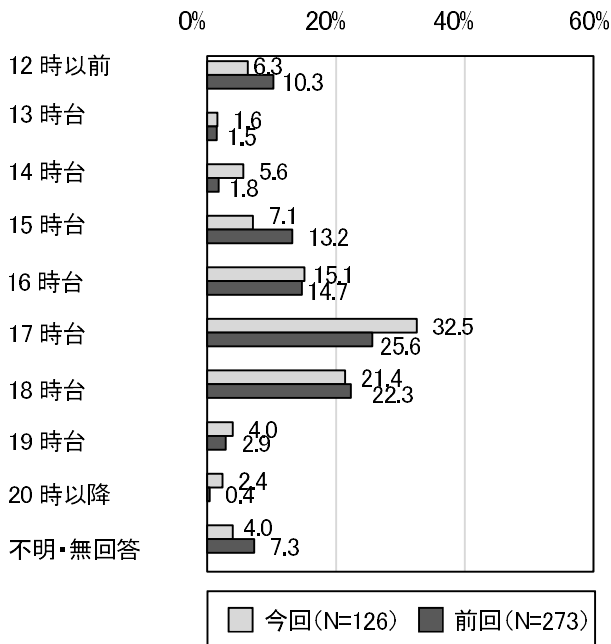


【利用したい時間帯】

■ 利用開始時間



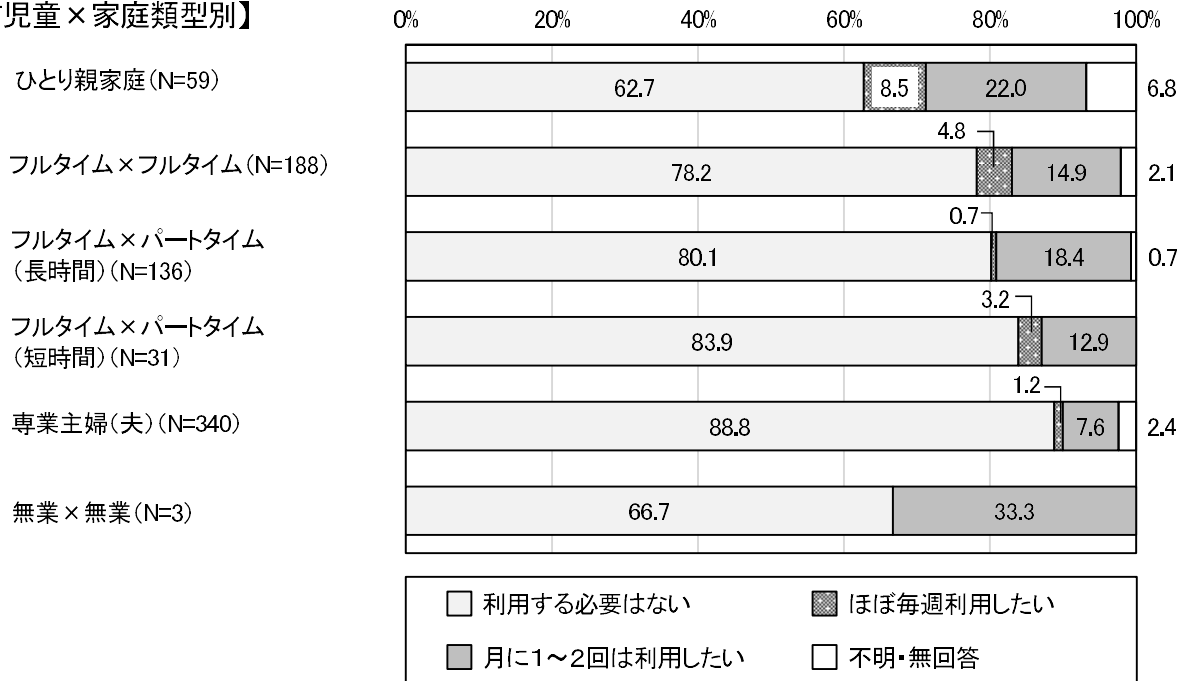
■ 利用終了時間



★(21)②×家庭類型別

家庭類型別でみると、[ひとり親家庭] の場合、「ほぼ毎週利用したい」や「月に1～2回は利用したい」が他の家庭類型と比べて高くなっています。土曜日の保育ニーズに比べて、全体的に低くなっていますが、[ひとり親家庭]の「月に1～2回は利用したい」はほぼ同じ割合となっています。

【就学前児童×家庭類型別】

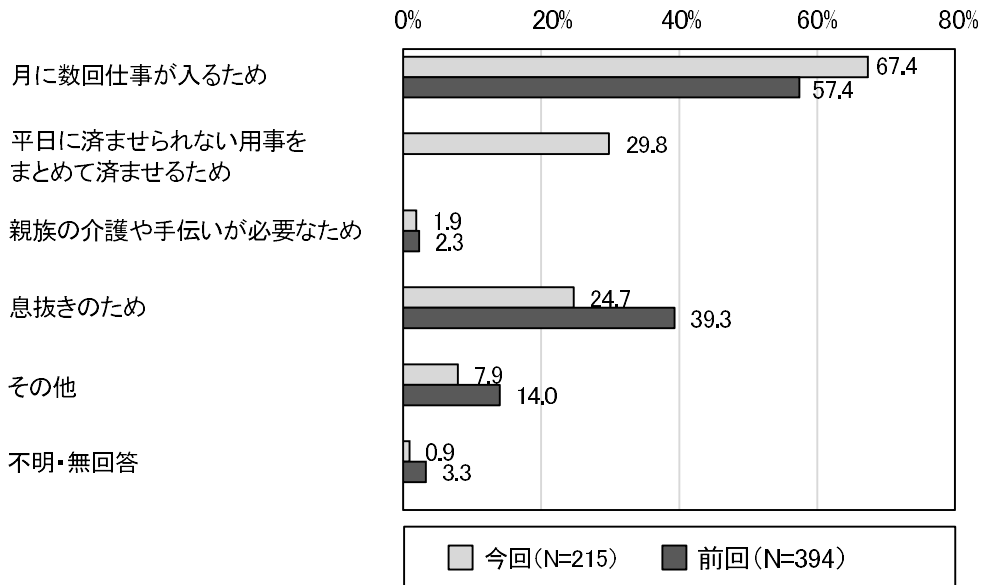


※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

(21)①または②で「月に1~2回は利用したい」を選択した場合のみ回答

(21-1)毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 21-1】

たまに利用したいと考える理由についてみると、「月に数回仕事が入るため」が67.4%で最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が29.8%、「息抜きのため」が24.7%となっています。前回結果と比較した場合、「月に数回仕事が入るため」が高く、「息抜きのため」が低くなっています。新たな項目である「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」も3割程度と高くなっています。



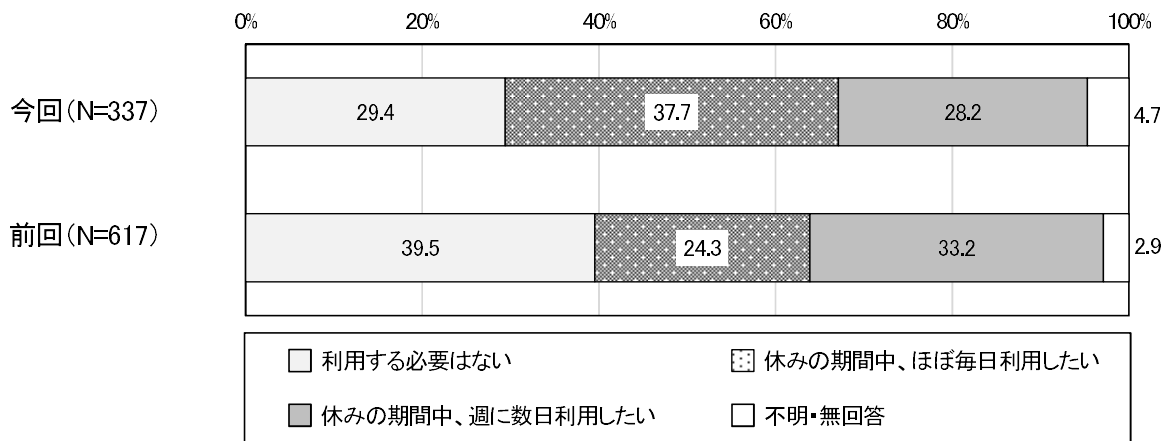
※「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」は今回調査のみの選択肢です。

平日に定期的に幼稚園を利用している場合のみ回答

(22)幼稚園の夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中に、教育・保育事業の利用希望はありますか。〈単数回答〉【就学前児童:問 22】

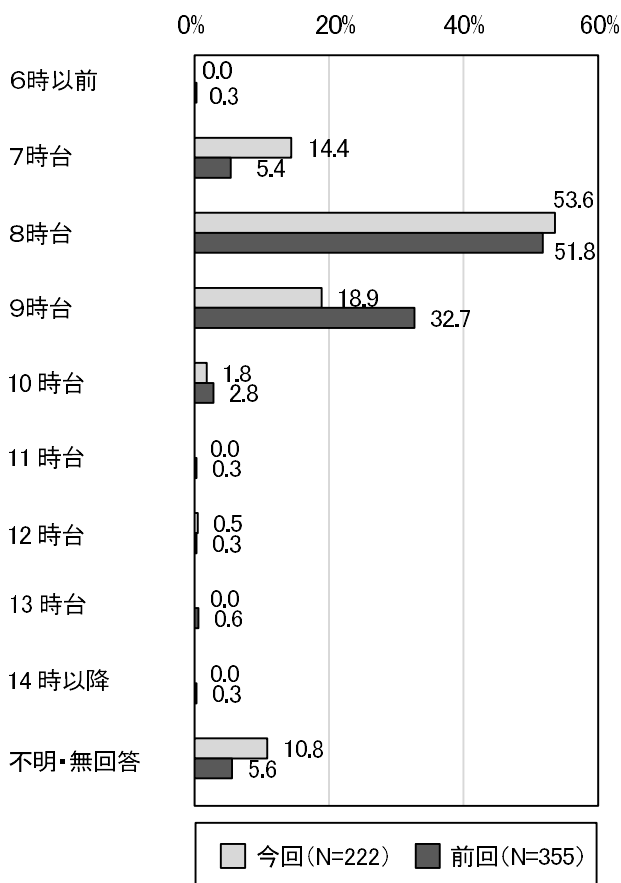
長期休暇期間中の事業の利用希望についてみると、「利用する必要はない」が29.4%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が37.7%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が28.2%となっています。前回結果と比較した場合、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が13.4ポイント高くなっており、幼稚園利用における長期休暇期間中のニーズが増加していることがうかがえます。

利用したい時間帯は利用開始時間が「8時台」、利用終了時間が「17時台」で最も高くなっていきます。

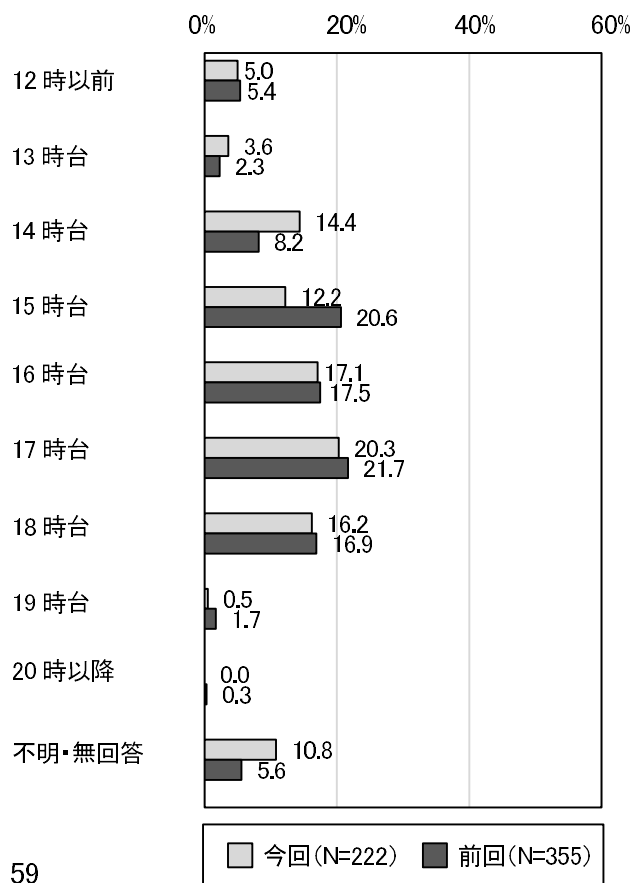


【利用したい時間帯】

■ 利用開始時間



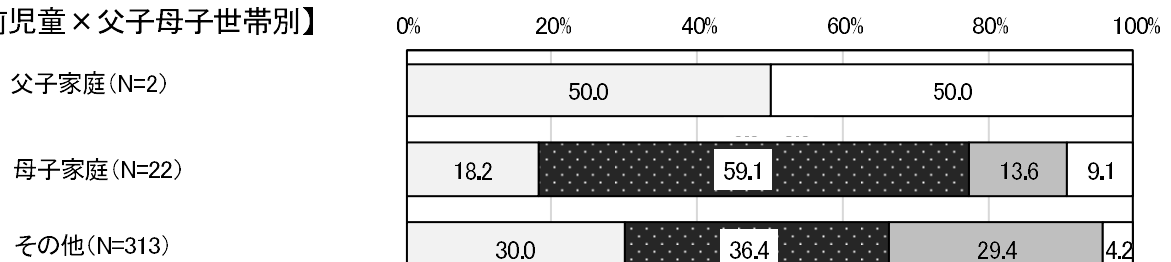
■ 利用終了時間



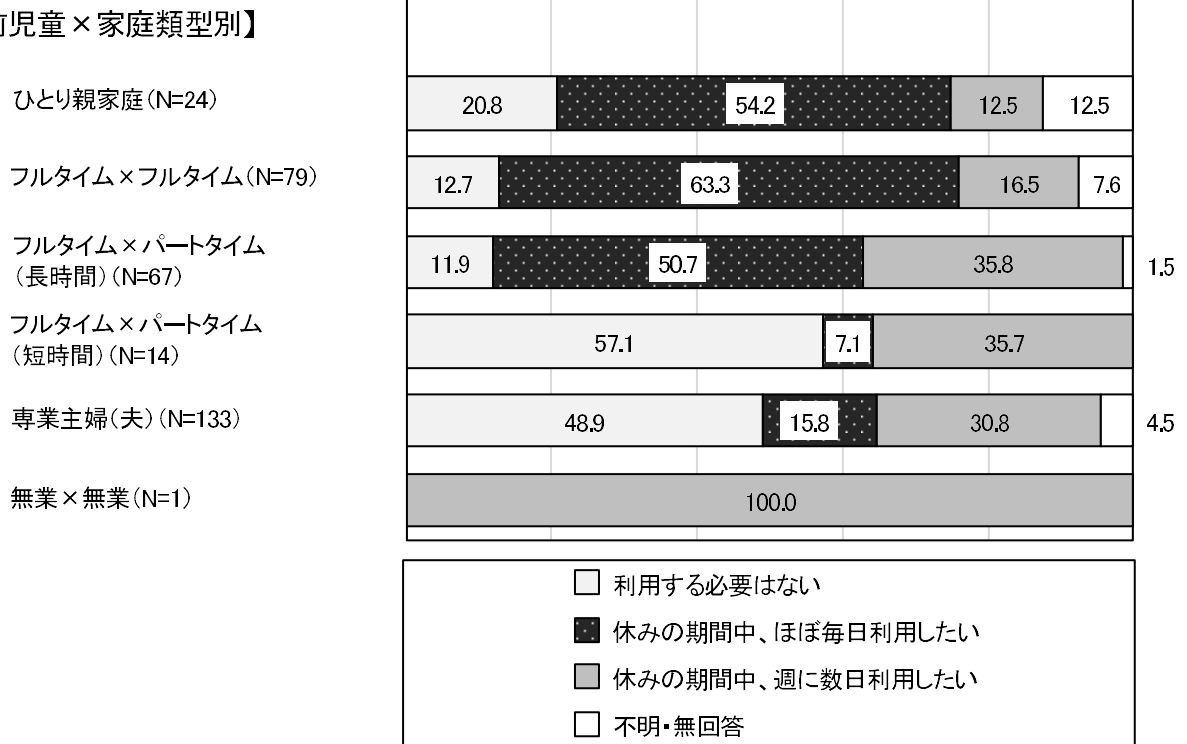
★(22)×父子母子家庭別・家庭類型別

父子母子家庭別でみると、[母子家庭]の場合に「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が[その他]と比べて高くなっています。また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭]や[フルタイム×フルタイム]、[フルタイム×パートタイム(長時間)]の場合に「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が高くなっている一方で、[フルタイム×パートタイム(短時間)]や[専業主婦(夫)]の場合に「利用する必要はない」が高くなっています。

【就学前児童×父子母子世帯別】



【就学前児童×家庭類型別】

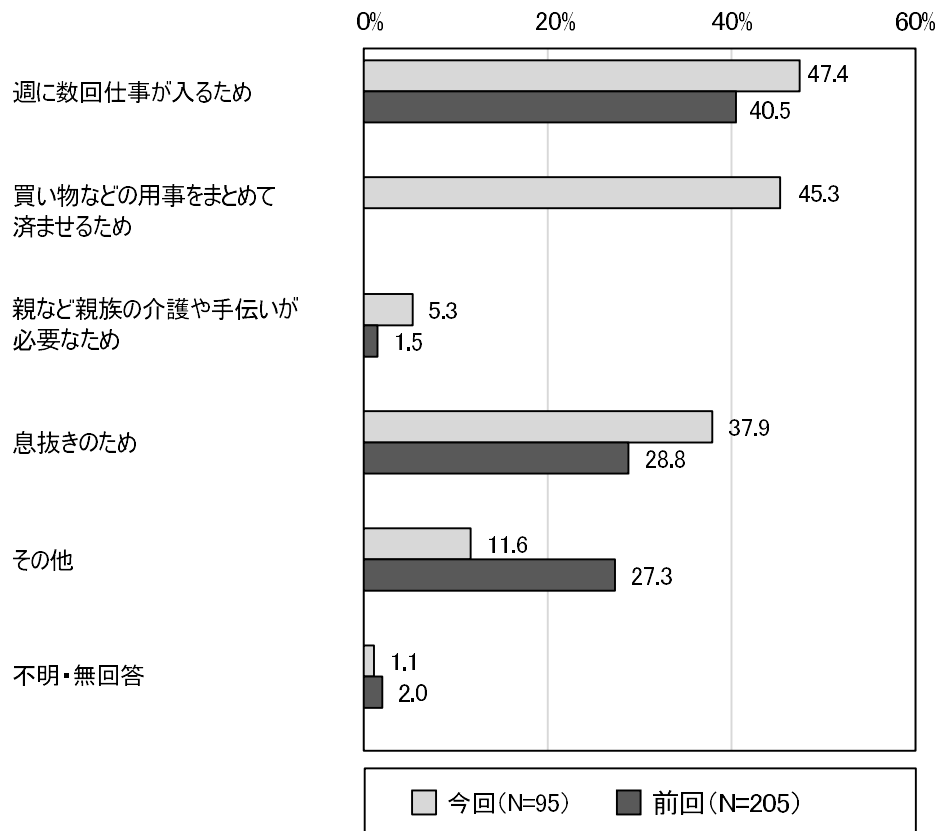


※就学前児童は[パートタイム×パートタイム(長時間)][パートタイム×パートタイム(短時間)]の有効回答はありません。

(22)で「休みの期間中、週に数日利用したい」を選択した場合のみ回答

(22-1)毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 22-1】

たまに利用したいと考える理由についてみると、「週に数回仕事が入るため」が47.4%で最も高く、次いで「買い物などの用事をまとめて済ませるため」が45.3%、「息抜きのため」が37.9%となっています。



※「買い物などの用事をまとめて済ませるため」は今回調査のみの選択肢です。

2-6 病気の際の対応について

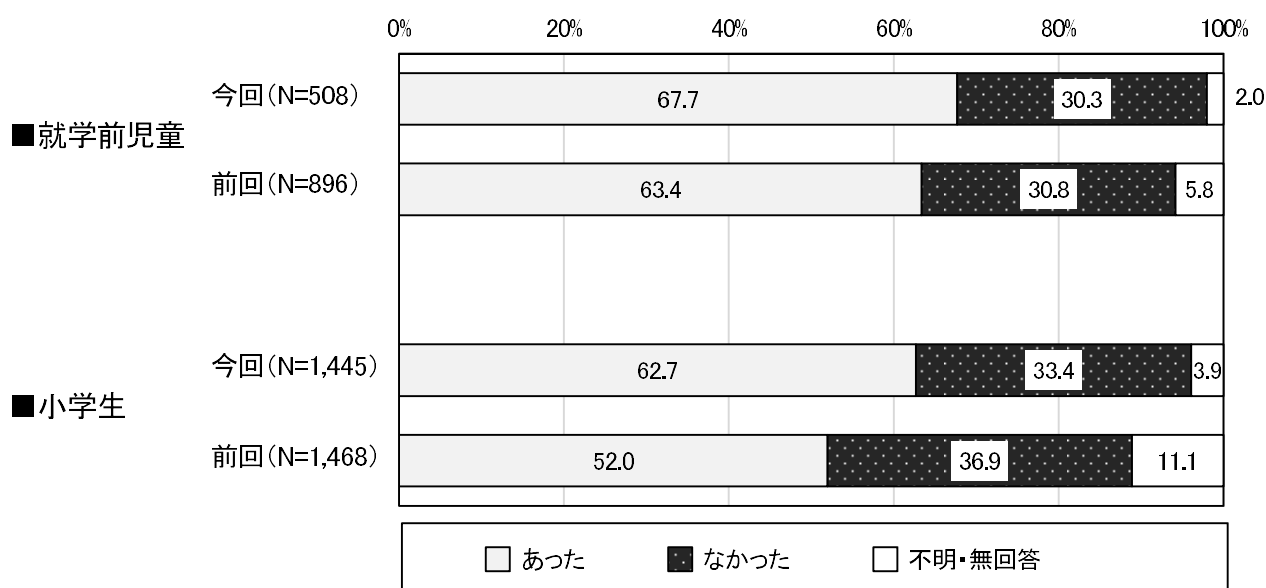
就学前児童は、平日に定期的に幼稚園・保育所を利用している場合のみ回答

(23)この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の利用や通学ができなかったことはありますか。

〈単数回答〉【就学前児童:問23、小学生:問16】

病気やケガで通園・通学ができなかった経験の有無についてみると、就学前児童では「あった」が67.7%、「なかった」が30.3%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

小学生では「あった」が62.7%、「なかった」が33.4%となっています。前回結果と比較した場合、「あった」が10.7ポイント高くなっています。



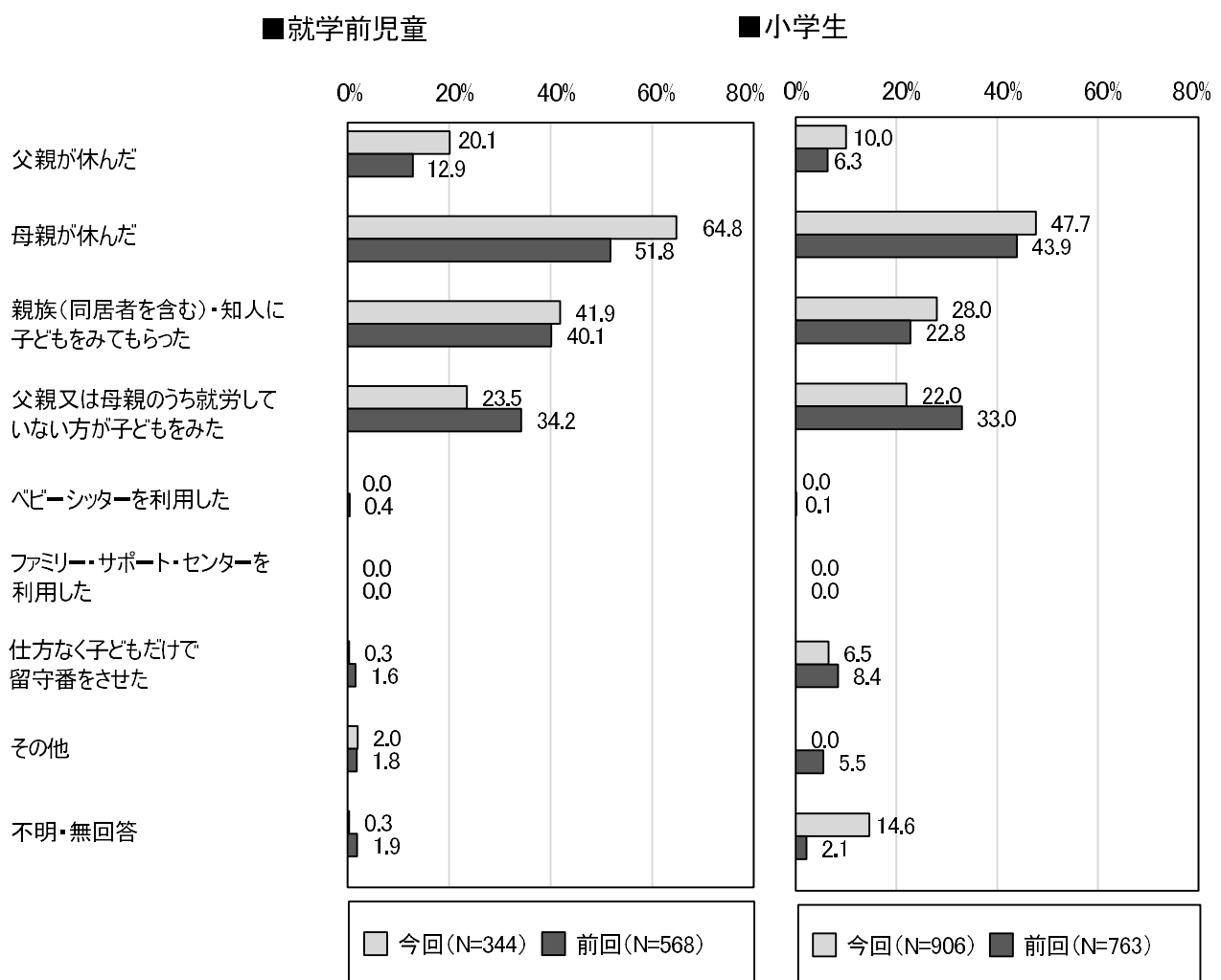
(23)で「あった」を選択した場合のみ回答

(23-1)通園・通学ができなかった際、どのように対応しましたか。〈複数回答〉

【就学前児童:問 23-1、小学生:問 16-1】

通園・通学ができなかった際の対応についてみると、就学前児童では「母親が休んだ」が64.8%で最も高く、次いで「親族（同居者を含む）・知人に子どもをみてもらった」が41.9%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が23.5%となっています。前回結果と比較した場合、「父親が休んだ」が7.2ポイント、「母親が休んだ」が13.0ポイント高くなっています。

小学生では「母親が休んだ」が47.7%で最も高く、次いで「親族（同居者を含む）・知人に子どもをみてもらった」が28.0%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が22.0%となっています。前回結果と比較した場合、「父親が休んだ」が3.7ポイント、「母親が休んだ」が3.8ポイント高くなっています。



【対応方法ごとの日数】

①就学前児童

【就学前児童】 対応方法別	父親が休んだ		母親が休んだ		み人を親 てに含族 も子む(同 らど)・居 つも・居 たを知者		子ての父 どいう親 もなち又 をい就は み方労母 たがし親		番も仕 をだ方 さけなく せでく た留子 守ど		そ の 他	
	N=66		N=208		N=133		N=76		N=1		N=5	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	15	22.7	27	13.0	25	18.8	8	10.5	1	100.0	2	40.0
2日	15	22.7	34	16.3	25	18.8	11	14.5	0	0.0	0	0.0
3日	10	15.2	31	14.9	20	15.0	10	13.2	0	0.0	0	0.0
4日	1	1.5	9	4.3	7	5.3	7	9.2	0	0.0	1	20.0
5日	12	18.2	26	12.5	15	11.3	11	14.5	0	0.0	0	0.0
6日	1	1.5	7	3.4	3	2.3	3	3.9	0	0.0	1	20.0
7日以上	12	18.2	74	35.5	38	28.6	26	34.1	0	0.0	1	20.0

※「ベビーシッターを利用した」「ファミリー・サポート・センターを利用した」の有効回答はありません。

※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

②小学生

【小学生】 対応方法別	父親が休んだ		母親が休んだ		み人を親 てに含族 も子む(同 らど)・居 つも・居 たを知者		子ての父 どいう親 もなち又 をい就は み方労母 たがし親		番も仕 をだ方 さけなく せでく た留子 守ど	
	N=91		N=432		N=254		N=199		N=59	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	60	65.9	122	28.2	80	31.5	50	25.1	25	42.4
2日	18	19.8	115	26.6	63	24.8	26	13.1	15	25.4
3日	4	4.4	60	13.9	40	15.7	28	14.1	9	15.3
4日	3	3.3	30	6.9	16	6.3	14	7.0	3	5.1
5日	4	4.4	52	12.0	29	11.4	37	18.6	3	5.1
6日	0	0.0	6	1.4	6	2.4	8	4.0	1	1.7
7日以上	2	2.2	47	11.0	20	7.9	36	18.1	3	5.1

※「ベビーシッターを利用した」「ファミリー・サポート・センターを利用した」「その他」の有効回答はありません。

※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

(23-1)で「父親が休んだ」「母親が休んだ」を選択した場合のみ回答

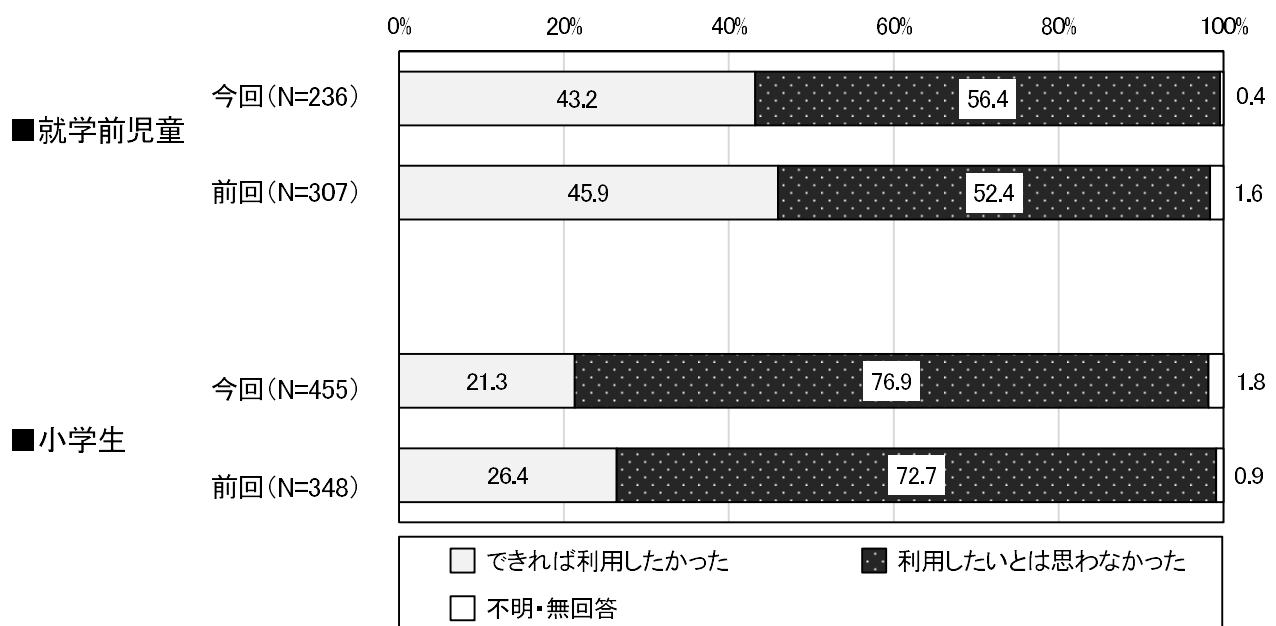
(23-2)できれば「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われたことはありましたか。

〈単数回答〉【就学前児童:問 23-2、小学生:問 16-2】

病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについてみると、就学前児童では「できれば利用したかった」が43.2%、「利用したいとは思わなかった」が56.4%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

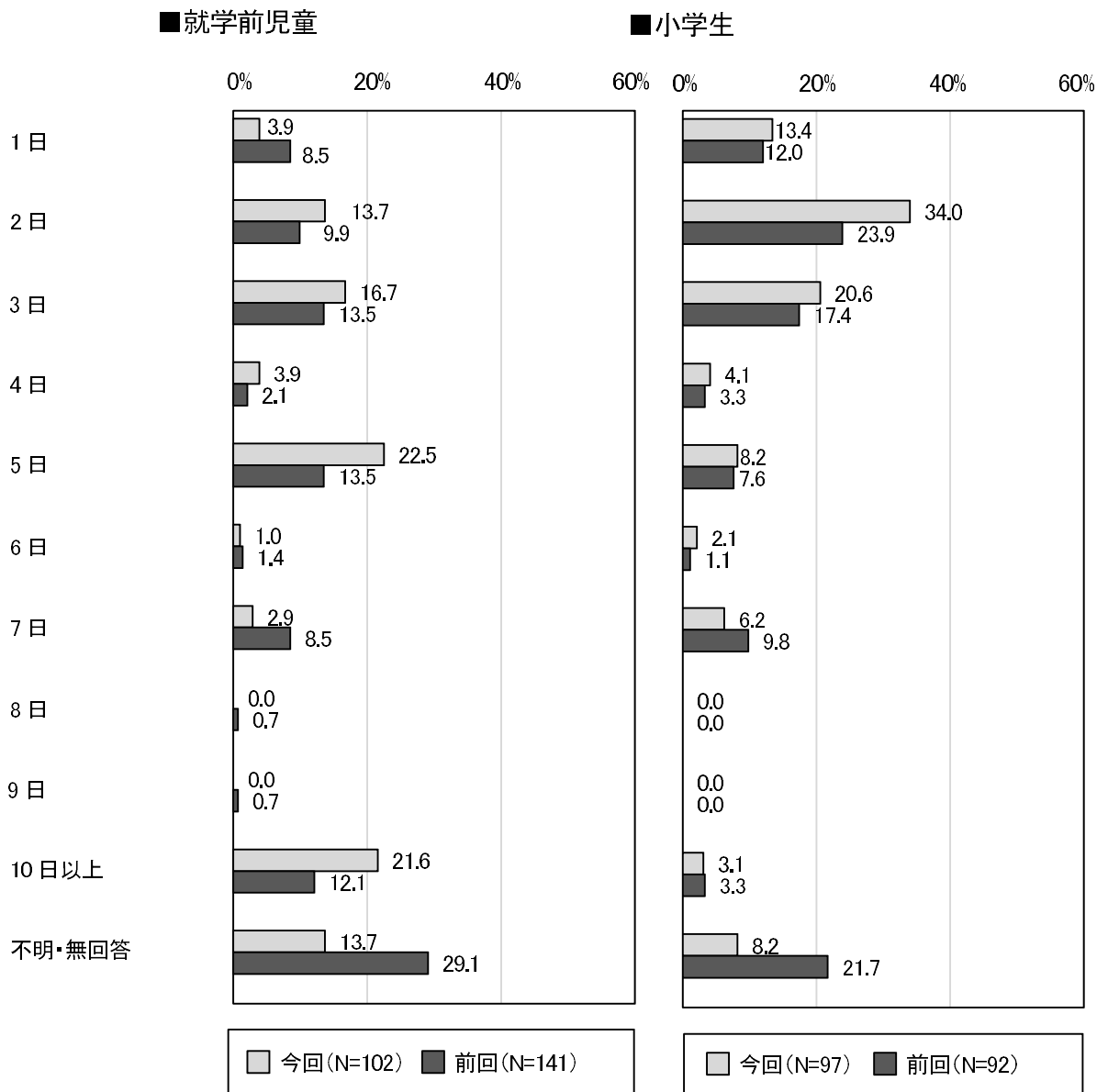
小学生では「できれば利用したかった」が21.3%、「利用したいとは思わなかった」が76.9%となっています。前回結果と比較した場合、「できれば利用したかった」が5.1ポイント低くなっています。

小学生に比べて、就学前児童の方が、病児・病後児のための保育施設等利用ニーズが高くなっています。



利用したかった日数についてみると、就学前児童では「5日」が22.5%、小学生では「2日」が34.0%と最も高くなっています。

【利用したかった日数】

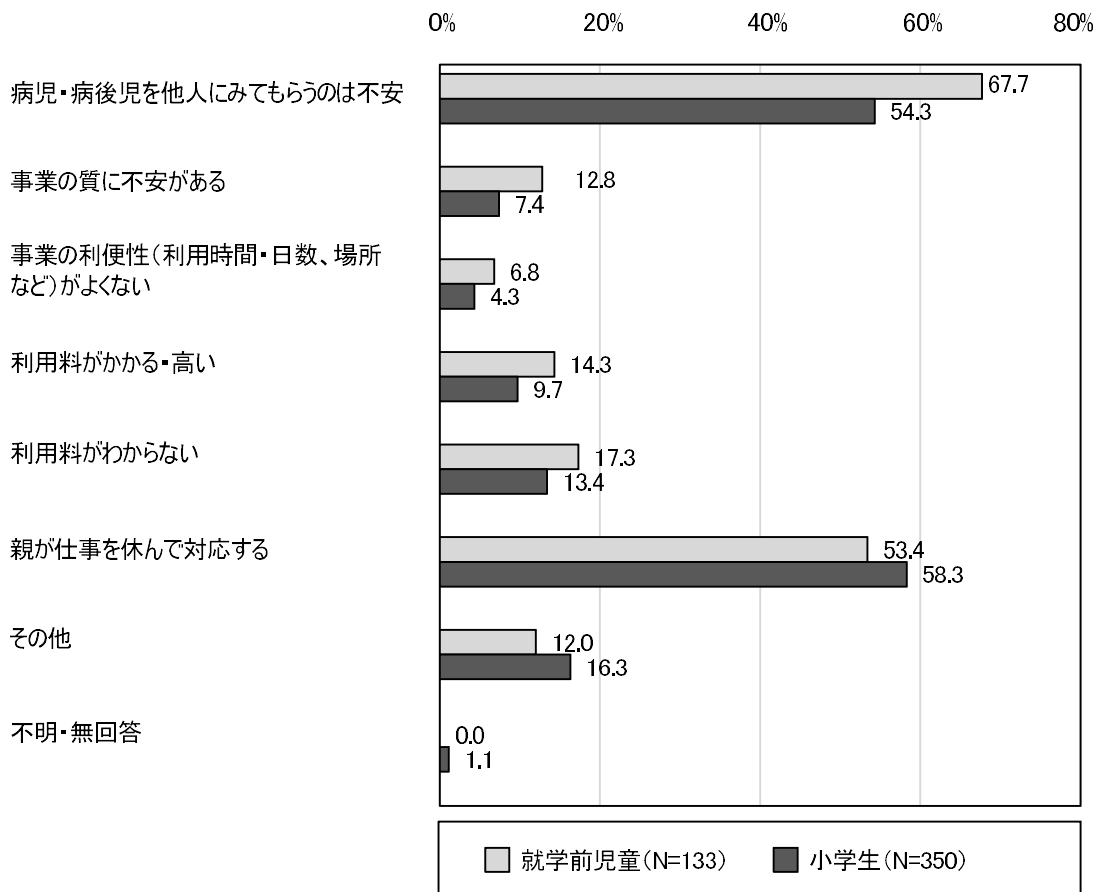


(23-2)で「利用したいとは思わなかった」を選択した場合のみ回答

(23-3)利用したいと思わなかった理由は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 23-3、小学生:問 16-3】

利用したいと思わなかった理由についてみると、就学前児童では「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」が67.7%で最も高く、次いで「親が仕事を休んで対応する」が53.4%となっています。

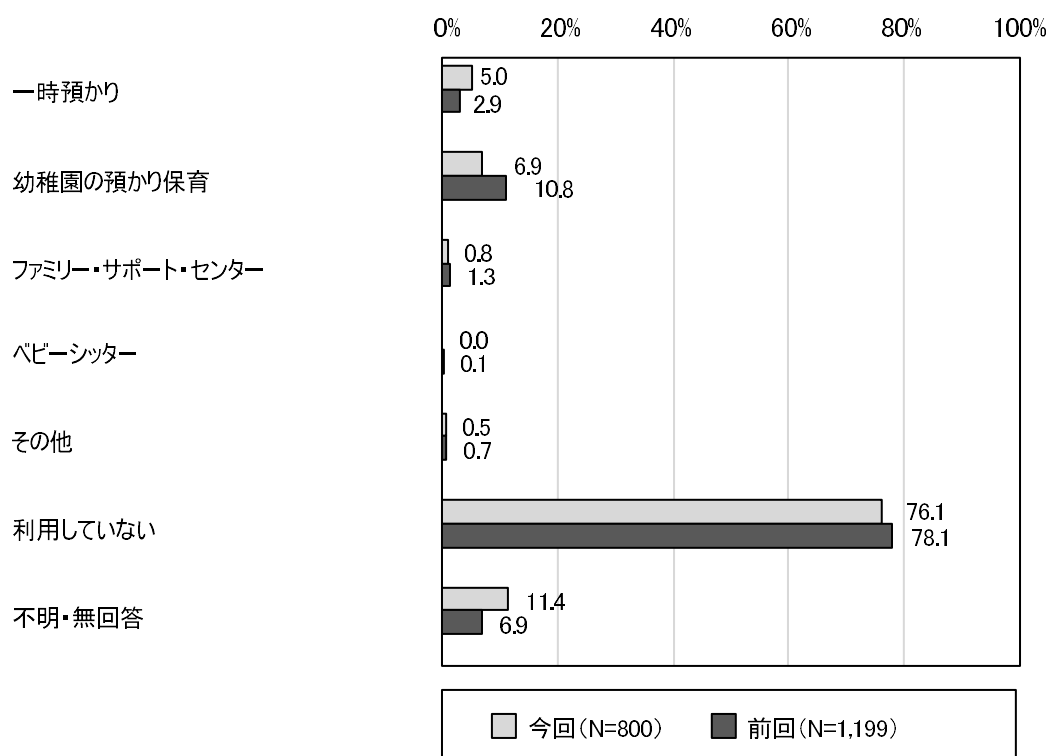
小学生では「親が仕事を休んで対応する」が58.3%で最も高く、次いで「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」が54.3%となっています。



2-7 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(24)保護者の私用や通院、不特定の就労などの目的で、お子さんが不定期的に利用している事業はありますか。〈複数回答〉【就学前児童:問 24】

不定期的に利用している事業の種類についてみると、「利用していない」が76.1%で最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が6.9%、「一時預かり」が5.0%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。



【対応方法ごとの日数】

【就学前児童】 事業別	一時預かり		幼稚園の預かり保育		ファミリー・サポート・センター		その他	
	N=38		N=44		N=6		N=4	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	4	10.5	1	2.3	4	66.7	0	0.0
2日	5	13.2	3	6.8	2	33.3	0	0.0
3日	3	7.9	1	2.3	0	0.0	0	0.0
4日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	4	10.5	7	15.9	0	0.0	0	0.0
6日	1	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日以上	21	55.0	32	72.7	0	0.0	4	100.0

※「ベビーシッター」の有効回答はありません。

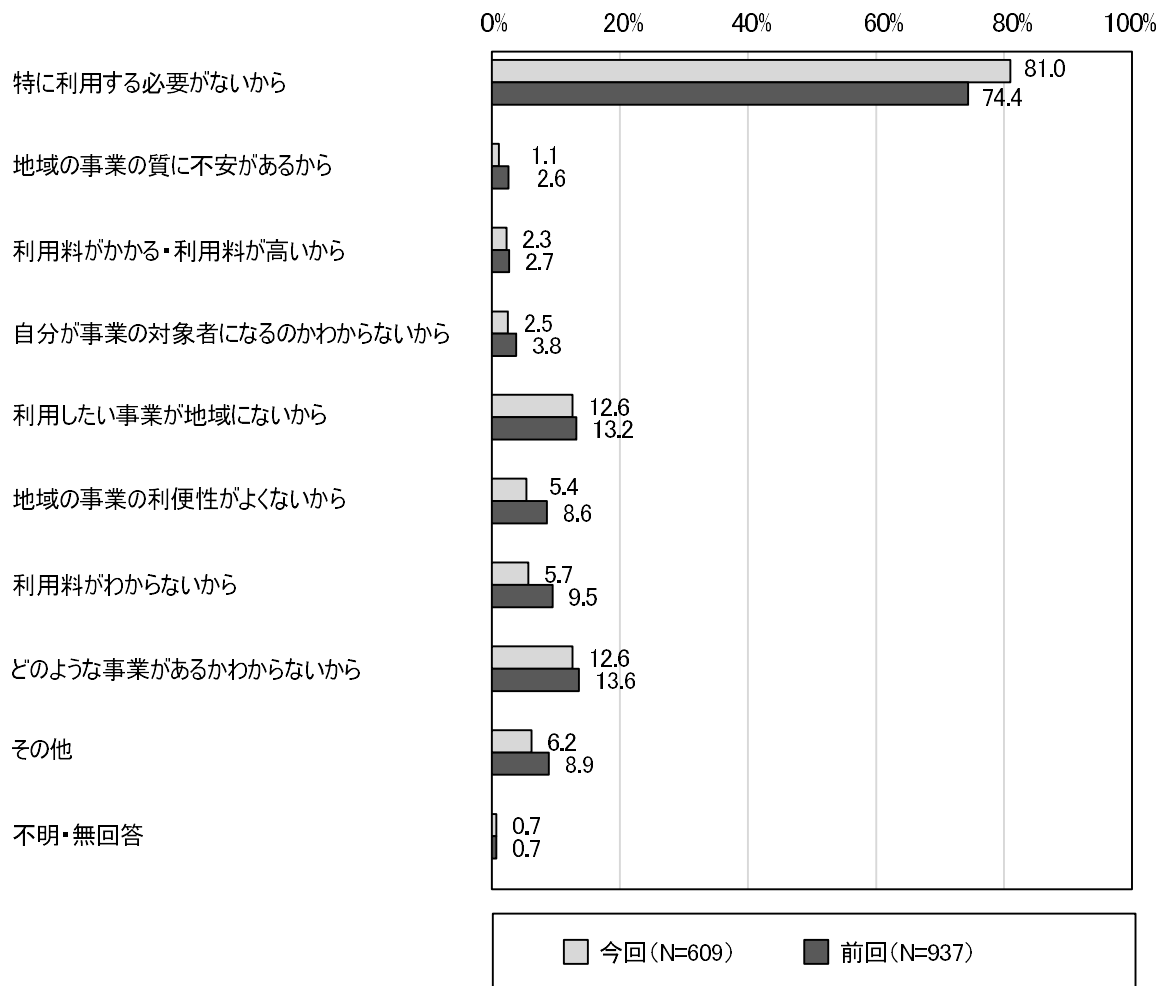
※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

(24)で「利用していない」を選択した場合のみ回答

(24-1)利用していない理由は何ですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 24-1】

利用していない理由についてみると、「特に利用する必要がないから」が81.0%で最も高く、次いで「利用したい事業が地域にないから」および「どのような事業があるかわからないから」がそれぞれ12.6%となっています。前回結果と比較した場合、「特に利用する必要がないから」が6.6ポイント高くなっています。

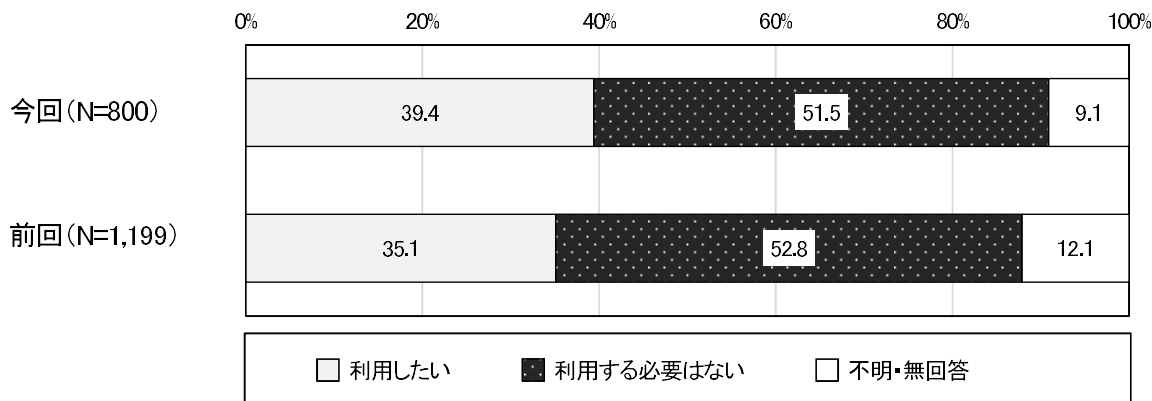
「どのような事業があるかわからないから」が1割程度となっており、事業内容の周知を図ることで、利用者の増加につながる可能性がうかがえます。



※「どのような事業があるかわからないから」は、前回調査では「事業利用方法(手続き等)がわからない」でした。

**(25)①保護者の私用や通院、不定期の就労などの目的で、事業を不定期に利用したいと思いま
すか。〈単数回答〉【就学前児童:問 25】**

事業を不定期に利用したいかについてみると、「利用したい」が 39.4%、「利用する必要はない」が 51.5%となっています。前回結果と比較した場合、「利用したい」の割合が 4.3 ポイント高くなっています。

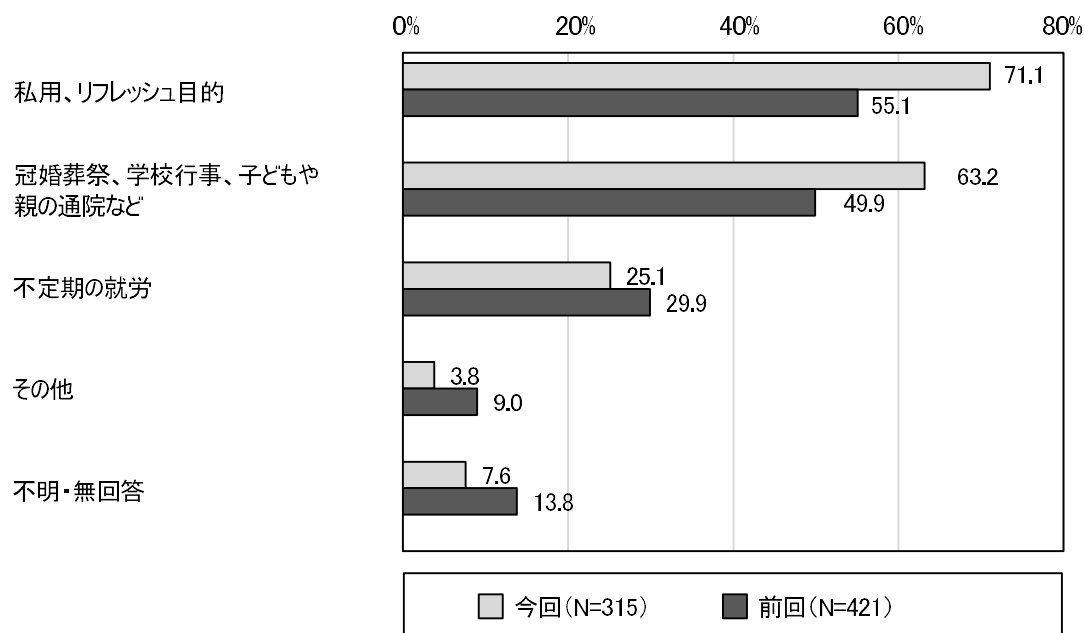


(25)②どのような目的で利用したいですか。〈複数回答〉【就学前児童:問 25】

利用内容の内訳についてみると、「私用、リフレッシュ目的」が 71.1%、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」が 63.2%、「不定期の就労」が 25.1%となっています。前回結果と比較した場合、「私用、リフレッシュ目的」「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」が高くなっています。

「私用、リフレッシュ目的」の割合が 16.0 ポイント高くなっており、子育てをするうえでの気分転換等の際にも、必要とされていることがうかがえます。

利用希望日数の合計については、全ての利用内容で「7日以上」が最も高くなっています。



【利用希望日数の合計】

利用したい日数	就学前児童 N=315	
	件数	%
1日	4	1.3
2日	3	1.0
3日	11	3.5
4日	6	1.9
5日	34	10.8
6日	11	3.5
7日以上	210	66.6
不明・無回答	36	11.4

【各利用内容の日数】

【就学前児童】 目的別	レ私 ッ用 シ、 ユリ 目フ 的 N=216		なも校冠 どや行婚 親事葬 の、祭 通子、 院ど学 N=185		不 定 期 の 就 労 N=72		そ の 他 N=12	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	10	4.6	6	3.2	4	5.6	1
2日	13	6.0	22	11.9	3	4.2	0	0.0
3日	23	10.6	17	9.2	6	8.3	0	0.0
4日	4	1.9	9	4.9	1	1.4	1	8.3
5日	38	17.6	48	25.9	9	12.5	2	16.7
6日	12	5.6	11	5.9	3	4.2	0	0.0
7日以上	116	53.7	72	38.9	46	63.9	8	66.7

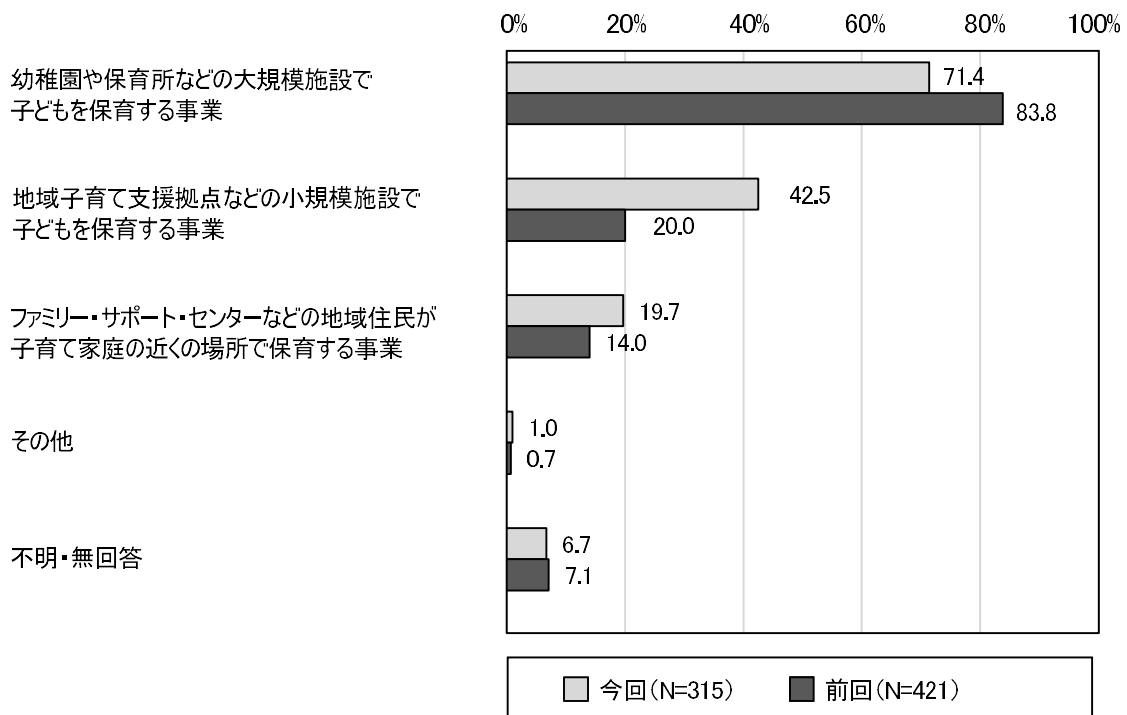
※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

(25)で「利用したい」を選択した場合のみ回答

(25-1)お子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。

〈複数回答〉【就学前児童:問 25-1】

子どもを預ける際に望ましい事業形態についてみると、「幼稚園や保育所などの大規模施設で子どもを保育する事業」が71.4%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、「幼稚園や保育所などの大規模施設で子どもを保育する事業」が低下し、「地域子育て支援拠点などの小規模施設で子どもを保育する事業」が22.5ポイント、「ファミリー・サポート・センターなどの地域住民が子育て家庭の近くの場所で保育する事業」が5.7ポイント高くなっており、多様な保育のあり方が浸透しつつあることがうかがえます。

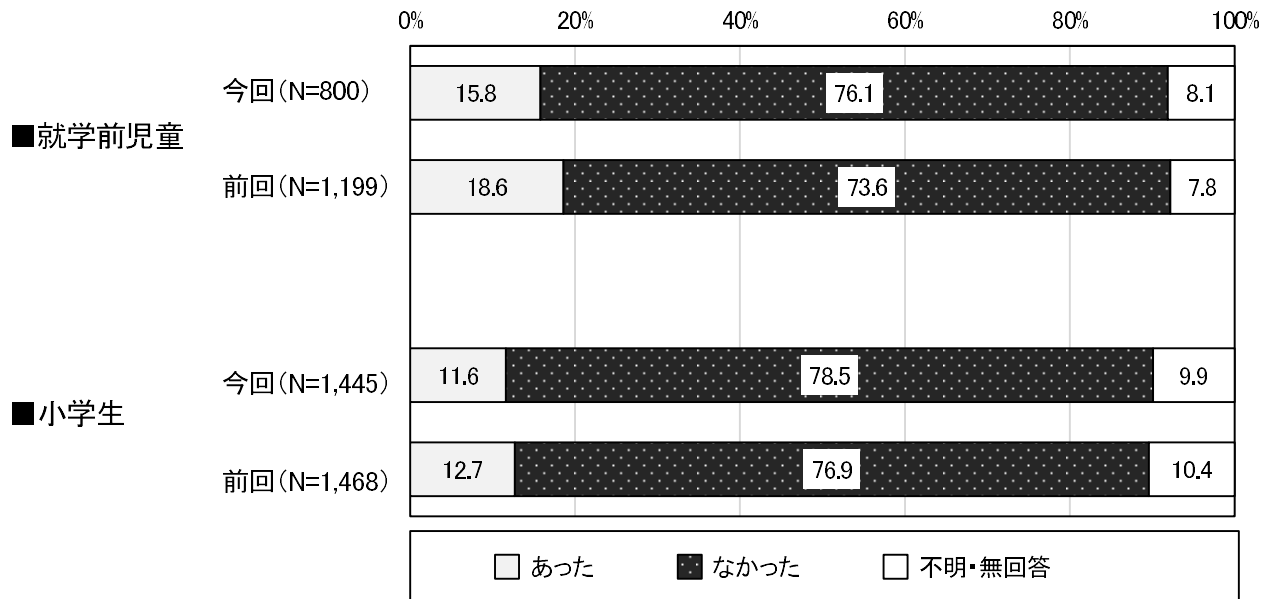


(26)①この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、お子さんを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 26、小学生:問 17】

宿泊を伴う対応の有無についてみると、就学前児童では「あった」が15.8%、「なかった」が76.1%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

小学生では「あった」が11.6%、「なかった」が78.5%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

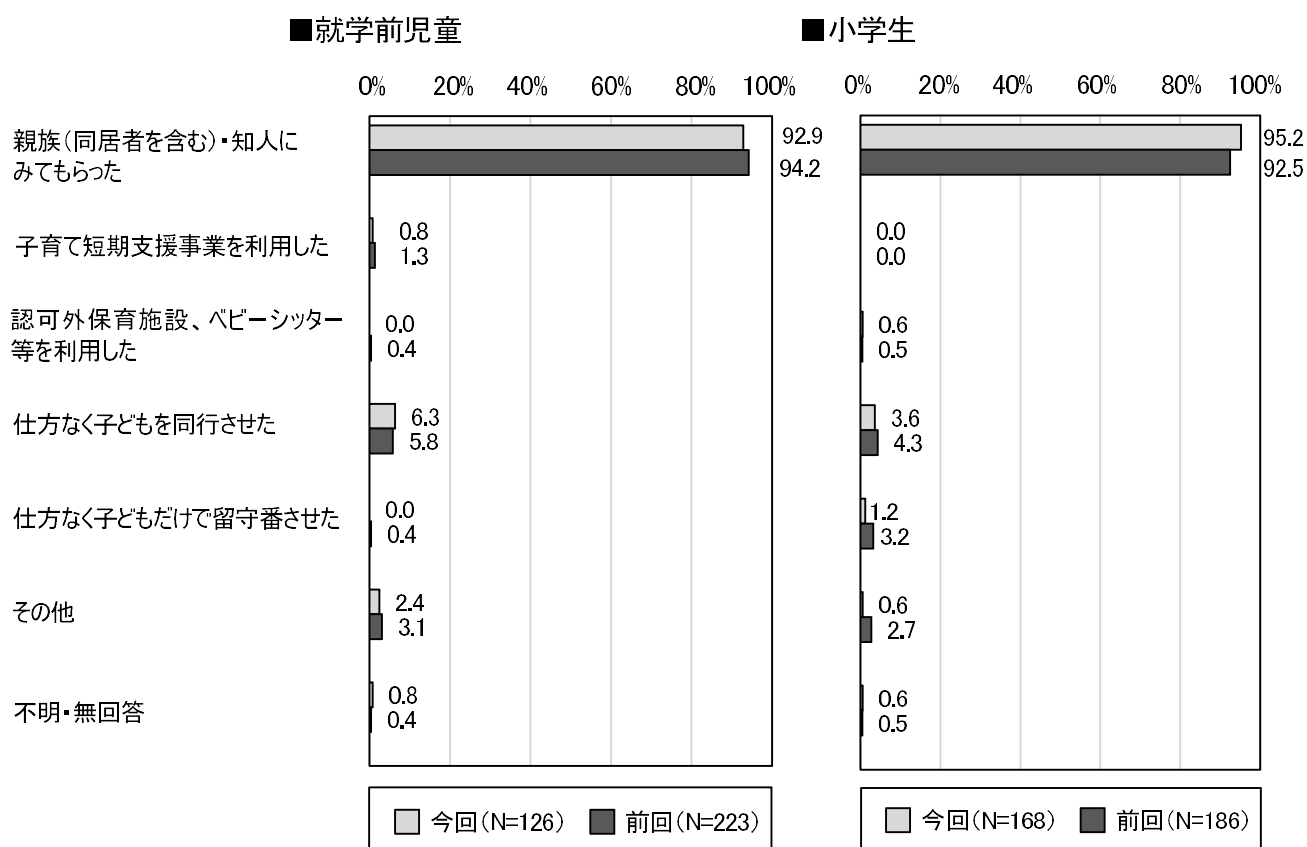


(26)②その際、どのように対応しましたか。〈複数回答〉【就学前児童:問 26、小学生:問 17】

1年間の対処法についてみると、就学前児童では「親族（同居者を含む）・知人にみてもらった」が92.9%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

小学生では「親族（同居者を含む）・知人にみてもらった」が95.2%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

就学前児童、小学生ともに、「親族（同居者を含む）・知人にみてもらった」が大半を占めています。



【預けた日数の合計】

泊数	就学前児童 N=111		小学生 N=153	
	件数	%	件数	%
1泊	25	22.5	54	35.3
2泊	20	18.0	28	18.3
3泊	11	9.9	20	13.1
4泊	8	7.2	15	9.8
5泊	13	11.7	13	8.5
6泊	4	3.6	2	1.3
7泊以上	30	27.0	21	13.7

※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

【各対処法の日数:就学前】

【就学前児童】 対応方法別	ら人を親 つに含族 たみむへ て)同 も・居 知者		し援子 た事育 業て を短 利期 用支		たも仕 を方 同な 行く さ子 せど		そ の 他	
	N=109		N=1		N=7		N=3	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1泊	26	23.9	1	100.0	3	42.9	0	0.0
2泊	19	17.4	0	0.0	2	28.6	2	66.7
3泊	13	11.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4泊	7	6.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5泊	12	11.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6泊	4	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7泊以上	28	25.7	0	0.0	2	28.6	1	33.3

※「認可外保育施設、ベビーシッター等を利用した」「仕方なく子どもだけで留守番させた」の有効回答はありません。

※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

【各対処法の日数:小学生】

【小学生】 対応方法別	ら人を親 つに含族 たみむへ て)同 も・居 知者		利シ設認 用ツ、可 したタべ外 等 ビ保 を 育 を施		たも仕 を方 同な 行く さ子 せど		番も仕 さだ方 せけな たでく 留守 守ど	
	N=150		N=1		N=8		N=5	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1泊	75	50.0	0	0.0	2	25.0	2	40.0
2泊	30	20.0	0	0.0	2	25.0	1	20.0
3泊	12	8.0	0	0.0	1	12.5	1	20.0
4泊	2	1.3	1	100.0	1	12.5	0	0.0
5泊	13	8.7	0	0.0	2	25.0	0	0.0
6泊	3	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7泊以上	15	10.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0

※「子育て短期支援事業を利用した」「その他」の有効回答はありません。

※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

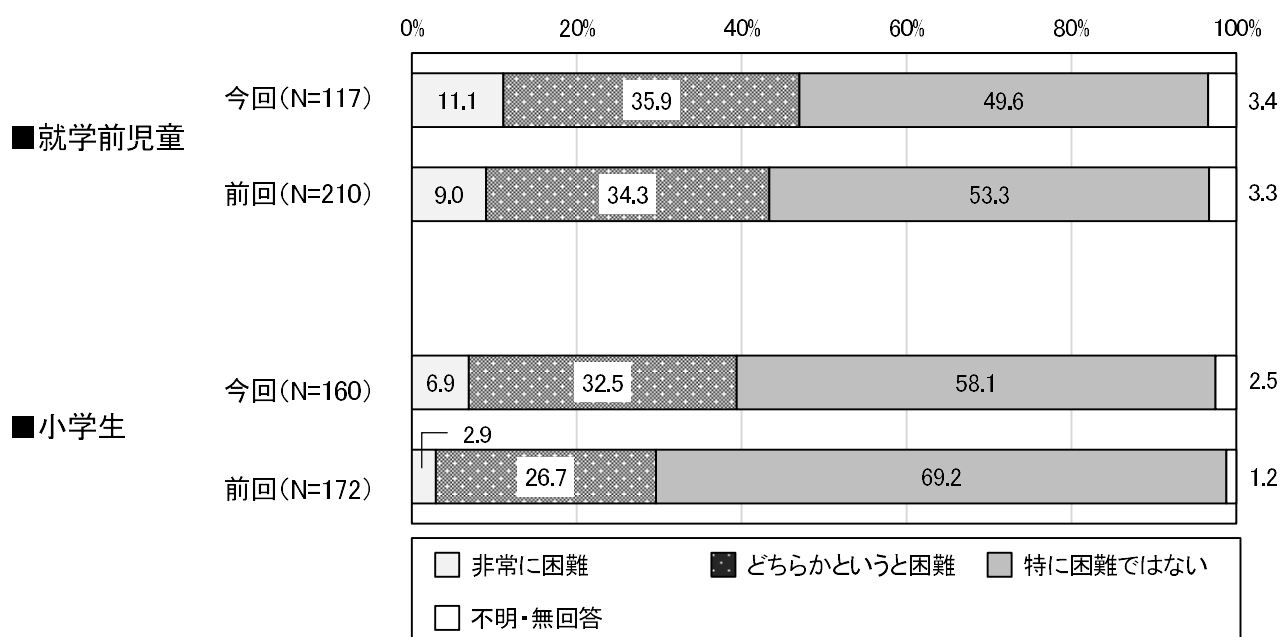
(26)で「親族(同居者を含む)・知人にみてもらった」を選択した場合のみ回答

(26-1)親族・知人に子どもをみてもらった場合の困難度はどの程度でしたか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 26-1、小学生:問 17-1】

親族・知人に子どもをみてもらったときの困難の程度についてみると、就学前児童では「非常に困難」が11.1%、「どちらかという困難」が35.9%、「特に困難ではない」が49.6%となっています。

小学生では「非常に困難」が6.9%、「どちらかという困難」が32.5%、「特に困難ではない」が58.1%となっています。前回結果と比較した場合、就学前児童、小学生ともに「特に困難ではない」が低くなる一方、「非常に困難」が高くなっており、親族・知人に預けづらいつと感じる人が増加していることがうかがえます。

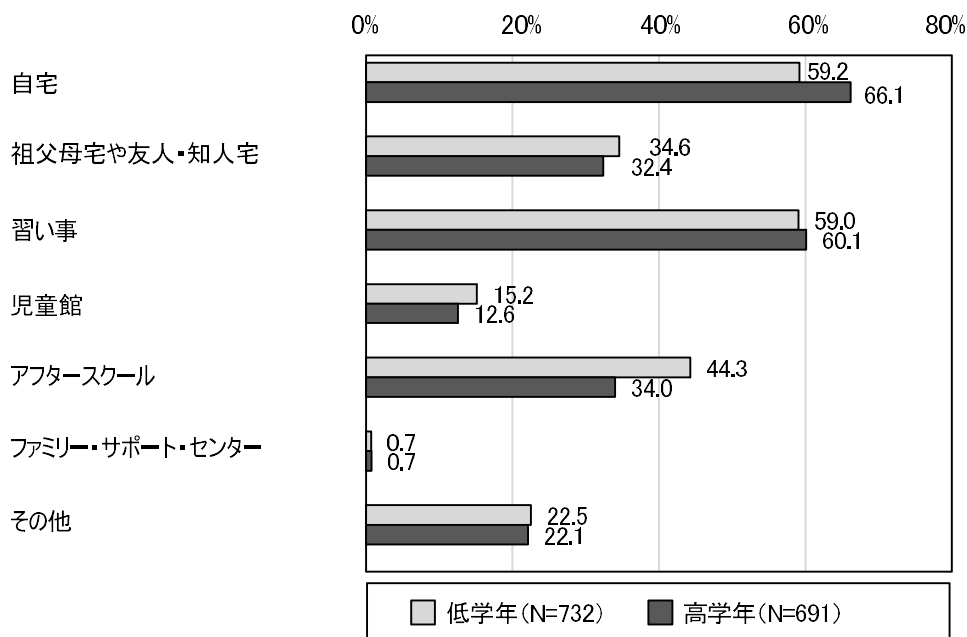


2-8 小学校就学後の放課後の過ごし方について

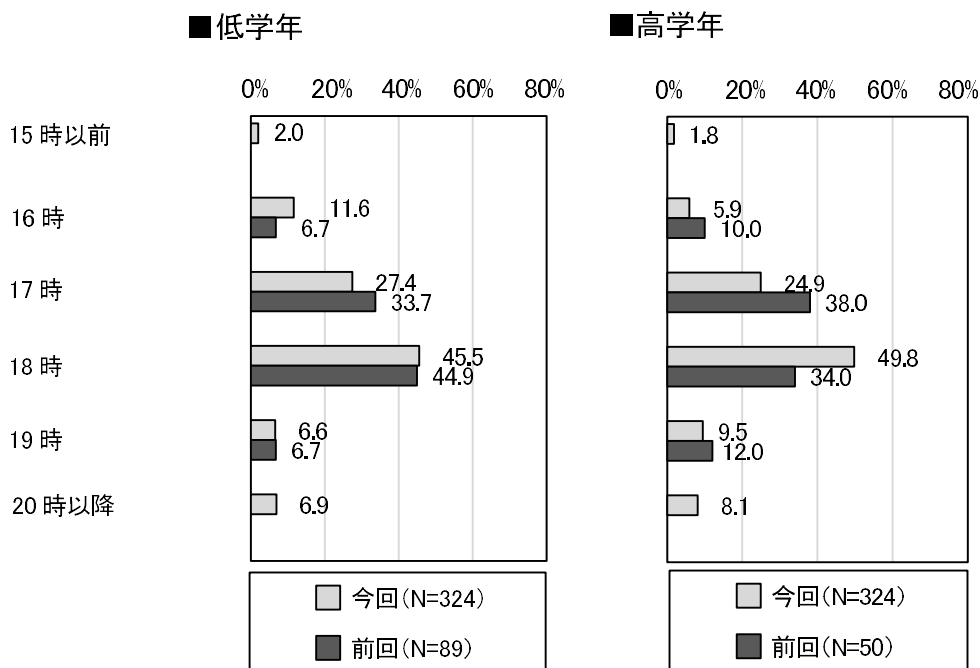
(27)お子さんについて、小学生になったら、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。〈複数回答〉【就学前児童:問27】

平日放課後に過ごす場所の希望についてみると、低学年の場合、「自宅」が59.2%で最も高く、次いで「習い事」が59.0%、「アフタースクール」が44.3%となっています。また、高学年の場合、「自宅」が66.1%で最も高く、次いで「習い事」が60.1%、「アフタースクール」が34.0%となっています。

低学年と高学年で「アフタースクール」の割合に10.0ポイント以上の差がみられ、高学年になるにつれて「習い事」や「自宅」で放課後を過ごす人が多くなっていることがうかがえます。



【アフタースクールの希望利用時間帯】



【それぞれの場所の希望日数】

①低学年

【就学前児童】 場所別	自宅		人・祖父 ・父母 知母宅 人宅や 友		習い 事		児 童 館		ク ア フ ル タ ー ス		ン サ フ ア ミ リ ト リ セ		そ の 他	
	N=433		N=253		N=432		N=111		N=324		N=5		N=165	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	56	12.9	97	38.3	137	31.7	52	46.8	10	3.1	2	40.0	46	27.9
2日	90	20.8	72	28.5	211	48.8	39	35.1	20	6.2	1	20.0	65	39.4
3日	107	24.7	28	11.1	69	16.0	14	12.6	54	16.7	0	0.0	38	23.0
4日	26	6.0	13	5.1	10	2.3	1	0.9	36	11.1	0	0.0	5	3.0
5日	122	28.2	40	15.8	5	1.2	5	4.5	189	58.3	1	20.0	10	6.1
6日	7	1.6	2	0.8	0	0.0	0	0.0	13	4.0	1	20.0	0	0.0
7日	25	5.8	1	0.4	0	0.0	0	0.0	2	0.6	0	0.0	1	0.6

※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

②高学年

【就学前児童】 場所別	自宅		人・祖父 ・父母 知母宅 人宅や 友		習い 事		児 童 館		ク ア フ ル タ ー ス		ン サ フ ア ミ リ ト リ セ		そ の 他	
	N=457		N=224		N=415		N=87		N=235		N=5		N=153	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	68	14.9	73	32.6	48	11.6	34	39.1	10	4.3	2	40.0	42	27.5
2日	112	24.5	76	33.9	201	48.4	31	35.6	27	11.5	1	20.0	52	34.0
3日	92	20.1	27	12.1	126	30.4	17	19.5	38	16.2	0	0.0	40	26.1
4日	19	4.2	12	5.4	30	7.2	1	1.1	18	7.7	0	0.0	6	3.9
5日	138	30.2	34	15.2	10	2.4	4	4.6	132	56.2	1	20.0	12	7.8
6日	4	0.9	1	0.4	0	0.0	0	0.0	9	3.8	1	20.0	0	0.0
7日	24	5.3	1	0.4	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7

※不明・無回答を除外した数値を掲載しています。

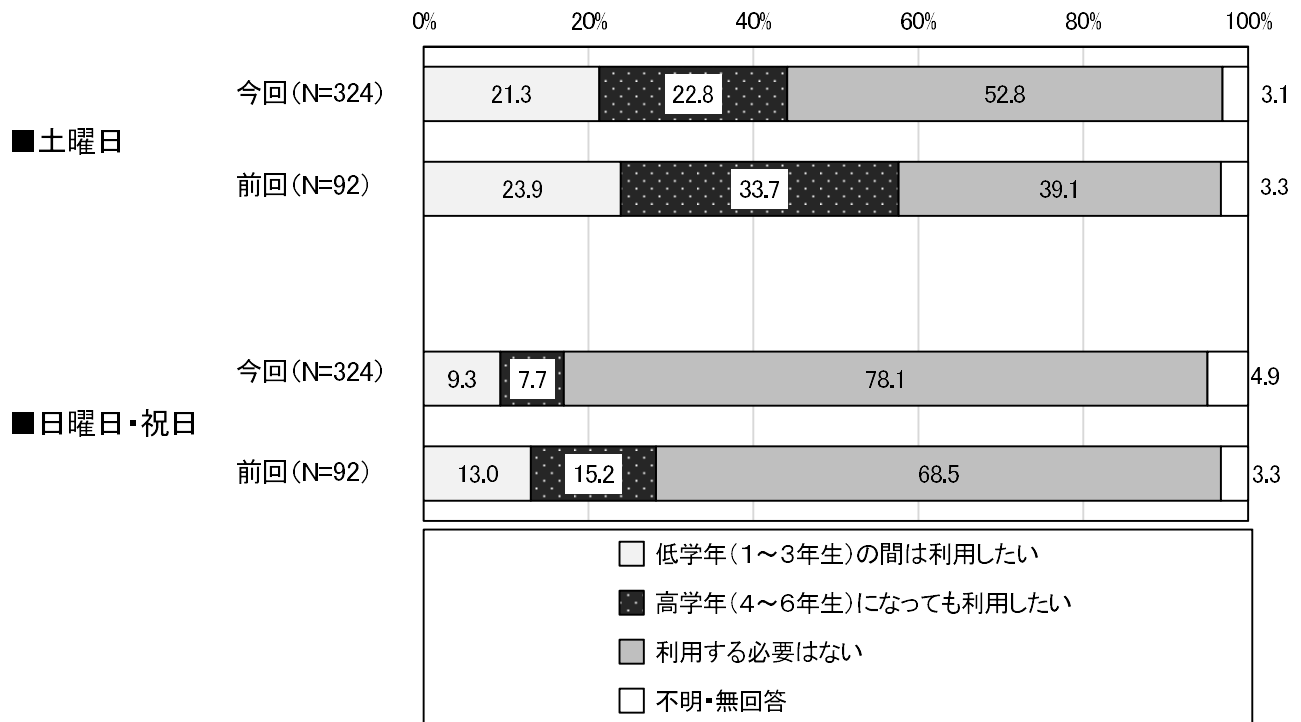
(27)で「アフタースクール」を選択した場合のみ回答

(27-1)お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、アフタースクールの利用希望はありますか。

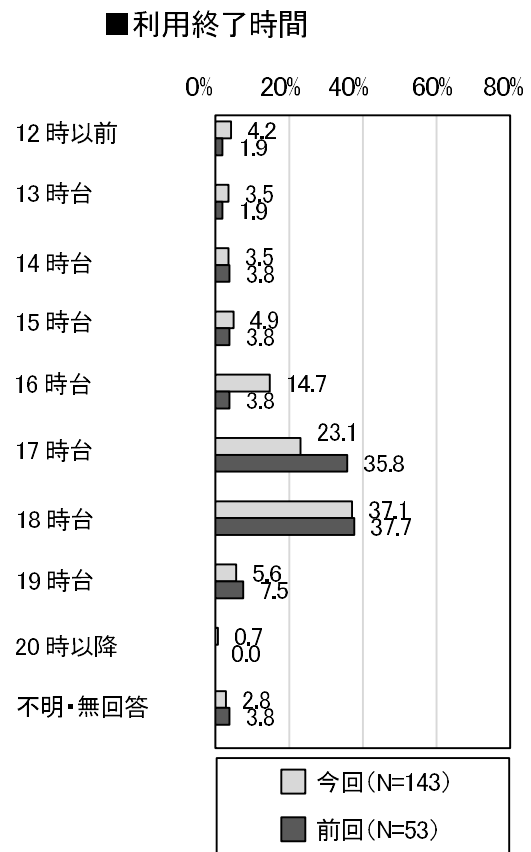
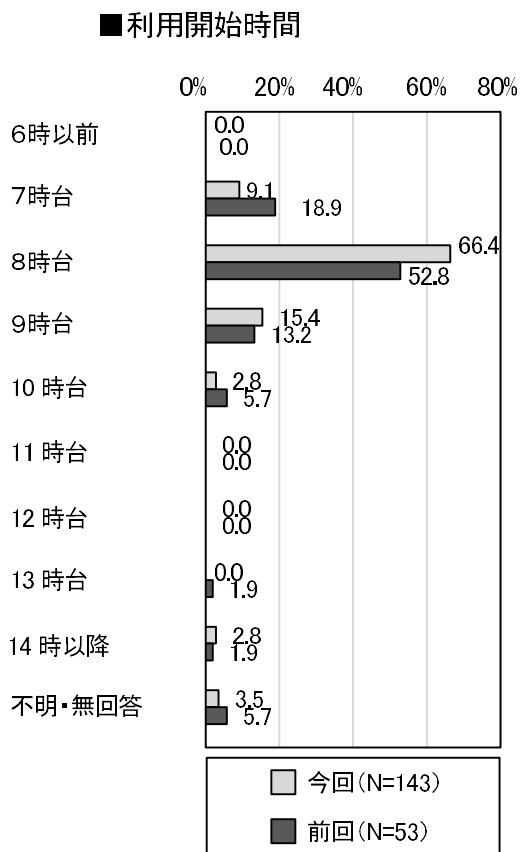
〈単数回答〉【就学前児童:問 27-1】

土日・祝日のアフタースクール利用希望についてみると、土曜日では「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が21.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が22.8%、「利用する必要はない」が52.8%となっています。前回結果と比較した場合、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が2.6ポイント、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が10.9ポイント低くなっています。

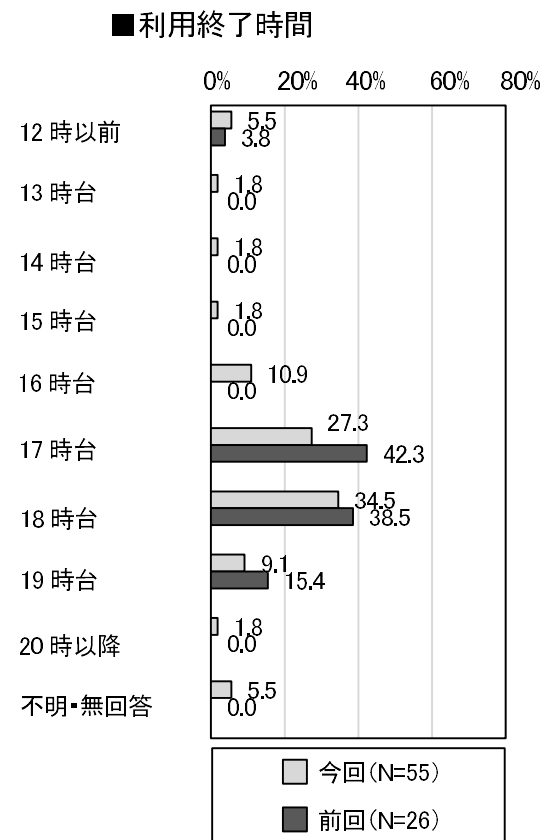
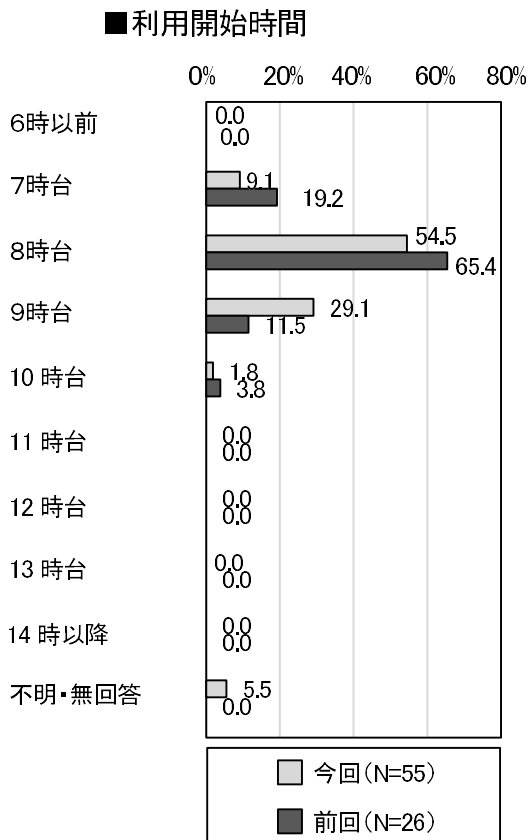
日曜日・祝日では「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が9.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が7.7%、「利用する必要はない」が78.1%となっています。前回結果と比較した場合、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が3.7ポイント、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が7.5ポイント低くなっています。



【土曜日のアフタースクール利用希望時間】



【日曜日・祝日のアフタースクール利用希望時間】



2-9 小学校での放課後の過ごし方について

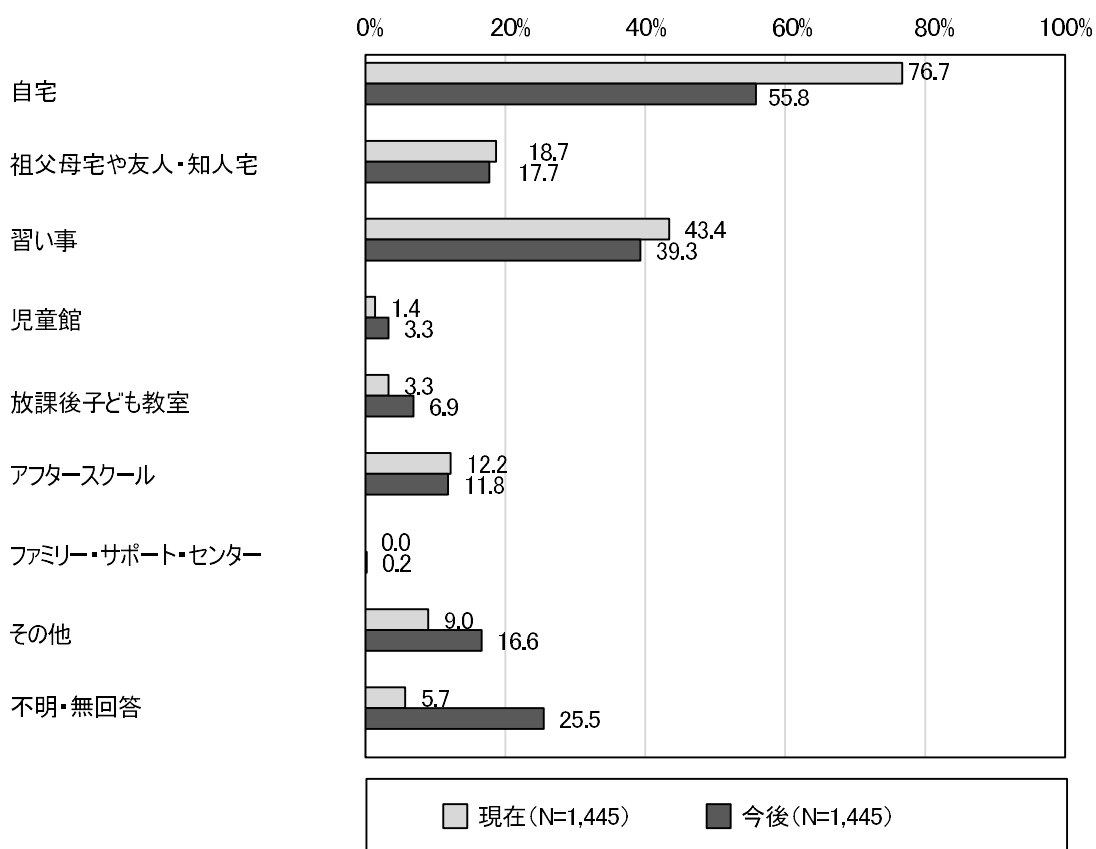
(28)お子さんの放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方についておうかがいします。「現在放課後において過ごしている場所」と「今後の希望場所」を教えてください。〈複数回答〉

【小学生:問14】

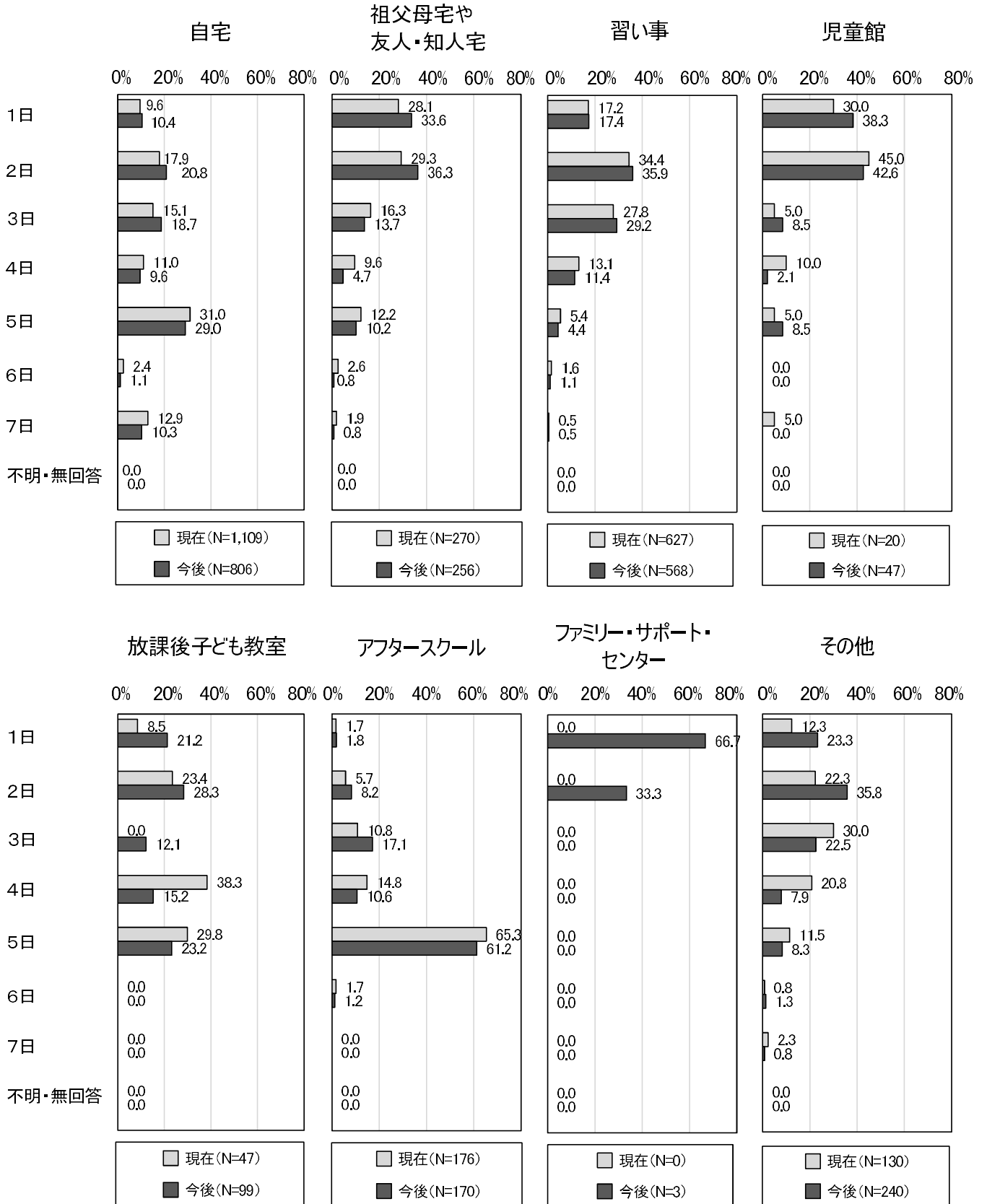
放課後において現在過ごしている場所についてみると、「自宅」が76.7%で最も高く、次いで「習い事」が43.4%、「祖父母宅や友人・知人宅」が18.7%となっています。

今後の希望場所についてみると、「自宅」が55.8%で最も高く、次いで「習い事」が39.3%、「祖父母宅や友人・知人宅」が17.7%となっています。

「自宅」の割合が[現在]と[今後]で差があることから、放課後の居場所に関するニーズの多様化がうかがえます。



【週あたりの日数】



(28)で「アフタースクール」を選択した場合のみ回答

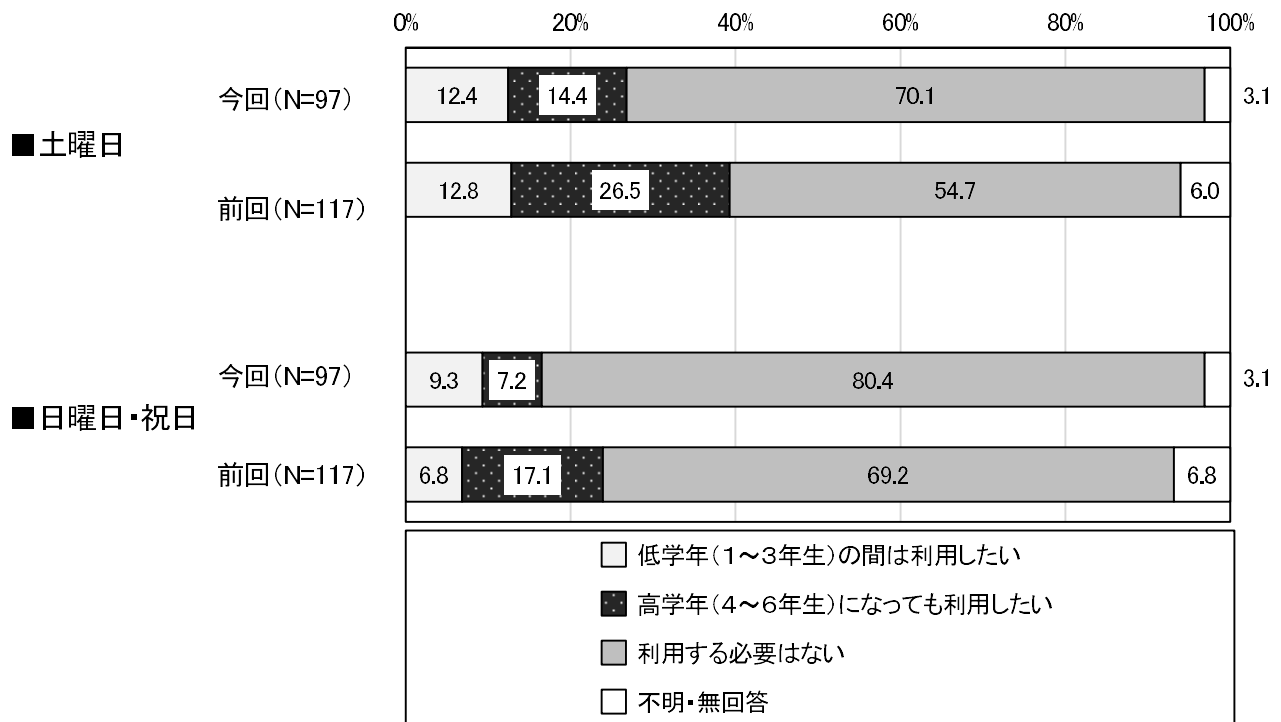
(28-1)お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、アフタースクールの利用希望はありますか。

〈単数回答〉【小学生:問 14-1】

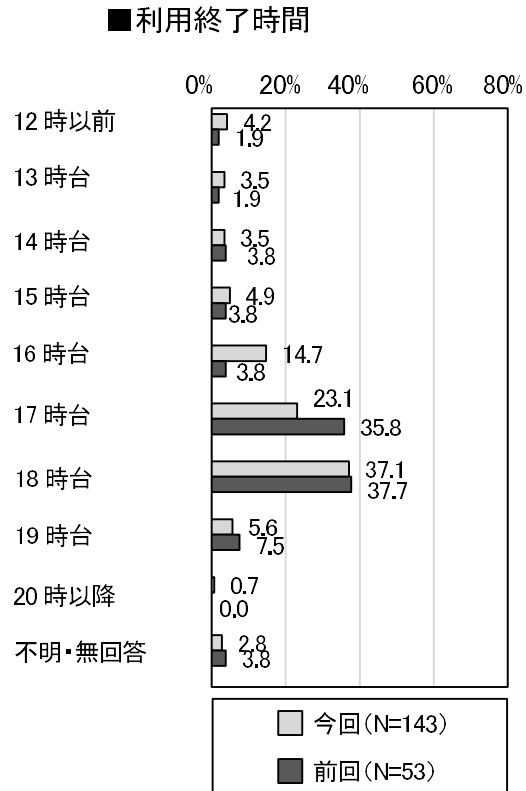
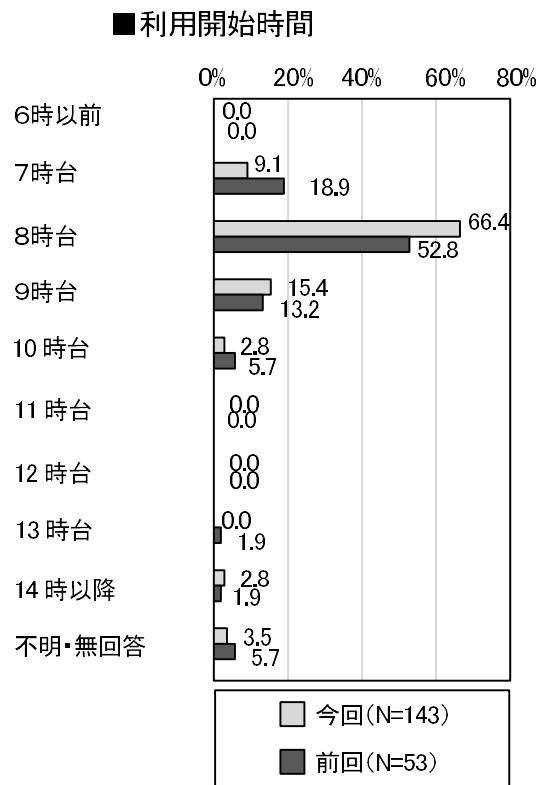
土日・祝日のアフタースクール利用希望についてみると、土曜日では「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が12.4%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が14.4%、「利用する必要はない」が70.1%となっています。前回結果と比較した場合、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が低くなっています。

日曜日・祝日では「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が9.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が7.2%、「利用する必要はない」が80.4%となっています。前回結果と比較した場合、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が低くなっています。

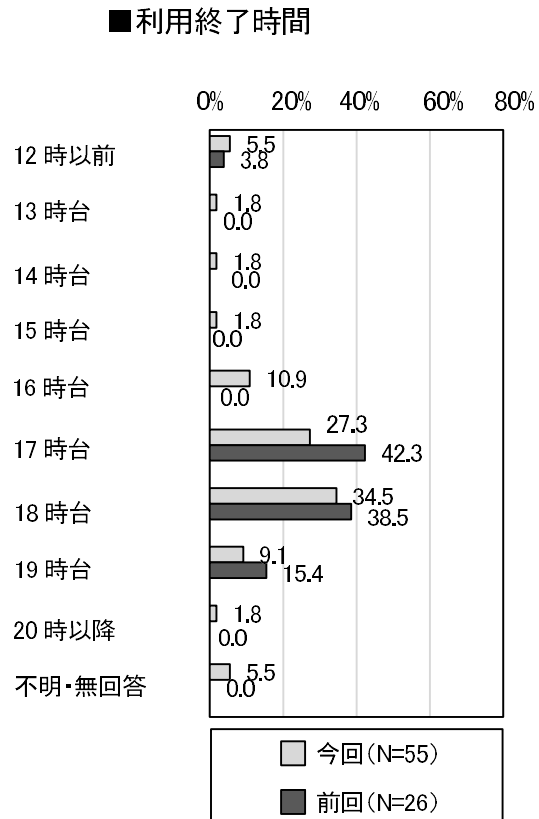
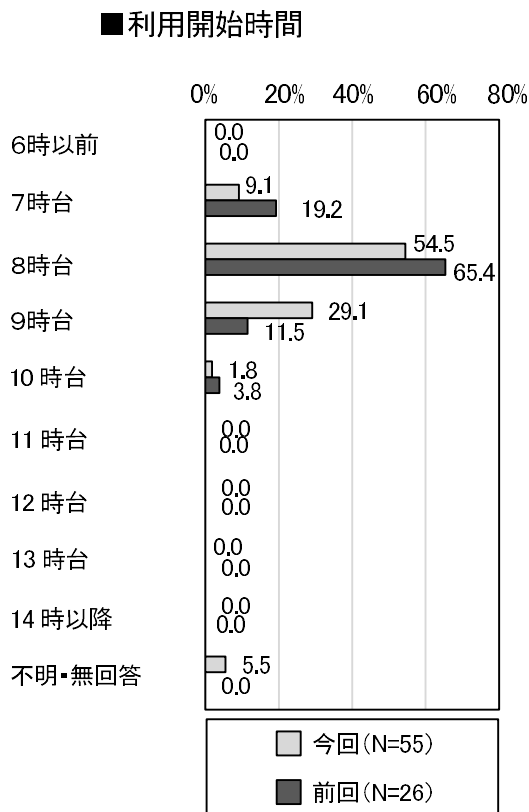
土曜日、日曜日・祝日ともに『利用したい』（「低学年（1～3年生）の間は利用したい」「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の合算）の割合が低下しています。



【土曜日のアフタースクール利用希望時間】



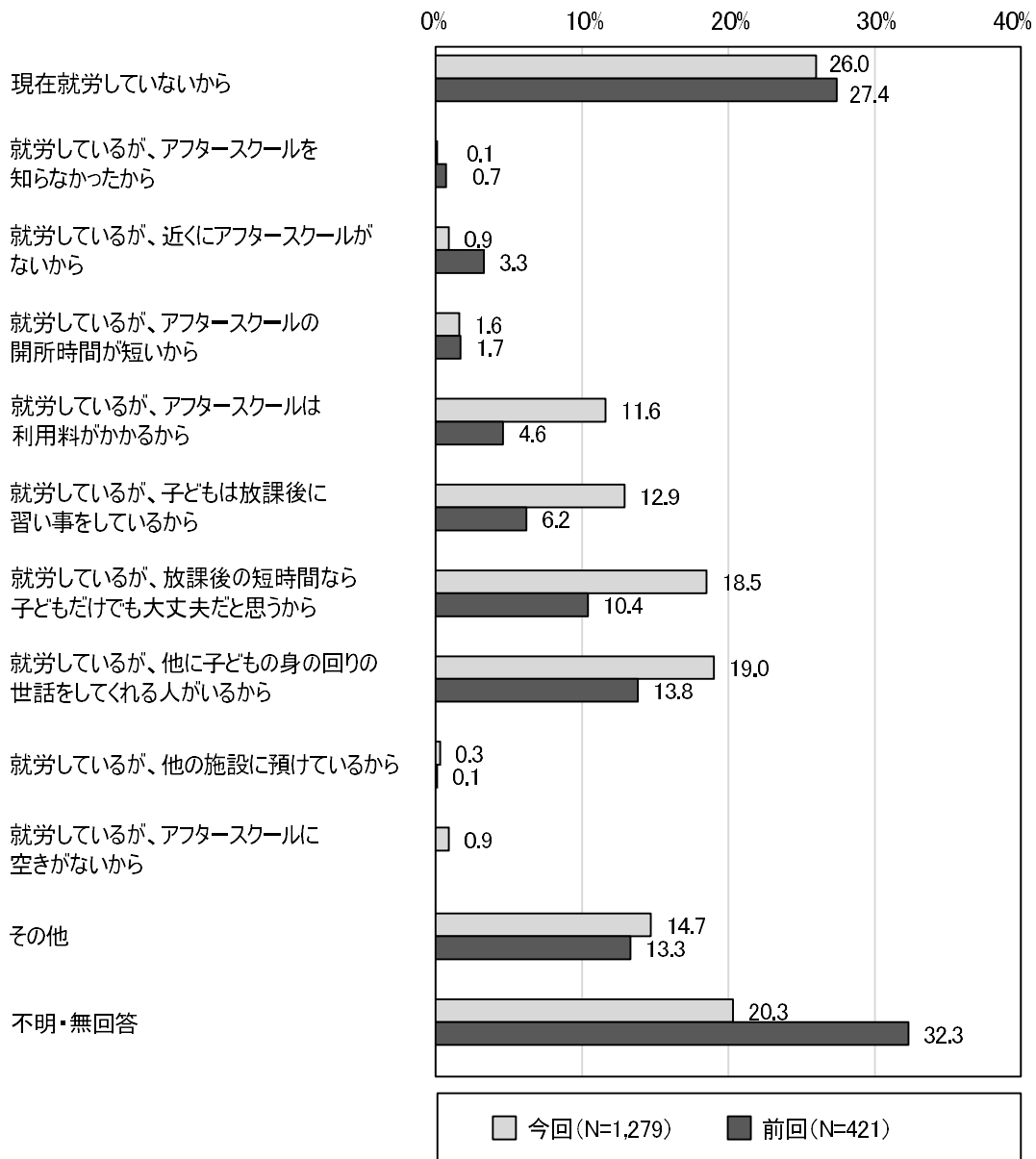
【日曜日・祝日のアフタースクール利用希望時間】



(28)で「アフタースクール」を選択しなかった場合のみ回答

(28-2)アフタースクールを利用していない理由は何ですか。〈複数回答〉【小学生:問14-2】

アフタースクールを利用していない理由についてみると、「現在就労していないから」が26.0%で最も高く、次いで「就労しているが、他に子どもの身の回りの世話をしてくれる人がいるから」が19.0%、「就労しているが、放課後の短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」が18.5%となっています。また、「就労しているが、アフタースクールは利用料がかかるから」が11.6%で、前回結果と比較した場合、7.0ポイント高くなっています。



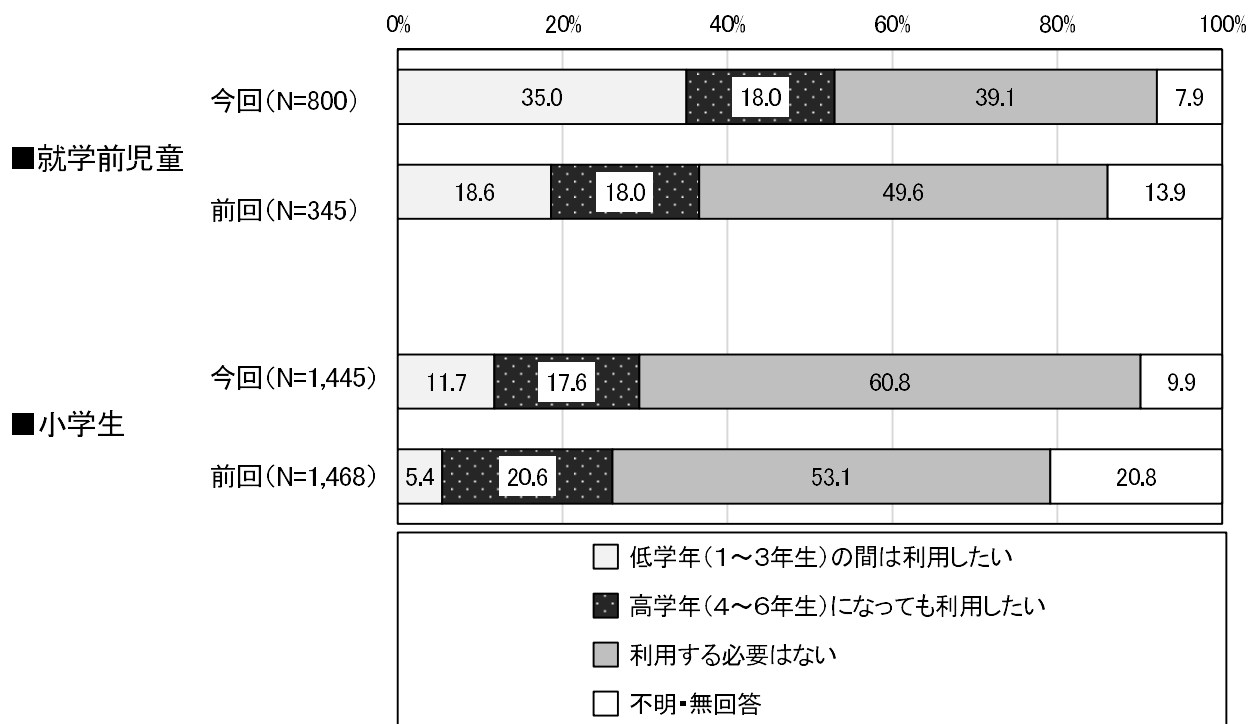
2-10 小学校就学後の長期休暇中の過ごし方について

(29)お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中のアフタースクールの利用希望はありますか。〈単数回答〉【就学前児童:問 28、小学生:問 15】

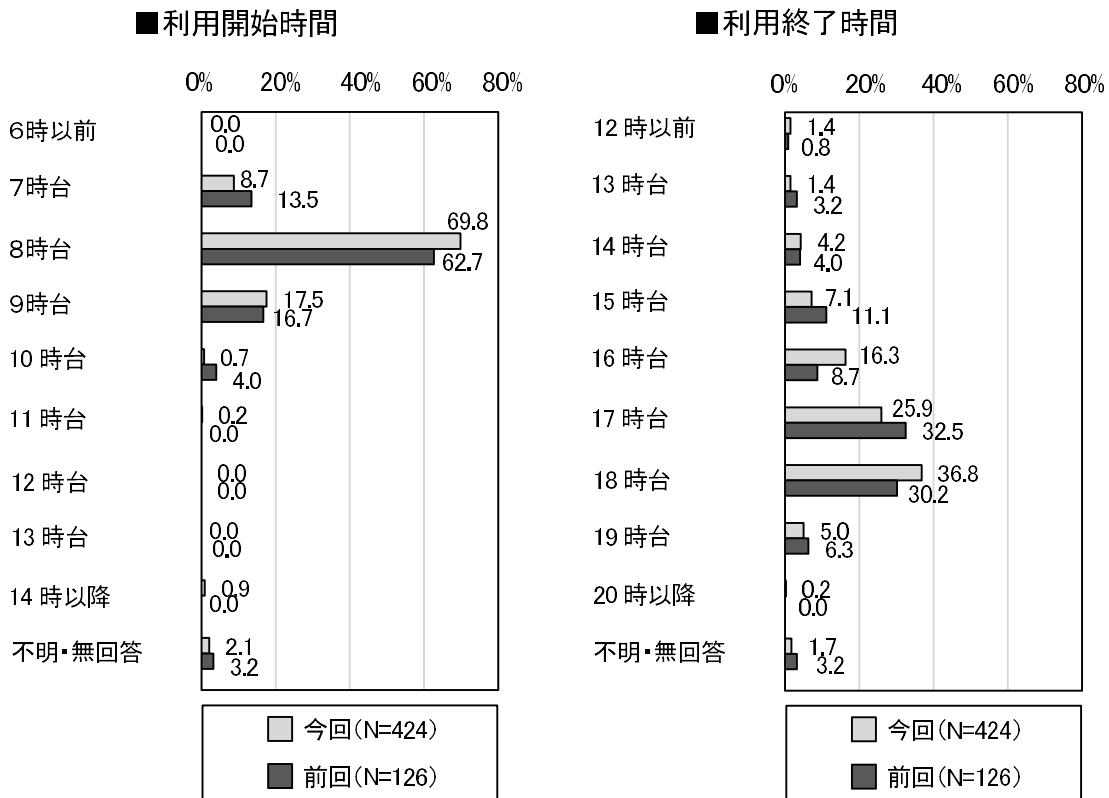
長期休暇中のアフタースクール利用希望についてみると、就学前児童の場合、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が35.0%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が18.0%、「利用する必要はない」が39.1%となっています。前回結果と比較した場合、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が高くなっています。

小学生の場合、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が11.7%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が17.6%、「利用する必要はない」が60.8%となっています。前回結果と比較した場合、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が若干高くなっています。

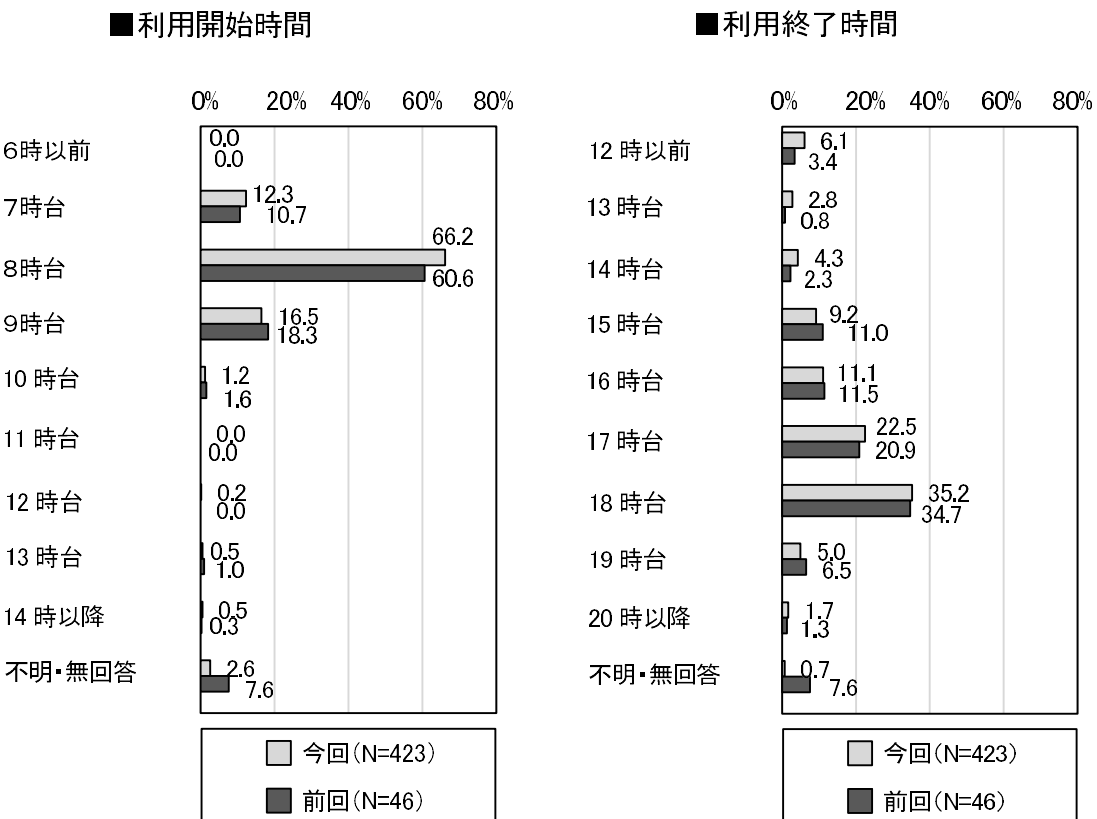
長期休暇中の利用ニーズは高まっており、特に就学前児童では5割以上となっています。



【就学前児童の長期休暇中のアフタースクール利用希望時間】



【小学生の長期休暇中のアフタースクール利用希望時間】



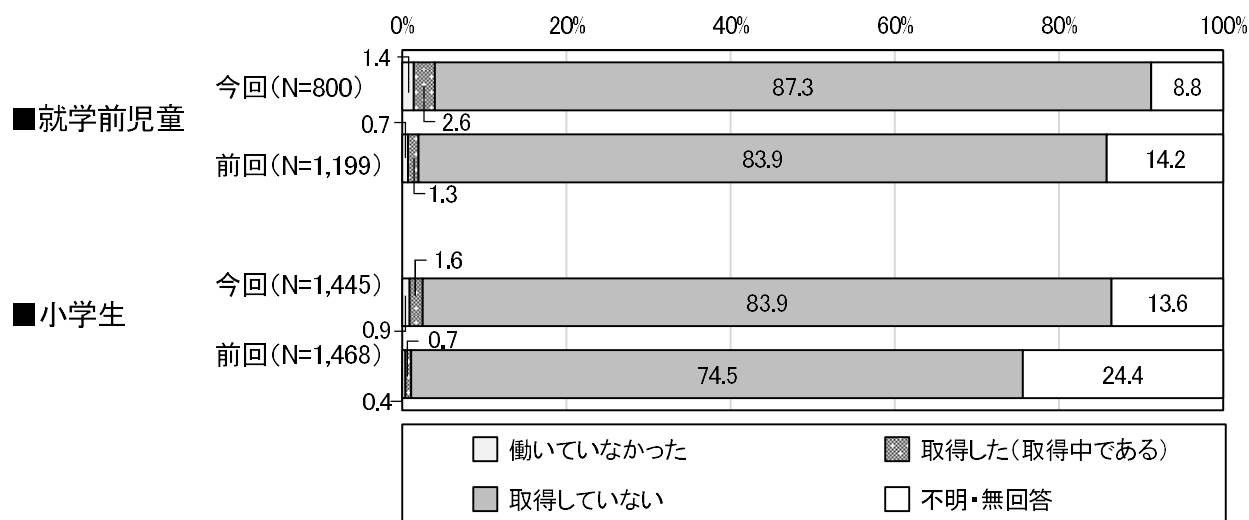
2-11 育児と就労の両立について

(30)お子さんが生まれた時、父母のいずれか、もしくは双方が育児休業を取得しましたか。〈単数回答〉【就学前児童:問29、小学生:問19】

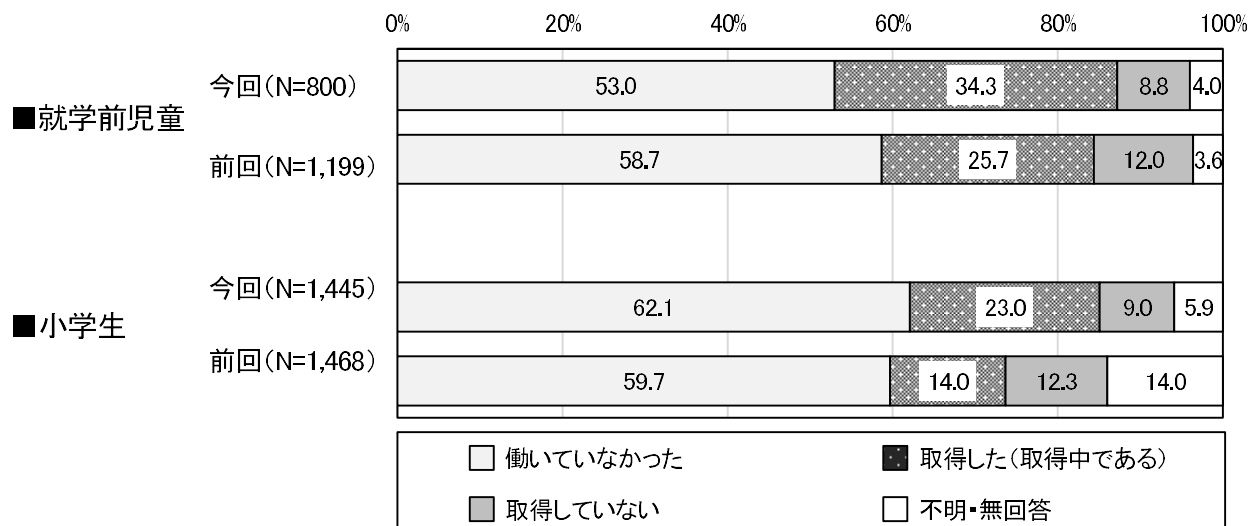
父親の育児休業の取得の有無についてみると、就学前児童では「取得した(取得中である)」が2.6%、「取得していない」が87.3%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。小学生では「取得した(取得中である)」が1.6%、「取得していない」が83.9%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。

母親の育児休業の取得の有無についてみると、就学前児童では「働いていなかった」が53.0%、「取得した(取得中である)」が34.3%、「取得していない」が8.8%となっています。前回結果と比較した場合、「取得した(取得中である)」が8.6ポイント高くなっています。小学生では「働いていなかった」が62.1%、「取得した(取得中である)」が23.0%、「取得していない」が9.0%となっています。前回結果と比較した場合、「取得した(取得中である)」が9ポイント高くなっています。

【父親の育児休業の取得の有無】



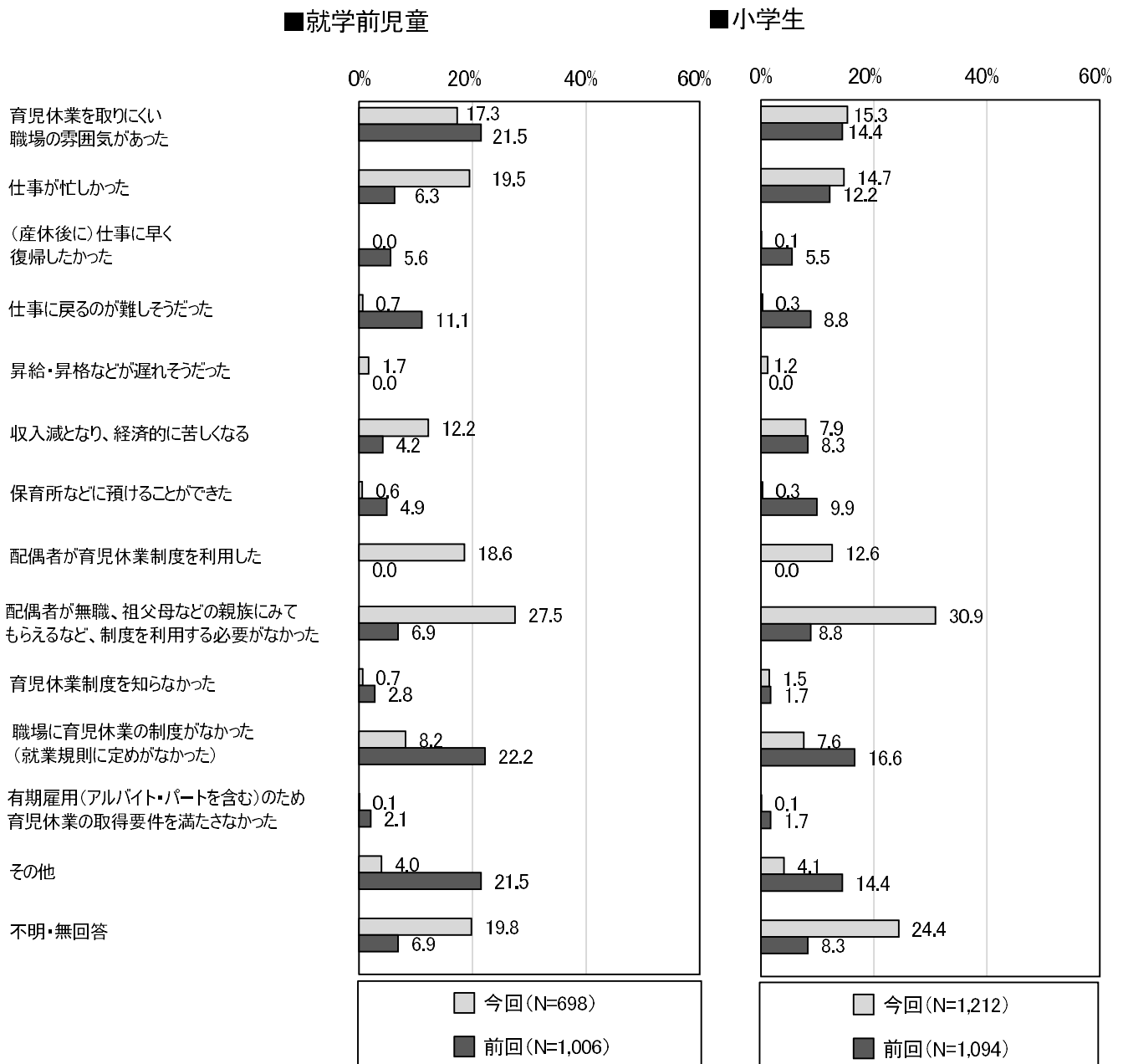
【母親の育児休業の取得の有無】



(30)育児休業を取得していない理由を教えてください。〈複数回答〉【就学前児童:問 29、小学生:問 19】

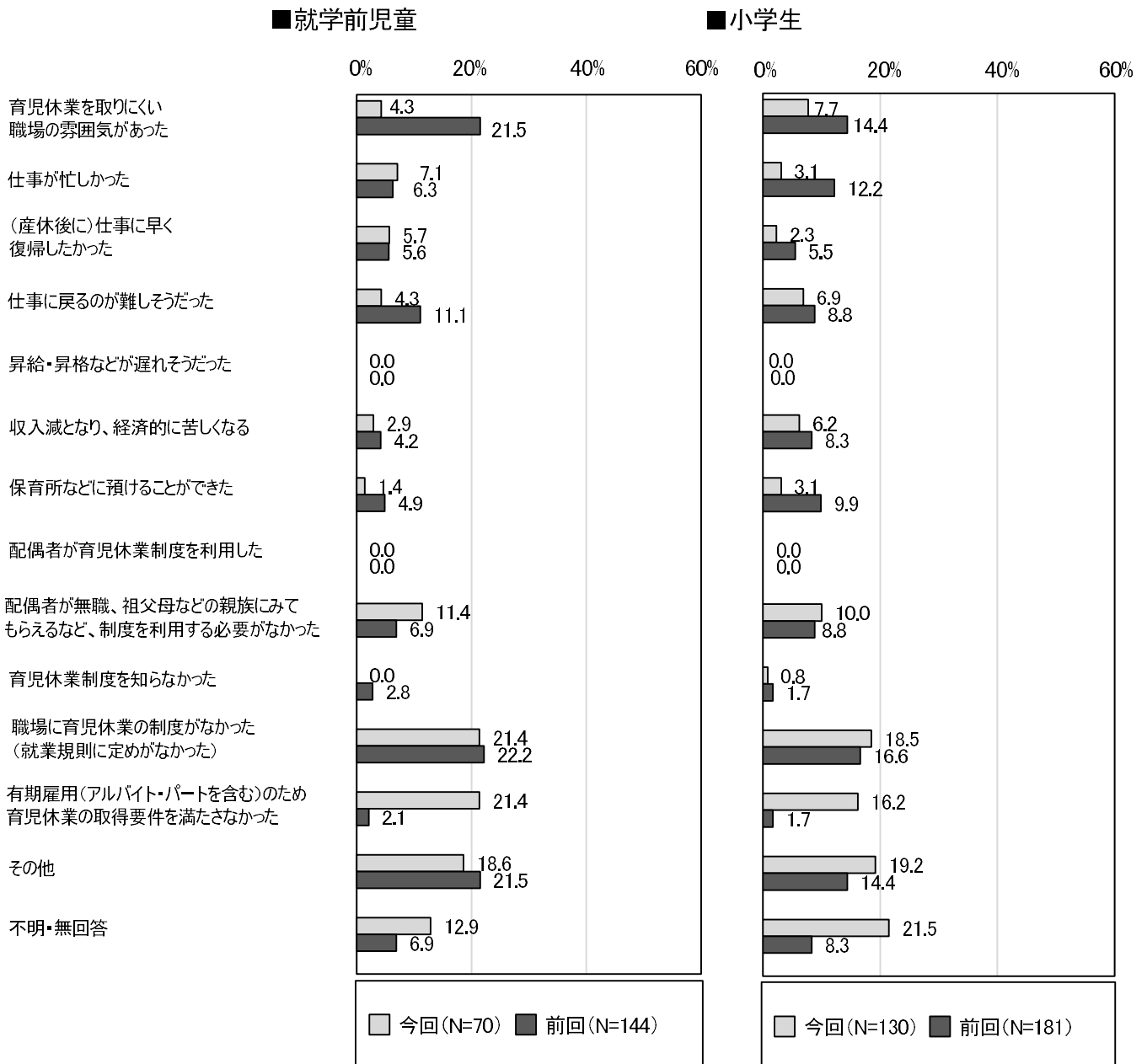
父親の育児休業を取得していない理由についてみると、就学前児童では「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が27.5%で最も高くなっています。小学生でも同様に「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が30.9%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、「職場に育児休業の制度がなかった」は低くなっており、職場における制度整備は進んでいるものの、「育児休業を取りにくい職場の雰囲気があった」は前回結果と大きな違いはみられません。

【父親:育休を取得していない理由】



母親の育児休業を取得していない理由についてみると、就学前児童では「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」および「有期雇用（アルバイト・パートを含む）のため育児休業の取得要件を満たさなかった」がそれぞれ21.4%で最も高くなっています。小学生では「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が18.5%で最も高くなっています。前回結果と比較した場合、「有期雇用（アルバイト・パートを含む）のため育児休業の取得要件を満たさなかった」が就学前児童では19.3ポイント、小学生では14.5ポイント高くなっています。

【母親：育休を取得していない理由】



(30)で「取得した(取得中である)」を選択した場合のみ回答

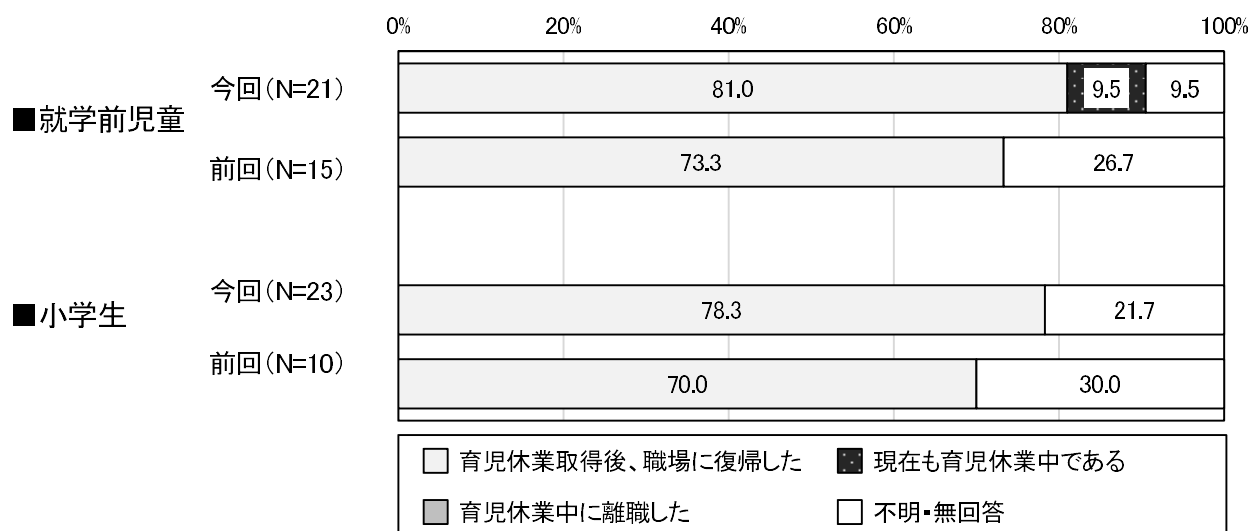
(30-1)育児休業取得後、職場に復帰しましたか。〈単数回答〉【就学前児童:問 29-1、小学生:問 19-1】

父親の育児休業後の職場復帰についてみると、就学前児童では「育児休業取得後、職場に復帰した」が81.0%、「現在も育児休業中である」が9.5%となっています。小学生では「育児休業取得後、職場に復帰した」が78.3%となっています。前回結果と比較した場合、就学前児童、小学生ともに「育児休業取得後、職場に復帰した」が若干高くなっています。

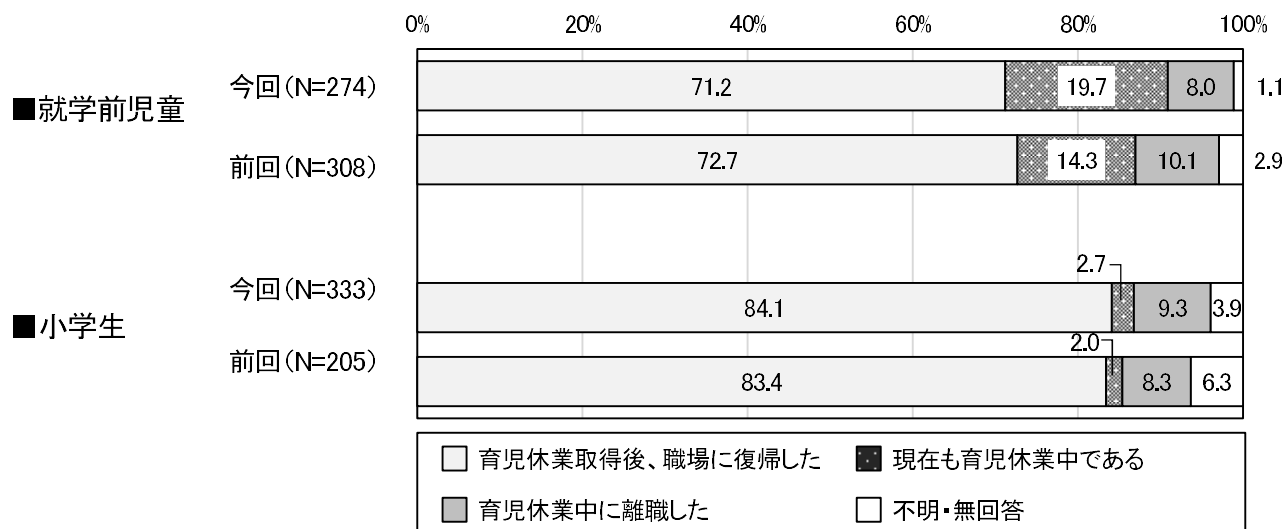
母親の育児休業の取得の有無についてみると、「育児休業取得後、職場に復帰した」が71.2%、「現在も育児休業中である」が19.7%、「育児休業中に離職した」が8.0%となっています。小学生では「育児休業取得後、職場に復帰した」が84.1%、「現在も育児休業中である」が2.7%、「育児休業中に離職した」が9.3%となっています。

就学前児童、小学生ともに、前回結果同様、母親では育児休業中の離職が1割程度みられます。

【父親の職場復帰の有無】



【母親の職場復帰の有無】

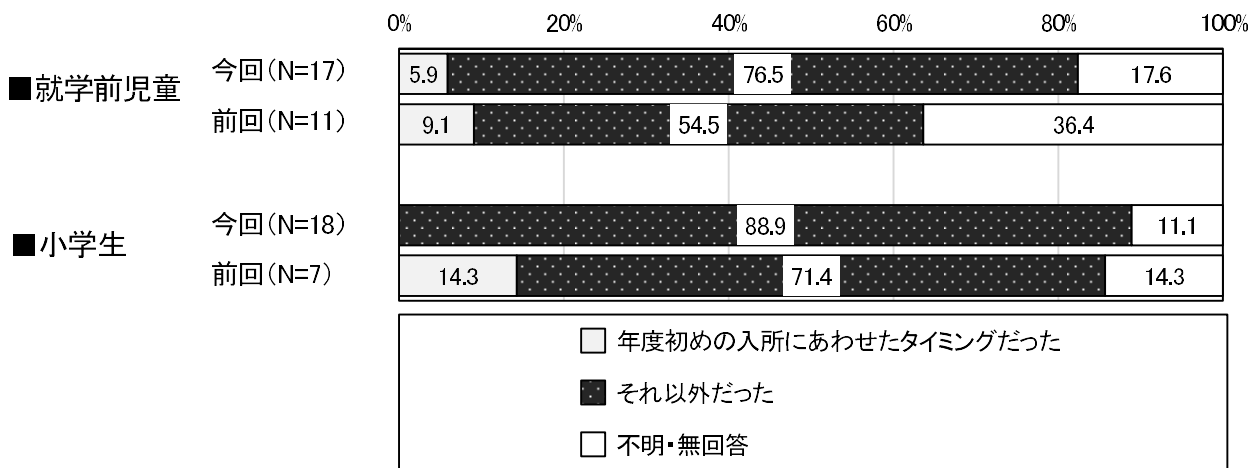


(30-1)で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した場合のみ回答

(30-2)育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所にあわせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。〈単数回答〉【就学前児童:問 29-2、小学生:問 19-2】

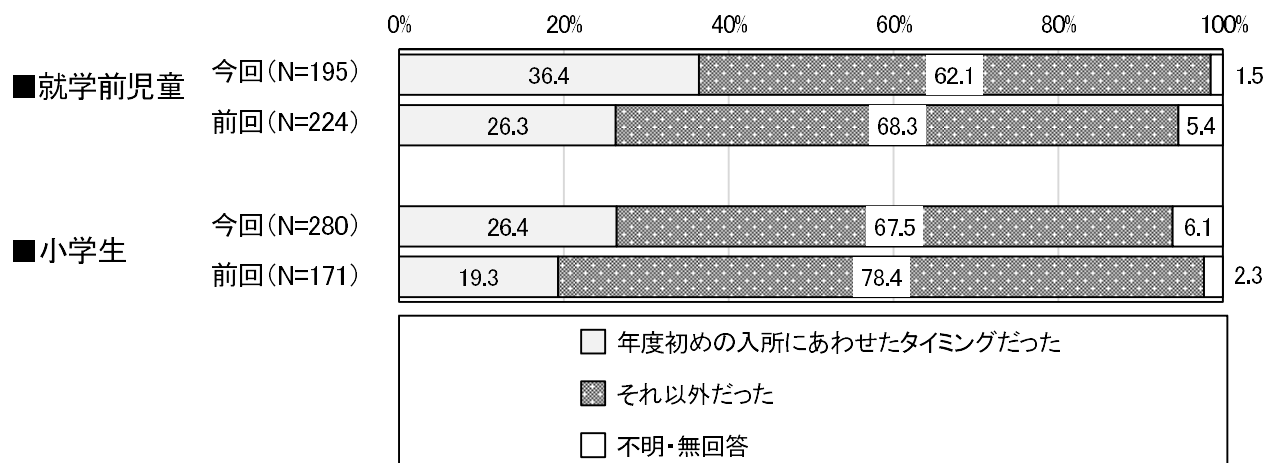
父親の育児休業後の職場復帰のタイミングについてみると、就学前児童では「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 5.9%、「それ以外だった」が 76.5%となっています。前回結果と比較した場合、大きな違いはみられません。小学生では「それ以外だった」が 88.9%となっています。前回結果と比較した場合、「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が低くなっています。

【父親の職場復帰のタイミング】



母親の育児休業後の職場復帰のタイミングについてみると、就学前児童では「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 36.4%、「それ以外だった」が 62.1%となっています。前回結果と比較した場合、「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 10.1 ポイント高くなっています。小学生では「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 26.4%、「それ以外だった」が 67.5%となっています。前回結果と比較した場合、「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 7.1 ポイント高くなっています。

【母親の職場復帰のタイミング】



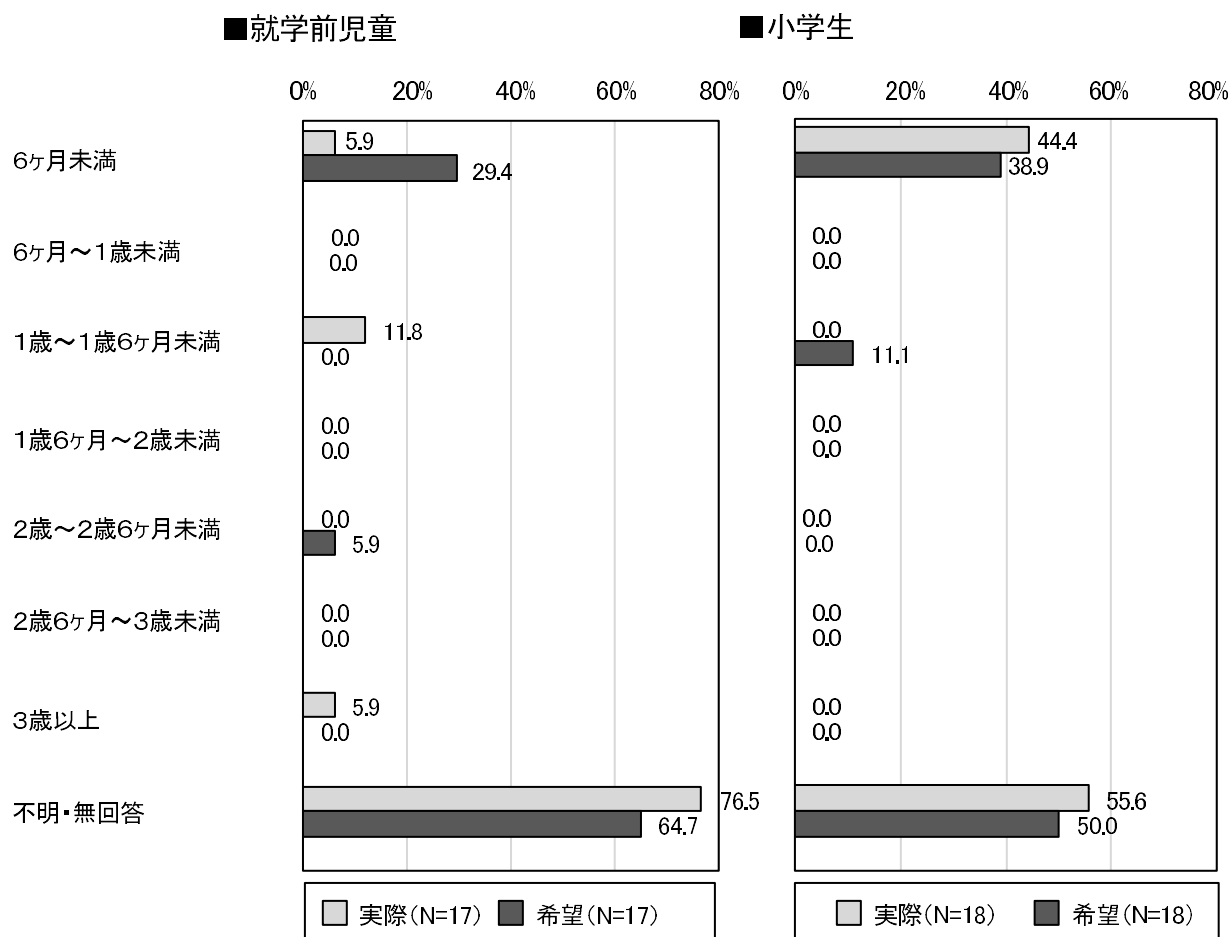
(30-1)で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した場合のみ回答

(30-3)育児休業からは、「実際に」お子さんが何歳何ヶ月の時に職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。〈数量回答〉【就学前児童:問 29-3、小学生:問 19-3】

父親の場合の、子どもが何歳何ヶ月の時に職場復帰したか、何歳何ヶ月まで育児休業を取得したかについてみると、就学前児童では、実際の復帰として「6ヶ月未満」が5.9%、「1歳～1歳6ヶ月未満」が11.8%、「3歳以上」が5.9%となっています。一方で、希望としては「6ヶ月未満」が29.4%、「2歳～2歳6ヶ月未満」が5.9%となっています。

小学生では、実際の復帰として「6ヶ月未満」が44.4%となっています。一方で、希望としては「6ヶ月未満」が38.9%、「1歳～1歳6ヶ月未満」が11.1%となっています。

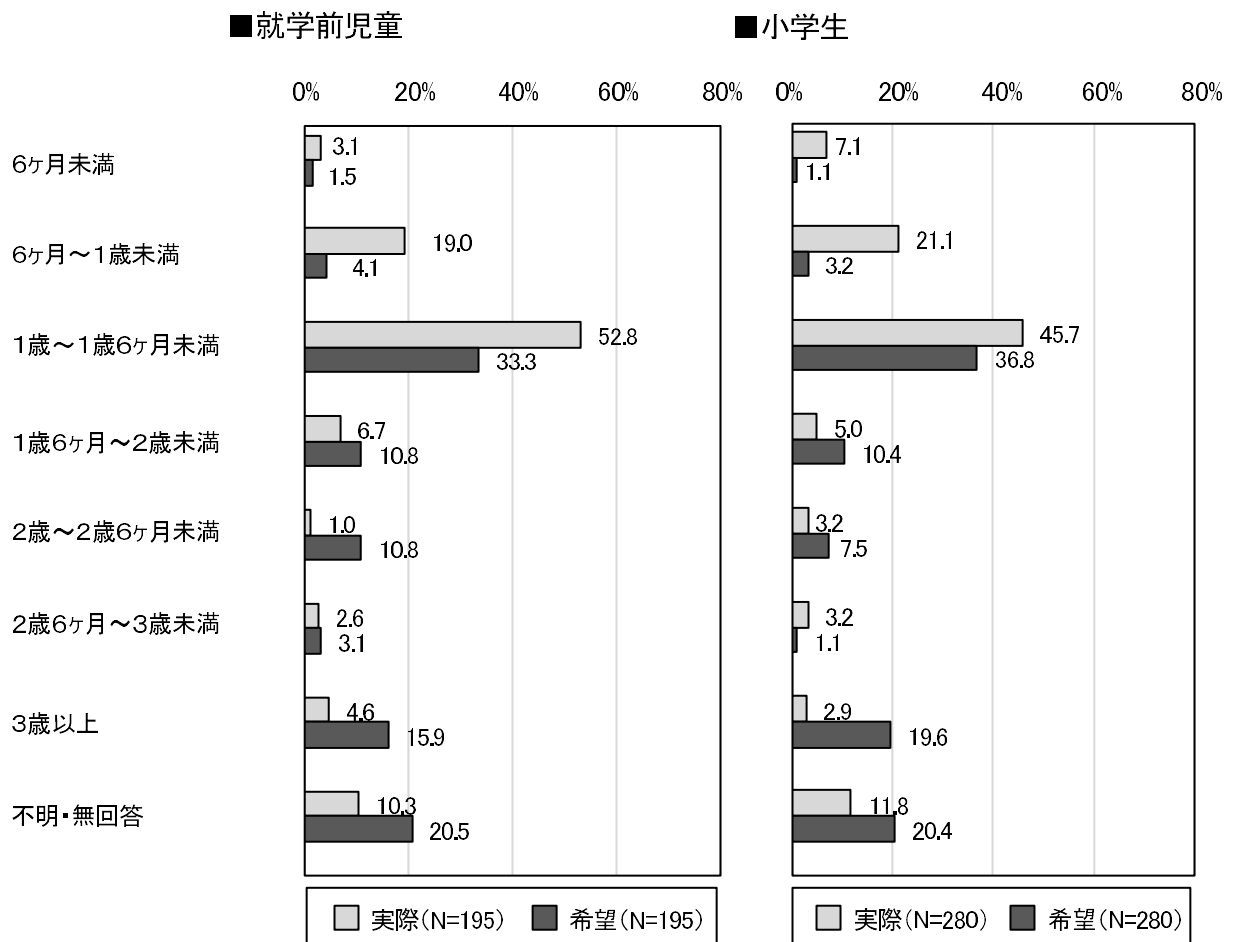
【父親:子どもが何歳何ヶ月の時に職場復帰したか、何歳何ヶ月まで育児休業を取得したかったか】



母親の場合、子どもが何歳何ヶ月の時に職場復帰したか、何歳何ヶ月まで育児休業を取得したかについてみると、就学前児童では、実際の復帰として「1歳～1歳6ヶ月未満」が52.8%で最も高く、次いで「6ヶ月～1歳未満」が19.0%となっています。一方で、希望としては「1歳～1歳6ヶ月未満」が33.3%で最も高く、次いで「3歳以上」が15.9%となっています。

小学生では、実際の復帰として「1歳～1歳6ヶ月未満」が45.7%で最も高く、次いで「6ヶ月～1歳未満」が21.1%となっています。一方で、希望としては「1歳～1歳6ヶ月未満」が36.8%で最も高く、次いで「3歳以上」が19.6%となっています。

【母親：子どもが何歳何ヶ月の時に職場復帰したか、何歳何ヶ月まで育児休業を取得したか】



(30-1)で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した場合のみ回答

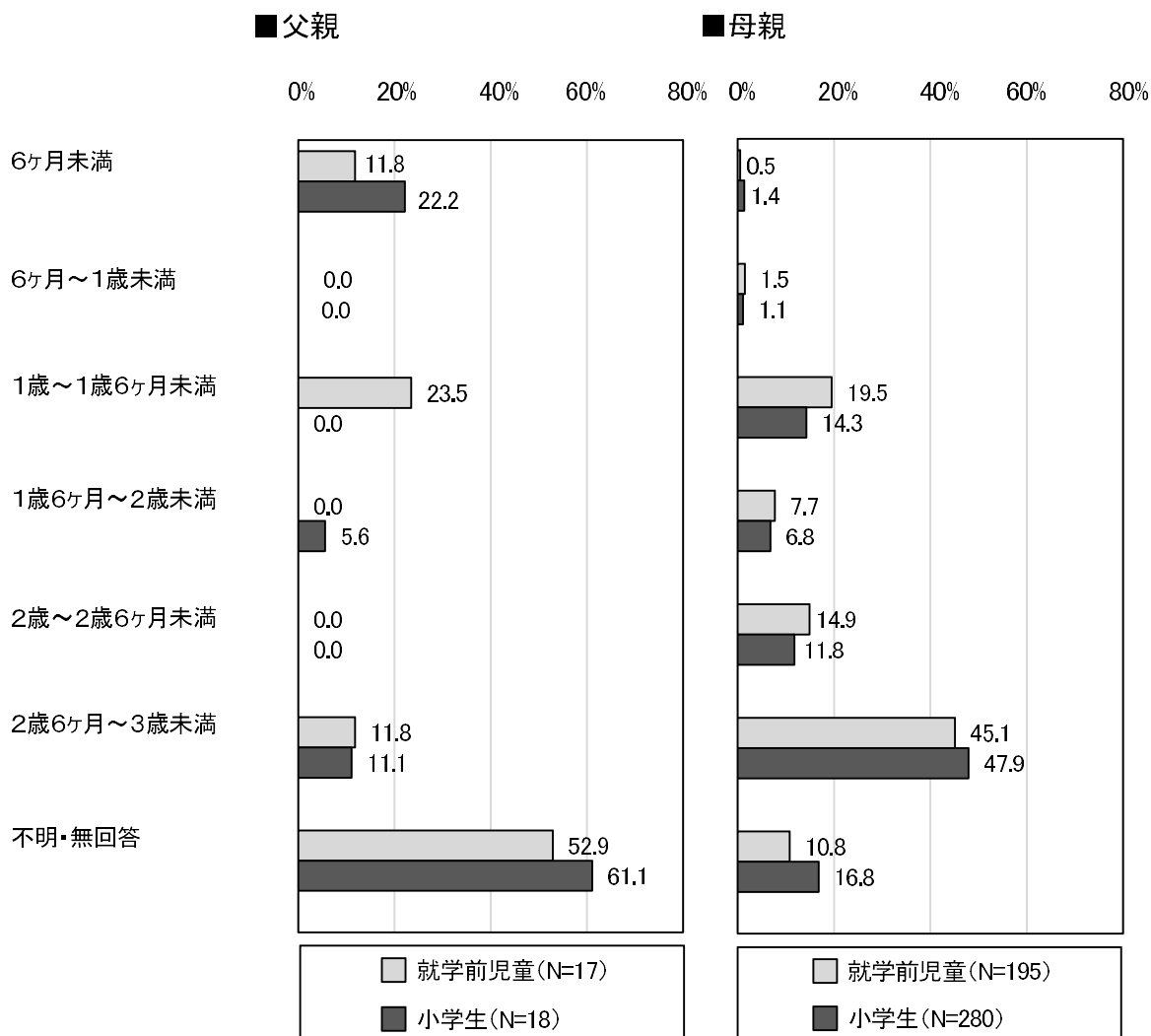
(30-4)お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。〈数量回答〉

【就学前児童:問 29-4、小学生:問 19-4】

父親について、子どもが3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、何歳まで取りたかったかについてみると、就学前児童では「1歳～1歳6ヶ月未満」が23.5%で最も高くなっています。小学生では、「6ヶ月未満」が22.2%で最も高くなっています。

母親について、子どもが3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、何歳まで取りたかったかについてみると、就学前児童では「2歳6ヶ月～3歳」が45.1%で最も高くなっています。小学生では、「2歳6ヶ月～3歳」が47.9%で最も高くなっています。

母親の場合、就学前児童、小学生ともに5割近くの人が「2歳6ヶ月～3歳」まで育児休業を取得することを希望しています。



(30-3)で実際の復帰と希望が異なる場合のみ回答

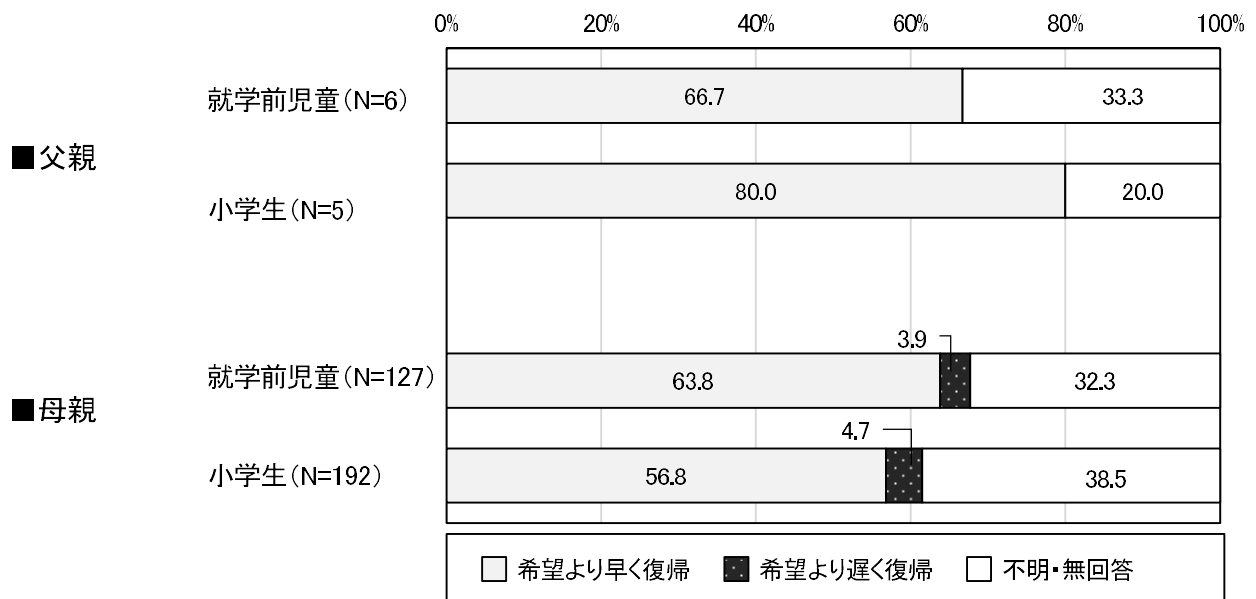
(30-5)①希望よりも早く復帰しましたか。または、遅く復帰しましたか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 29-5、小学生:問 19-5】

父親の場合の、実際の復帰と希望の比較についてみると、就学前児童では「希望より早く復帰」が66.7%となっています。小学生では、「希望より早く復帰」が80.0%となっています。

母親の場合の、実際の復帰と希望の比較についてみると、就学前児童では「希望より早く復帰」が63.8%、「希望より遅く復帰」が3.9%となっています。小学生では、「希望より早く復帰」が56.8%、「希望より遅く復帰」が4.7%となっています。

【実際の復帰と希望の比較】



(30-5)②希望より早く復帰した理由を教えてください。〈複数回答〉

【就学前児童:問 29-5、小学生:問 19-5】

父親の場合の、希望より早く復帰した理由についてみると、就学前児童では「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が25.0%、「その他」が25.0%となっています。小学生では、「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が75.0%、「配偶者や家族の希望があったため」が50.0%、「その他」が25.0%となっています。

母親の場合の、希望より早く復帰した理由についてみると、就学前児童では「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が39.5%で最も高く、次いで「その他」が30.9%、「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が22.2%となっています。小学生では、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が33.0%で最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が31.2%、「その他」が28.4%となっています。

【就学前児童:希望より早く復帰した理由】

	父親(N=4)		母親(N=81)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入るため	0	0.0	13	16.0
配偶者や家族の希望があったため	0	0.0	0	0.0
経済的な理由で早く復帰する必要があったため	1	25.0	18	22.2
人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	0	0.0	32	39.5
その他	1	25.0	25	30.9
不明・無回答	2	50.0	6	7.4

【小学生:希望より早く復帰した理由】

	父親(N=4)		母親(N=109)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入るため	0	0.0	16	14.7
配偶者や家族の希望があったため	2	50.0	2	1.8
経済的な理由で早く復帰する必要があったため	3	75.0	34	31.2
人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	0	0.0	36	33.0
その他	1	25.0	31	28.4
不明・無回答	0	0.0	10	9.2

(30-5)②希望より遅く復帰した理由を教えてください。〈複数回答〉

【就学前児童:問 29-5、小学生:問 19-5】

母親の場合の、希望より遅く復帰した理由についてみると、就学前児童では「希望する保育所に入れなかったため」が 40.0%、「その他」が 20.0%となっています。小学生では、「配偶者や家族の希望があったため」「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」「子どもをみってくれる人がいなかったため」がそれぞれ 22.2%、「希望する保育所に入れなかったため」「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」がそれぞれ 11.1%となっています。

【就学前児童:希望より遅く復帰した理由】

	父親(N=0)		母親(N=5)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入れなかったため	0	0.0	2	40.0
自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため	0	0.0	0	0.0
配偶者や家族の希望があったため	0	0.0	0	0.0
職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	0	0.0	0	0.0
子どもをみってくれる人がいなかったため	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	1	20.0
不明・無回答	0	0.0	2	40.0

【小学生:希望より遅く復帰した理由】

	父親(N=0)		母親(N=9)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入れなかったため	0	0.0	1	11.1
自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため	0	0.0	1	11.1
配偶者や家族の希望があったため	0	0.0	2	22.2
職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	0	0.0	2	22.2
子どもをみってくれる人がいなかったため	0	0.0	2	22.2
その他	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	1	11.1

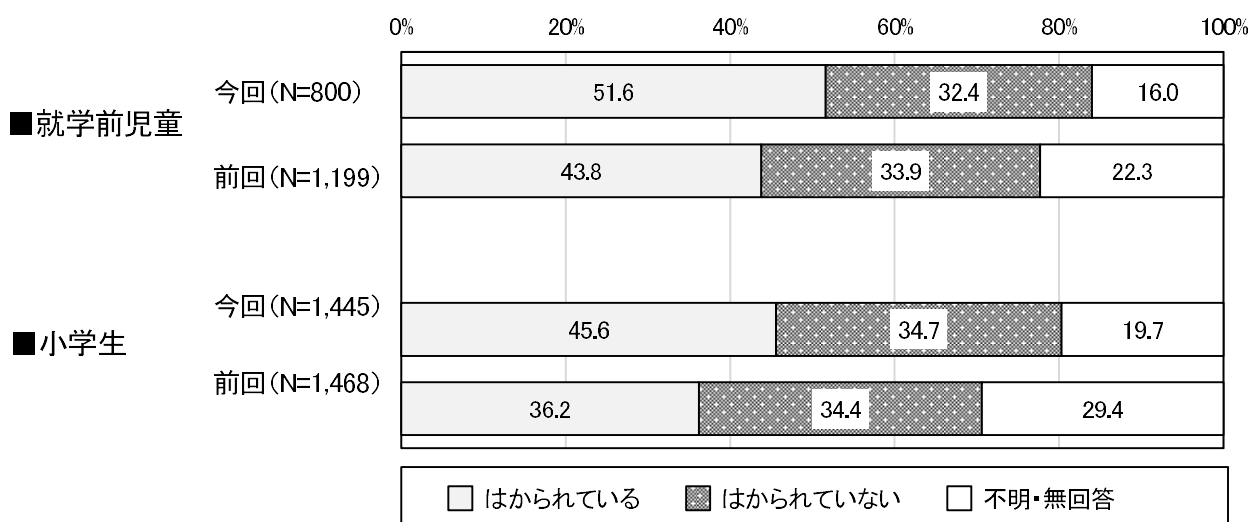
(31)子どもと一緒に時間や親の介護、自己実現のための時間が十分に取れている(仕事と生活の調和がはかられている)と思いますか。〈単数回答〉【就学前児童:問 30、小学生:問 20】

父親の場合の、仕事と生活の調和についてみると、就学前児童では「はかられている」が51.6%、「はかられていない」が32.4%となっています。小学生では「はかられている」が45.6%、「はかられていない」が34.7%となっています。前回結果と比較した場合、「はかられている」が就学前児童で7.8ポイント、小学生で9.4ポイント高くなっています。

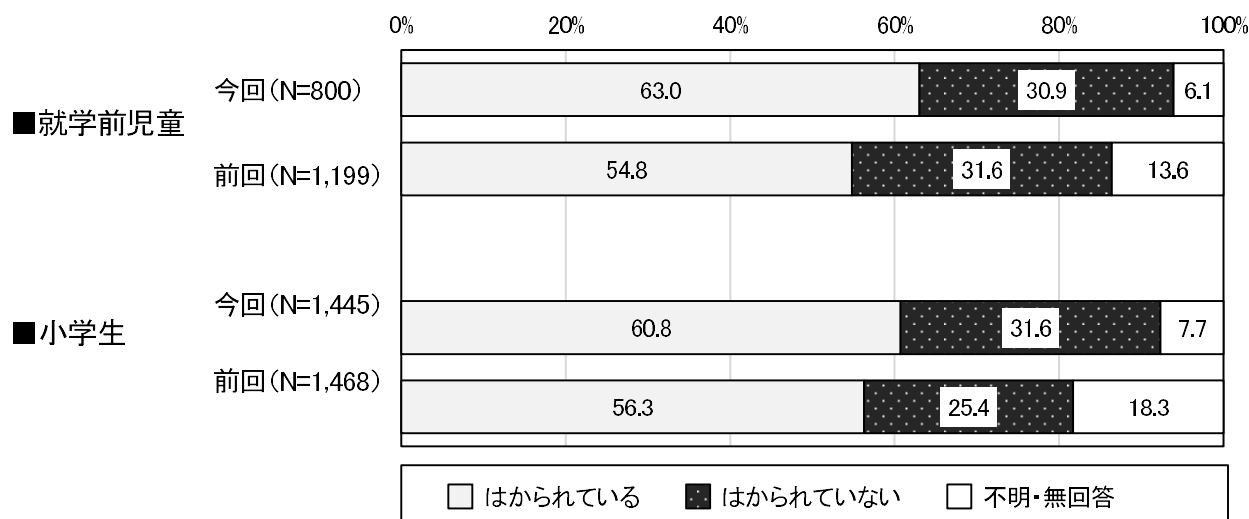
母親の場合の、仕事と生活の調和についてみると、就学前児童では「はかられている」が63.0%、「はかられていない」が30.9%となっています。小学生では「はかられている」が60.8%、「はかられていない」が31.6%となっています。前回結果と比較した場合、小学生で「はかられていない」が6.2ポイント高くなっています。

就学前児童、小学生ともに、父親、母親いずれも「はかられている」の割合が上昇していますが、「はかられていない」もほとんど変わっていません。一方で「不明・無回答」が減少していることから、仕事と家庭の調和について考え、意識する機会が増えていることがうかがえます。

【父親:仕事と生活の調和】



【母親:仕事と生活の調和】

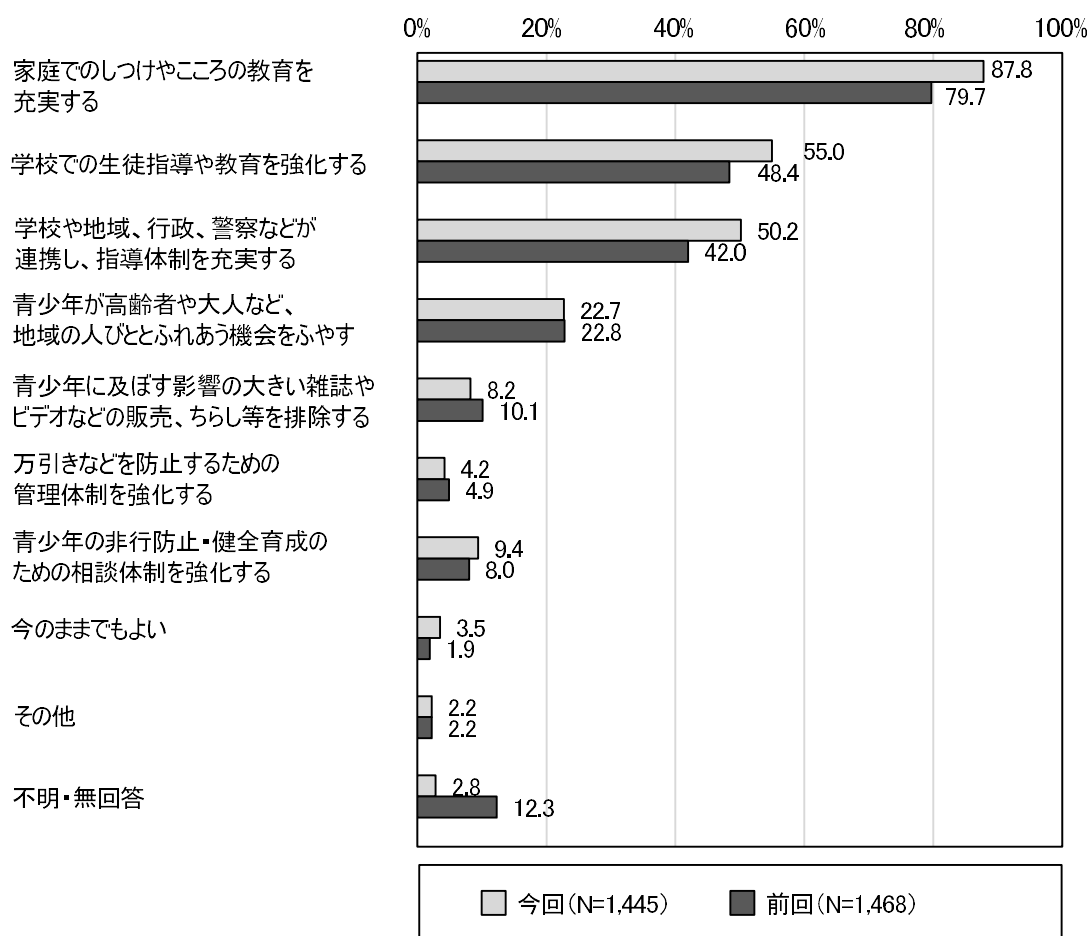


2-12 お子さんの安全について

(32)子どもの健全育成や非行防止のために、どのようなことに力をいれるべきだと思いますか。

〈複数回答〉【小学生:問21】

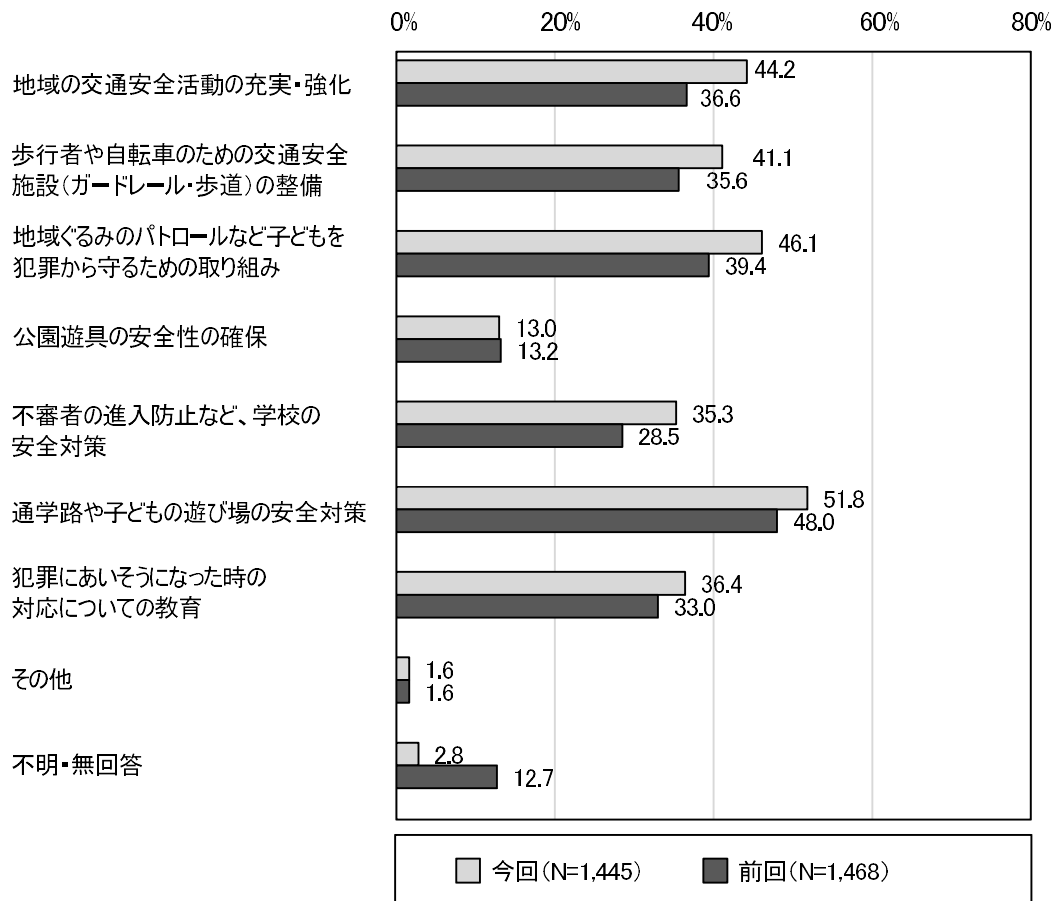
子どもの健全育成や非行防止のために注力すべきことについてみると、「家庭でのしつけやこころの教育を充実する」が87.8%で最も高く、次いで「学校での生徒指導や教育を強化する」が55.0%、「学校や地域、行政、警察などが連携し、指導体制を充実する」が50.2%となっています。前回結果と比較した場合、「学校や地域、行政、警察などが連携し、指導体制を充実する」が8.2ポイント、「家庭でのしつけやこころの教育を充実する」が8.1ポイント、「学校での生徒指導や教育を強化する」が6.6ポイント高くなっています。



(33)子どもの安全を守るために、特に重要と思われることは次のうちどれですか。〈複数回答〉

【小学生:問22】

子どもの安全を守るために特に重要と思われることについてみると、「通学路や子どもの遊び場の安全対策」が51.8%で最も高く、次いで「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み」が46.1%、「地域の交通安全活動の充実・強化」が44.2%となっています。前回結果と比較した場合、ほぼ全ての項目の割合が上昇しており、子どもの安全・安心に対する関心が高いことがうかがえます。



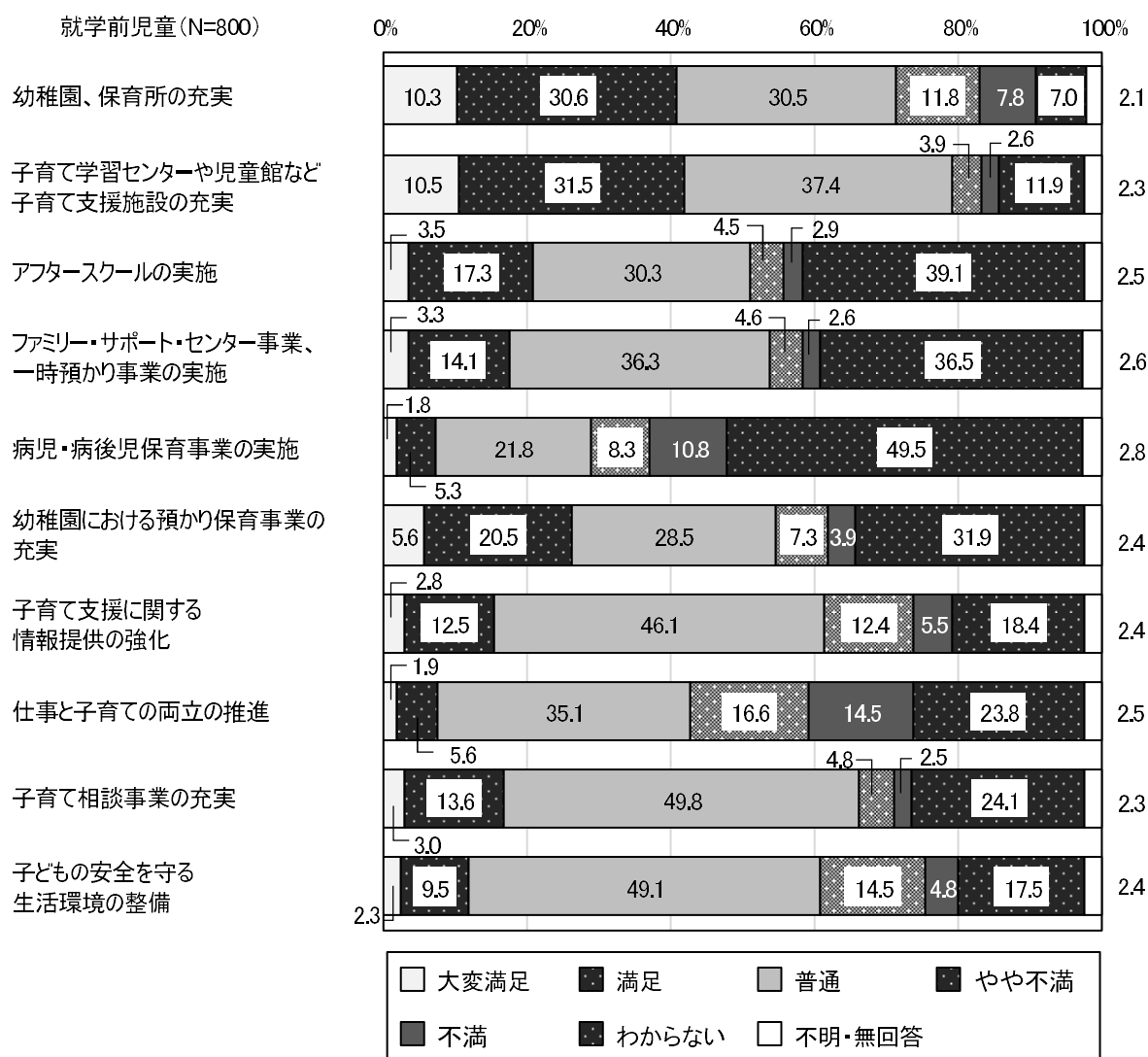
2-13 赤穂市での子育てについて

(34)子育てに関する分野のうち、行政の取り組みに対してどのように感じていますか。

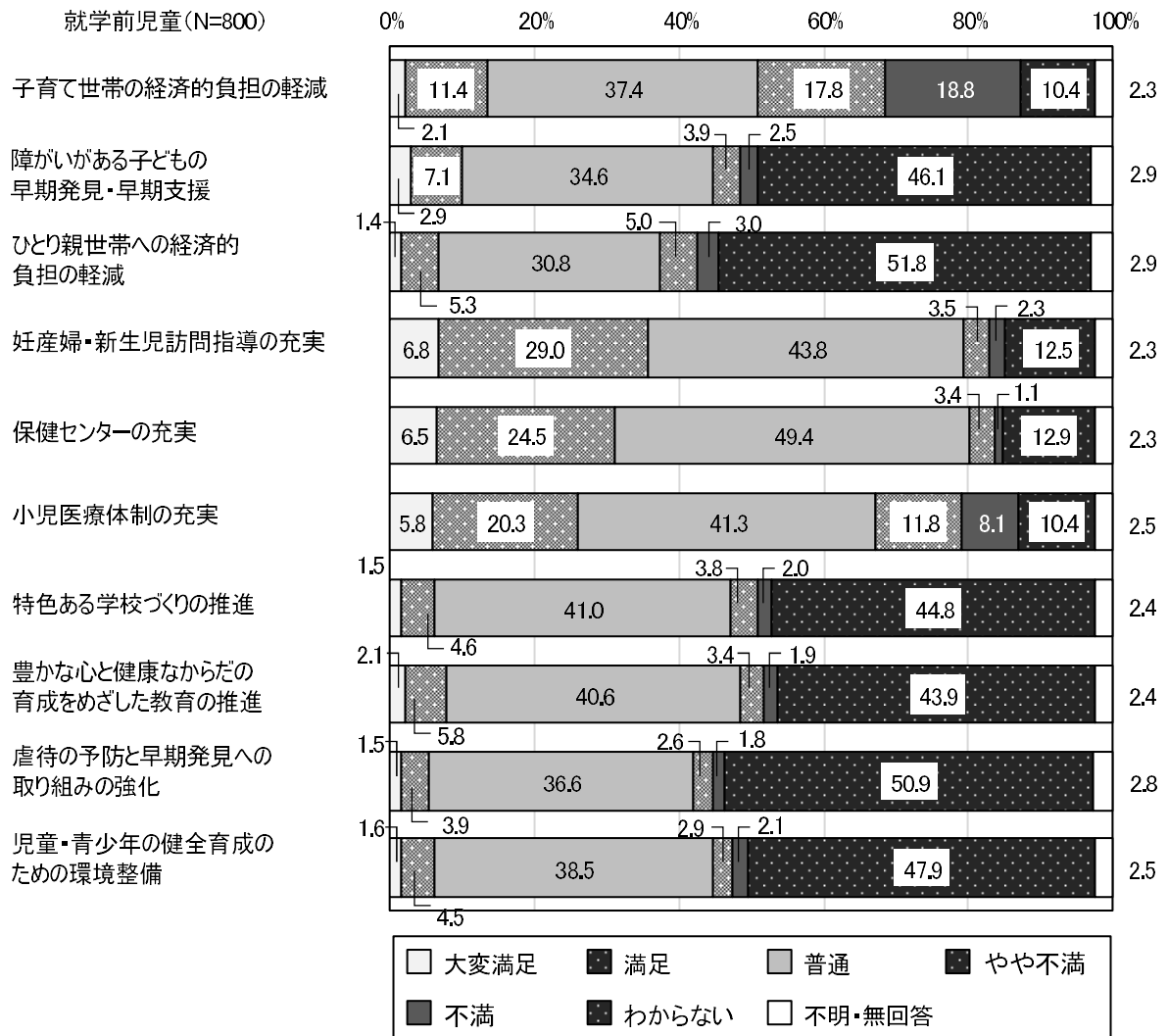
〈単数回答〉【就学前児童:問 31、小学生:問 23】

行政の取り組みに対する評価についてみると、就学前児童では、『満足している』（「大変満足」と「満足」の合算）が〔子育て学習センターや児童館など子育て支援施設の充実〕で42.0%、〔幼稚園、保育所の充実〕で40.9%、〔妊産婦・新生児訪問指導の充実〕で35.8%と高くなっています。一方で、『不満を感じている』（「不満」と「やや不満」の合算）が〔子育て世帯の経済的負担の軽減〕や〔仕事と子育ての両立の推進〕において3割程度となっています。

【就学前児童①】

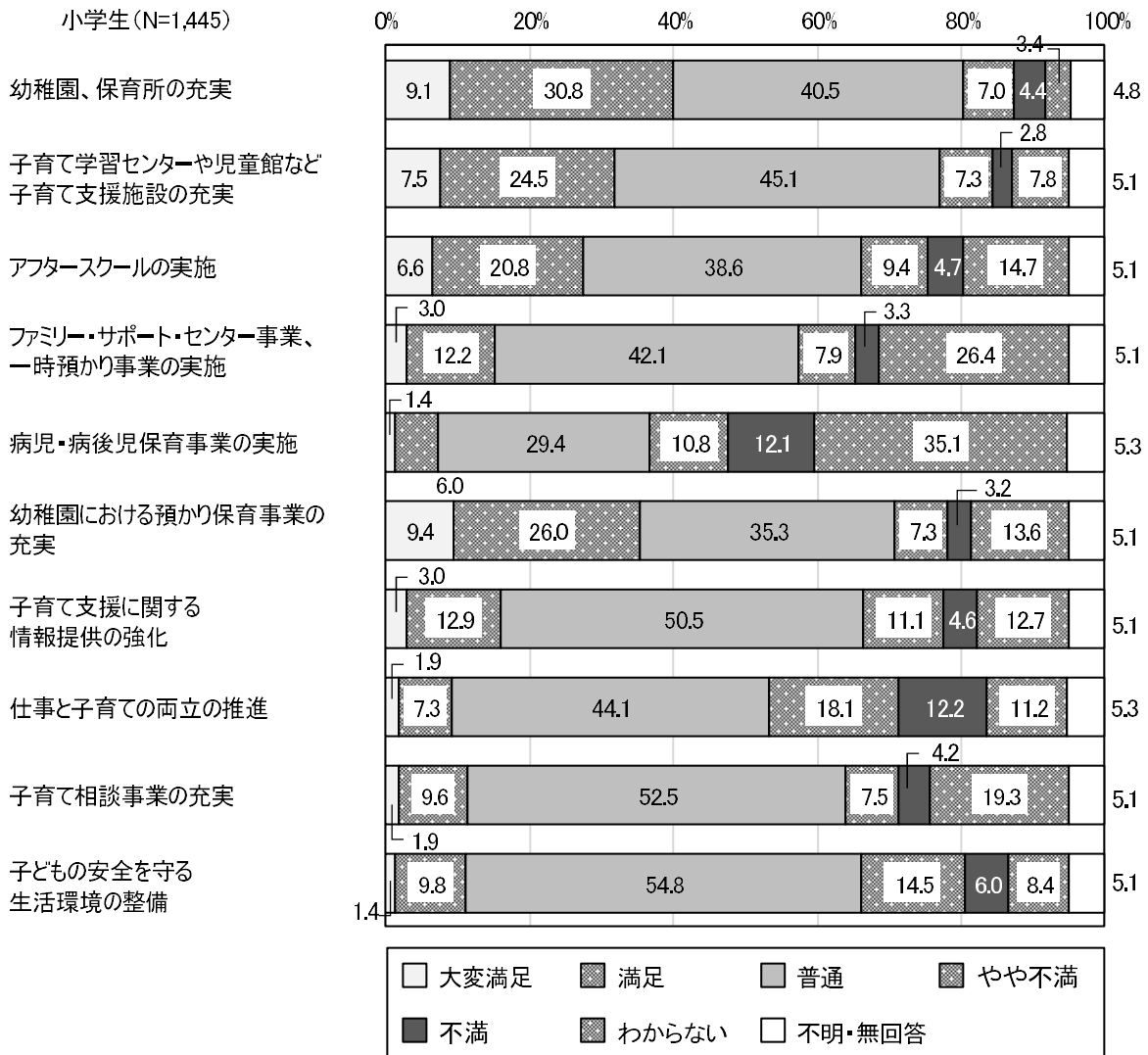


【就学前児童②】

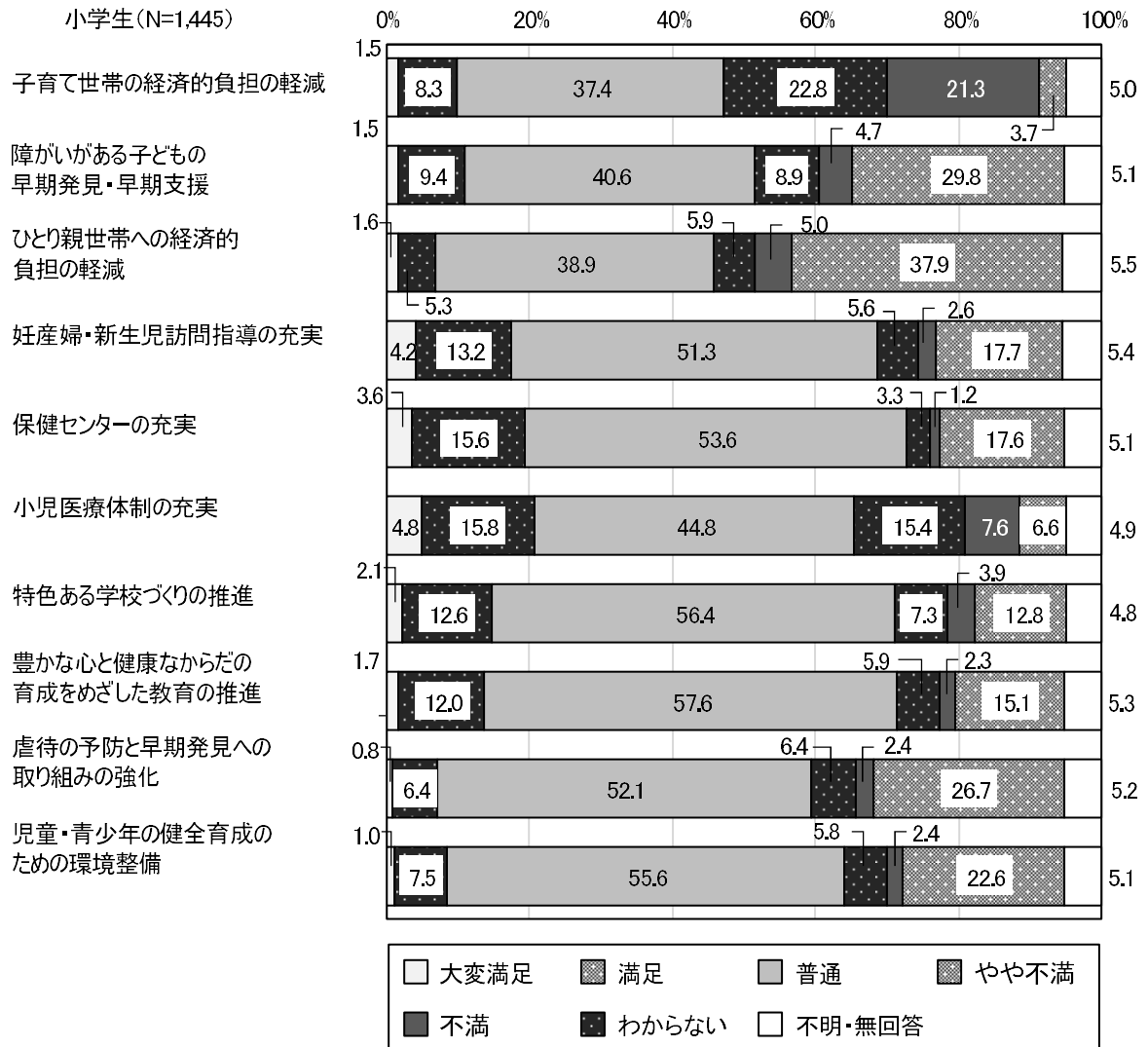


小学生では、『満足している』（「大変満足」と「満足」の合算）が〔幼稚園、保育所の充実〕で39.9%、〔幼稚園における預かり保育事業の充実〕で35.4%と高くなっています。一方で、『不満を感じている』（「不満」と「やや不満」の合算）が〔子育て世帯の経済的負担の軽減〕で44.1%、〔仕事と子育ての両立の推進〕で30.3%と高くなっています。

【小学生①】



【小学生②】



【参考:『満足』が高い順に並べた場合】

順位	就学前児童		小学生	
	項目	『満足』	項目	『満足』
1	子育て学習センターや児童館など 子育て支援施設の充実	42.0%	幼稚園、保育所の充実	39.9%
2	幼稚園、保育所の充実	40.9%	幼稚園における預かり保育事業の 充実	35.4%
3	妊産婦・新生児訪問指導の充実	35.8%	子育て学習センターや児童館など 子育て支援施設の充実	32.0%
4	保健センターの充実	31.0%	アフタースクールの実施	27.4%
5	幼稚園における預かり保育事業の 充実	26.1%	小児医療体制の充実	20.6%
6	小児医療体制の充実	26.1%	保健センターの充実	19.2%
7	アフタースクールの実施	20.8%	妊産婦・新生児訪問指導の充実	17.4%
8	ファミリー・サポート・センター事業、 一時預かり事業の実施	17.4%	子育て支援に関する情報提供の 強化	15.9%
9	子育て相談事業の充実	16.6%	ファミリー・サポート・センター事業、 一時預かり事業の実施	15.2%
10	子育て支援に関する情報提供の 強化	15.3%	特色ある学校づくりの推進	14.7%
11	子育て世帯の経済的負担の軽減	13.5%	豊かな心と健康なからだの育成を めざした教育の推進	13.7%
12	子どもの安全を守る生活環境の 整備	11.8%	子育て相談事業の充実	11.5%
13	障がいがある子どもの早期発見・ 早期支援	10.0%	子どもの安全を守る生活環境の 整備	11.2%
14	豊かな心と健康なからだの育成を めざした教育の推進	7.9%	障がいがある子どもの早期発見・ 早期支援	11.0%
15	仕事と子育ての両立の推進	7.5%	子育て世帯の経済的負担の軽減	9.8%
16	病児・病後児保育事業の実施	7.1%	仕事と子育ての両立の推進	9.2%
17	ひとり親世帯への経済的 負担の軽減	6.7%	児童・青少年の健全育成のための 環境整備	8.5%
18	特色ある学校づくりの推進	6.1%	病児・病後児保育事業の実施	7.4%
19	児童・青少年の健全育成のための 環境整備	6.1%	虐待の予防と早期発見への 取り組みの強化	7.2%
20	虐待の予防と早期発見への 取り組みの強化	5.4%	ひとり親世帯への経済的 負担の軽減	6.8%

※『満足』は「大変満足」「満足」を合算した値です。

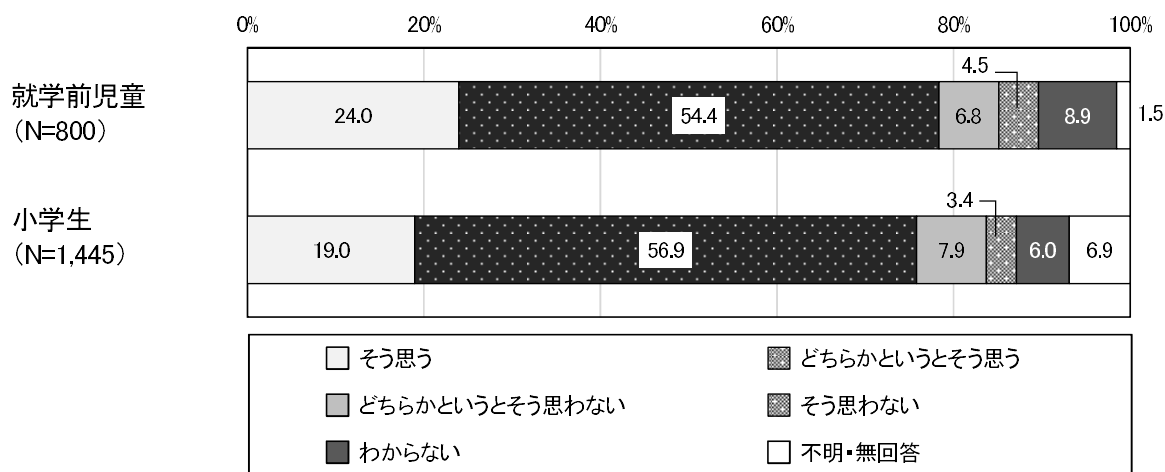
(35)赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思いますか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 32、小学生:問 24】

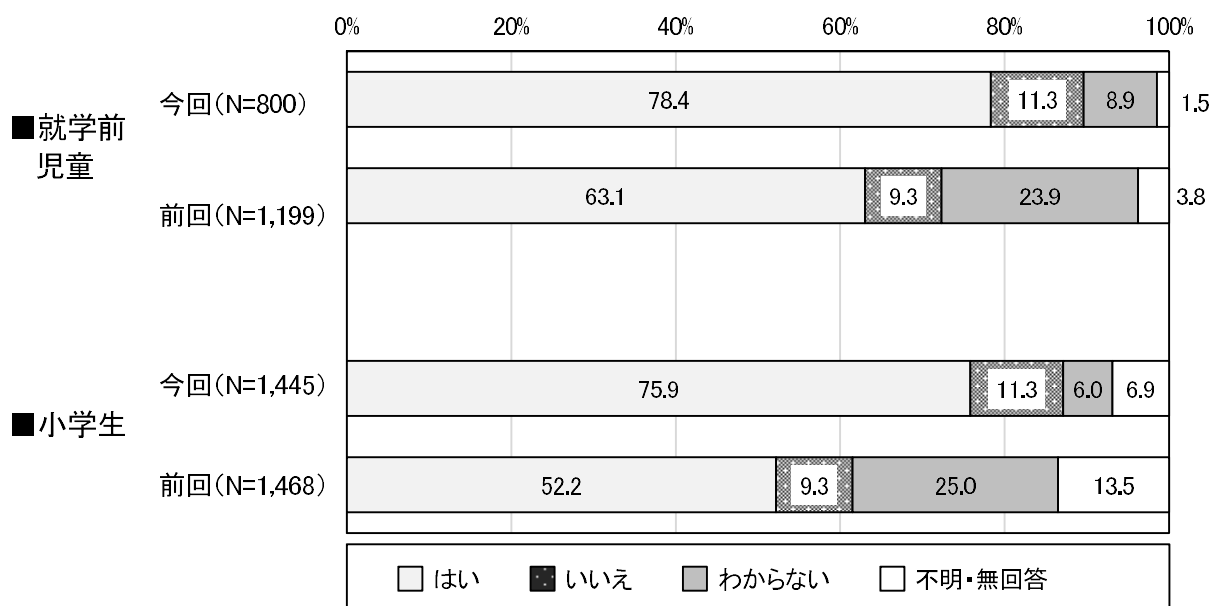
赤穂市は子育てしやすい環境にあると思うかについてみると、就学前児童では「どちらかというと思う」が54.4%で最も高く、次いで「そう思う」が24.0%、「わからない」が8.9%となっています。

小学生では「どちらかというと思う」が56.9%で最も高く、次いで「そう思う」が19.0%、「どちらかというと思わない」が7.9%となっています。

前回調査と比べ、就学前児童では、『はい』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合算）が15.3ポイント高く、『いいえ』（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合算）も2.0ポイント高くなっています。また、小学生では、『はい』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合算）が23.7ポイント高く、『いいえ』（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合算）も2.0ポイント高くなっています。



【参考:前回結果との比較】

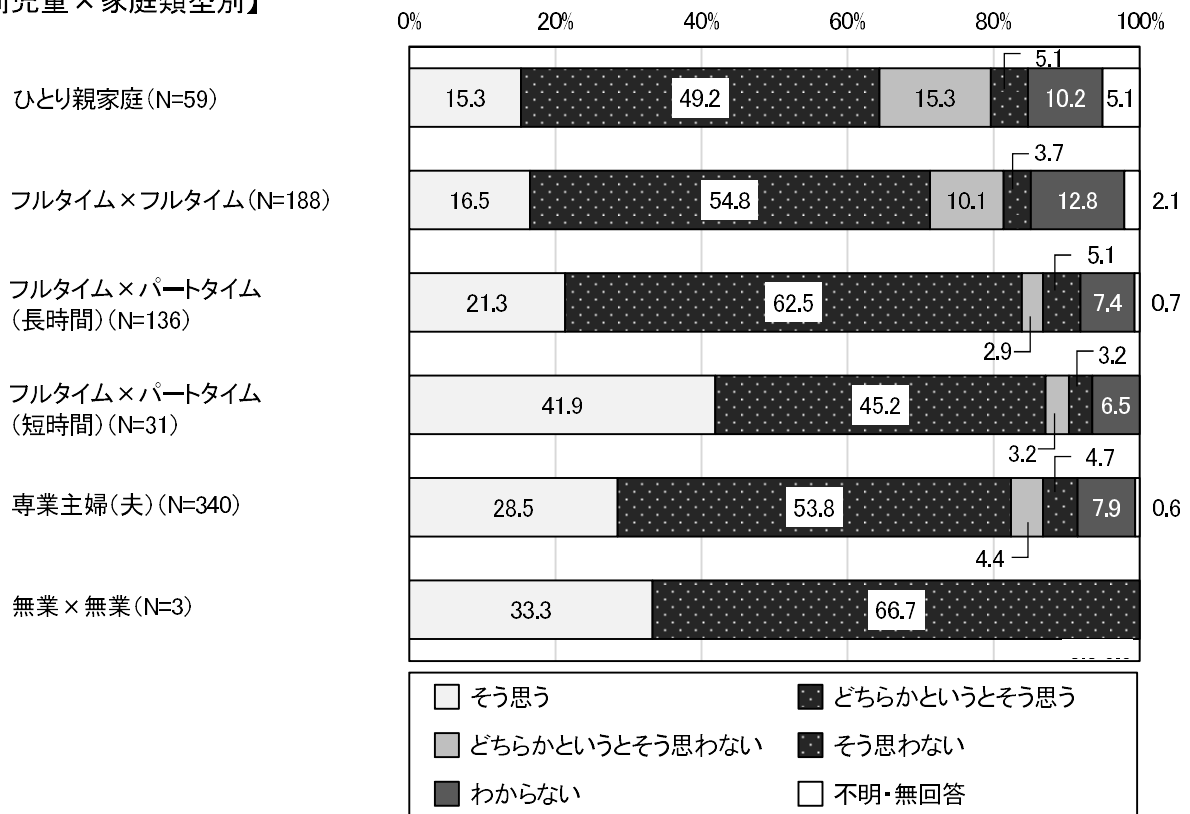


※前回結果と比較を行うために、今回結果の選択肢「そう思う」「どちらかというと思う」の合算を『はい』、選択肢「そう思わない」「どちらかというと思わない」の合算を『いいえ』としています。

★(35)×家庭類型別

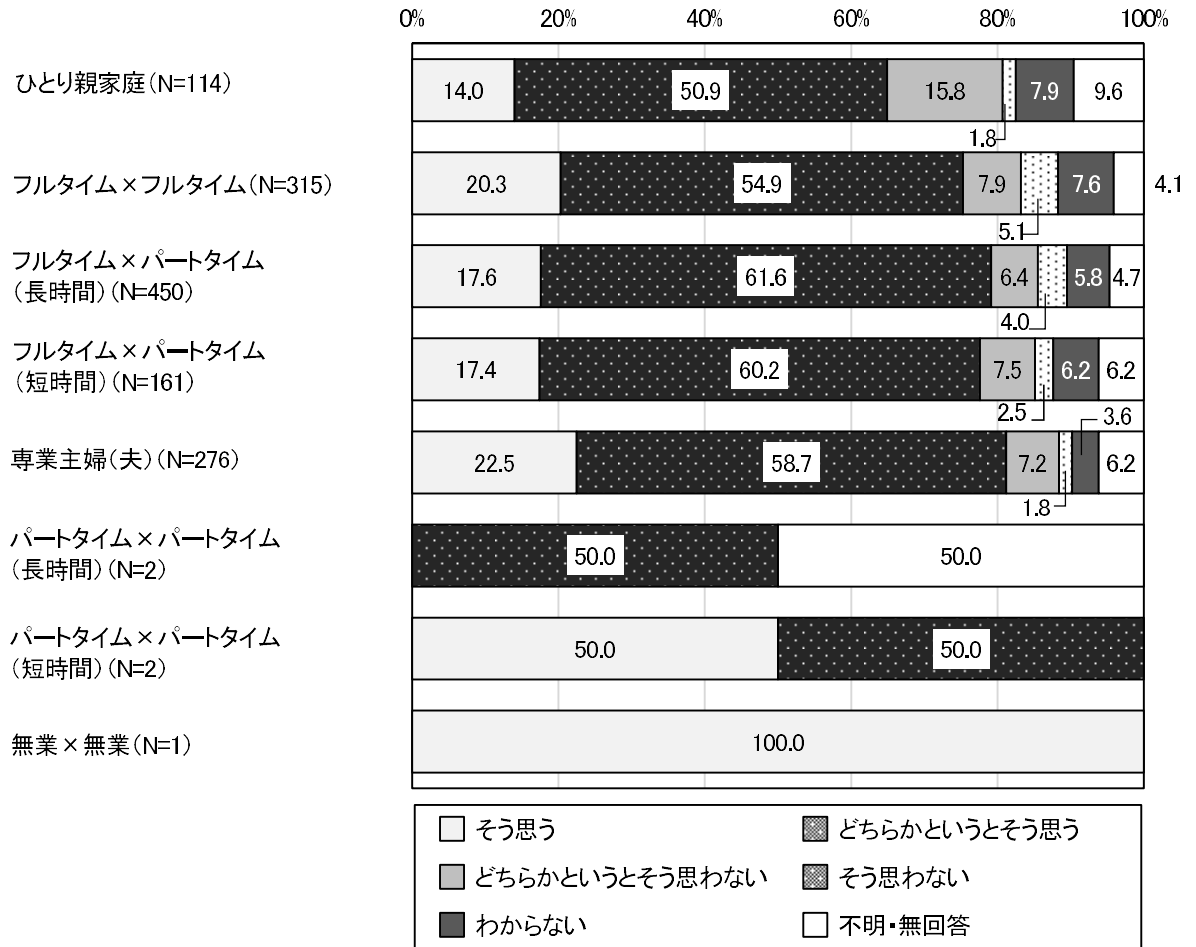
家庭類型別でみると、就学前児童、小学生ともに〔フルタイム×パートタイム（長時間）〕〔フルタイム×パートタイム（短時間）〕〔専業主婦（夫）〕の場合に『子育てしやすいと思う』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合算）が8割程度となっている一方で、〔ひとり親家庭〕の場合は6割程度まで減少し、『子育てしやすいとは思わない』（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合算）が2割程度まで上昇しています。

【就学前児童×家庭類型別】



※就学前児童は〔パートタイム×パートタイム(長時間)〕〔パートタイム×パートタイム(短時間)〕の有効回答はありません。

【小学生×家庭類型別】



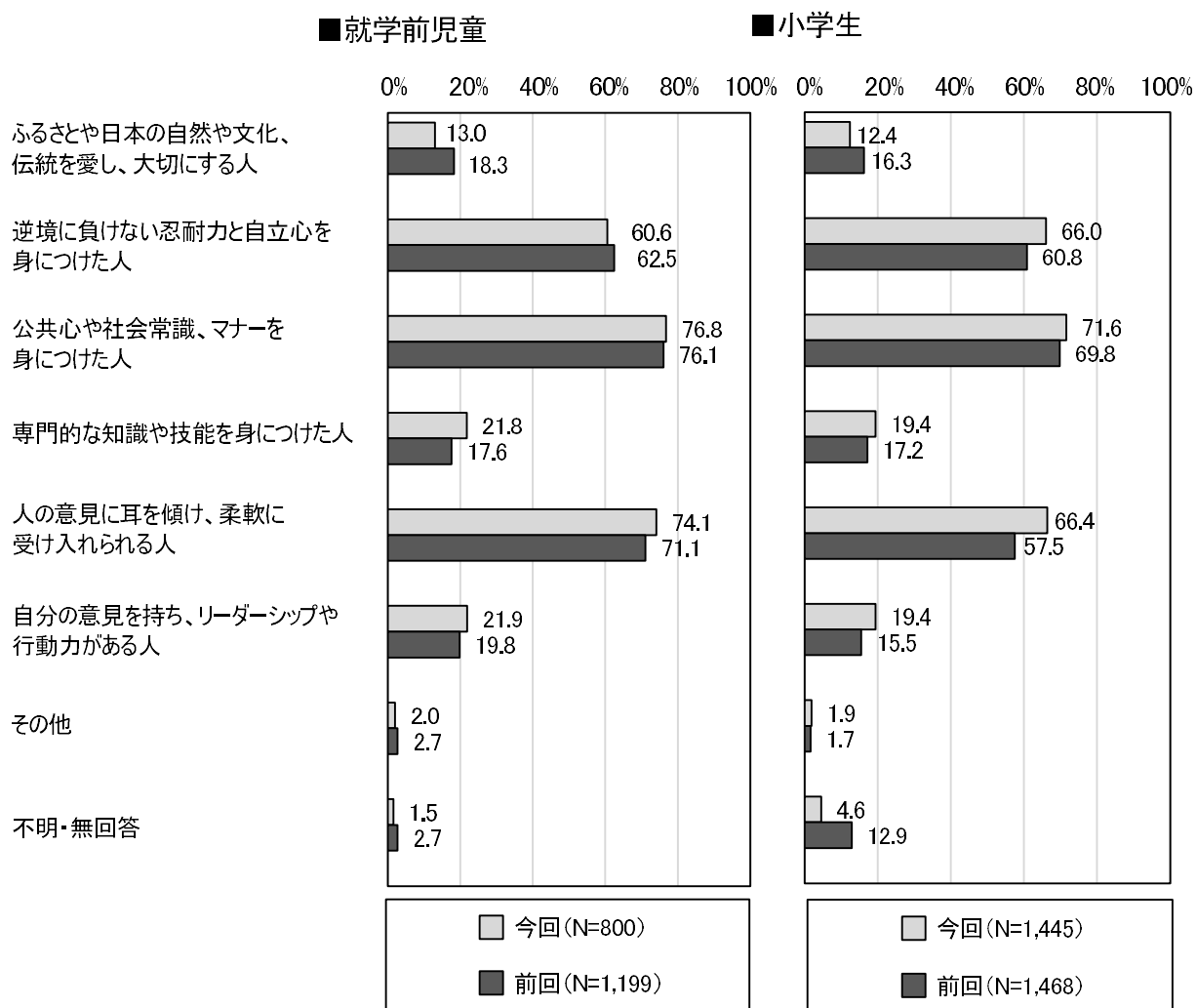
(36)将来、お子さんにどのような人に育ってほしいと思いますか。〈複数回答〉

【就学前児童:問 33、小学生:問 25】

将来どのような人に育ってほしいかについてみると、就学前児童では「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」が76.8%で最も高く、次いで「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が74.1%、「逆境に負けない忍耐力と自立心を身につけた人」が60.6%となっています。前回結果と比較した場合、「ふるさとや日本の自然や文化、伝統を愛し、大切にする人」が若干低くなっています。

小学生では「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」が71.6%で最も高く、次いで「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が66.4%、「逆境に負けない忍耐力と自立心を身につけた人」が66.0%となっています。前回結果と比較した場合、「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が若干高くなっています。

就学前児童、小学生ともに「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」の割合が最も高くなっています。

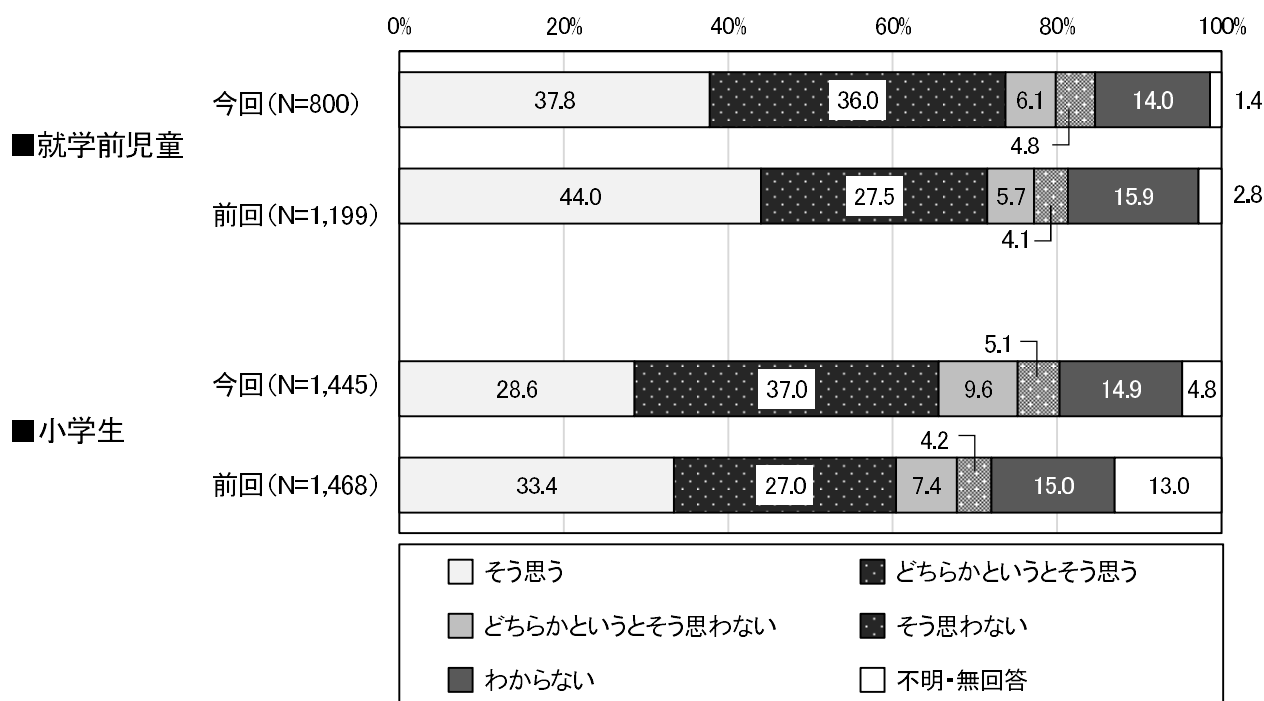


(37)あなたは、これからもお子さんに赤穂市で育ててほしいと思いますか。〈単数回答〉

【就学前児童:問 34、小学生:問 26】

これからも子どもに赤穂市で育ててほしいかについてみると、就学前児童では「そう思う」が37.8%で最も高く、次いで「どちらかというと思う」が36.0%、「わからない」が14.0%となっています。

小学生では「どちらかというと思う」が37.0%で最も高く、次いで「そう思う」が28.6%、「わからない」が14.9%となっています。前回結果と比較した場合、就学前児童、小学生ともに「そう思う」が若干低くなっています。



赤穂市 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査 結果報告書

発行年月:平成31年3月

編集発行:赤穂市

住 所:〒678-0292 兵庫県赤穂市加里屋 81 番地

電話番号:0791-43-6808 ファックス:0791-45-3396